日米通信　**小田実、「河」＃３、進也のコメント。財政相、ポールソン。**

October 01, 2008
ＥＴＳ：9月２９、３０日。

★新潟の襄から。

とむさん

今日のＢＬＯＧは内容が多くて、朝の慌ただしい時間では
全体を眺めるだけでもままならず、大急ぎで出勤しました。
帰宅してからゆっくり読みました。

アラタさんのお姉さんに（註：マリアン・アラタ・シェッペルマン）関する記事は、殊更興味深く読みました。
コメントにもありましたが、美しい方でしたね。
お婆ちゃんになってからも、とっても可愛らしい。
私達が子どもの頃テレビや雑誌で垣間見て憧れた、豊かなアメリカの
愛に満ちた家族の肖像です。
１４人の子どもというのは、当時であっても珍しかったのでしょうね。
一人二人で手一杯の状態の私たちには想像できません。

学校で古い卒業生名簿が残っていてそれを開いて見たことがありましたが、
卒業生に「九男」とか「十男」とかの記載がざらでした。
ということは当然女の子どもも居た訳ですから、２０人近い兄弟
ということになりそうで、驚きました。
それを思い出しました。

金さんの通信は、全くその通りだと思いました。
ことに最後、小泉の世襲に関する件は同感です。
私としては、大暴れをしてスッパリと辞めたことで、小泉が伝説の宰相に
なってしまうのが嫌でしたので、馬脚を現した今回の世襲劇は、
「それ見たことか」という気分。

総選挙は何時になるんだろう？？

★　東京のしんやから。

●人間には、個人差はあると思うが体に適した環境があるのだと思う。昨日から急速に気温が下がり、秋らしくな

った。着るものを取り替えたり、蒲団を増やしたり、対応に忙しかったが、健康状態はよくなった。体のだるさはなくなったし、何よりも食欲が出てきた。僕には暑い夏はどうしても適応しにくく、過ぎ去るのを待つ時期になる。誰でもそうかもしれないが、２０度前後がいちばん楽だ。冷えやすい体質だが、それでも気温は低いほうが具合がよい。

最近、カジノの広告がやたらと入ってくる。くずメールが倍増した。明日午前中にもう一度メールを書く。進也、２０時

●ブログ、興味ぶかく読んでいる。僕の場合は紙の上のことだが、君は実地の経験だ。小田実の『河』には朝鮮と対比してアイルランドが出てくる。重夫の英語教師がアイルランドの女性。そして彼女が自分たちの共通性を隣国による侵略だという。そのアイルランドに君は行っているのだから。いまにして思えば、机を並べて学んだことはあっても僕らは非常に遠いところにいた。

昨日は時間がなくてメールが中途半端になった。ノートンのセキュリティが割り込んできてチェックを始めたからだ。６万通のチェックで不審メールは１通だけ。こんなことをやっていてもむだみたいだがしかたない。

日曜のラジオ番組に長田弘という詩人が出てきた。君に１冊彼の本をおいてきたはずだ。読書について厚い本を出している。それが話題になったがスペインに旅した話をしていて、あの国が内戦の後、第２次大戦では中立を守ったことで国内が昔の面影を濃く残している、と話していた。主にオーウェルの『カタロニア賛歌』の後をたどっている。昨日、もう１冊出している詩集『幸いなるかな本を読む人』というのも買った。２５編の詩にアルファベットをあて、ゼットは註としたしゃれた本だ。原田宗典『ハラダ発ライ麦畑経由ニューヨーク行』という本は１９９７年のニューヨークを描いている。僕にとっては広子と最後にアメリカを訪れた年だ。ちょいと読んでみる。

午後から大連会の会議に行ってくる。このところ台風の近接で毎日雨が降る。薄ら寒い。進也、１０時半

★　Ｔｈｏｍａｓから。

●　日本の諺に「バカにつける薬はない」というのがあったが、共和党の副大統領候補の言動を見守っていて、呆れている。怒りたくても、怒れないのが現実。もしも、こんなのが万一の場合アメリカ大統領になるのかもしれないと思うと、ゾットする。取り柄なのは、若く見えるのと、一寸した美貌であり、亭主を結構尻の下に敷く技術を備えてはいるらしい。ただし、新興宗教まがいのアーメンソーメン。日本にはこんな女性はおそらくは居るまい。アメリカ女の欠点を全部備えているような僕たちの孫代だ。

●　財政省を担当している現在活躍しているヘンリイ・ポールソンだけは、僕にとっては特別な人間だ。ダーツマスの後輩だし、彼に僕が面識があるわけではないけど、彼のことを僕はよく知っている。共通の友人が多いから。酒も煙草もやらない、謹厳なロークフェラー型の共和党系。環境問題にも手を染めている。

そして、彼は文章が書ける。　共和党の連中が全部バカだと思ったら大間違い。そして、世襲的人物でも勿論ない。

ネオコン・ゴロツキどもとは、共和党でも本質的に違う。今度の財政問題収拾だって、クニノタメだからやってるのだ。イデオロギイなんて彼の念頭にはないと思う。彼はそんな人間じゃない。アメリカには未だに彼のような人間が残っている。

陳腐な表現なんだろうが、それが事実。

★★★

Comments

1 ■副大統領候補

共和党副大統領候補の辛らつなコメントには、笑ってしまいました。

家人が、珍しく先週末の夜、市内に行ったら大変な警備で近所のパブに件の女性がみえていたそうです。敵陣のプラカードを持った若者が店の周りを囲んでいたとか。

にゃにゃ 2008-10-01 03:31:44

2 ■No Title

にゃにゃさん、ありがとう。だけど、何故あの子が護衛つきで費城くんだりまでうろつきまわるのか理解できませんね。銀行崩壊のこのご時節にね。今晩のギロン集会、聴視に耐えないので僕はとばします。

幼稚園児と爺さんの討論だから。

thomas-penfield 2008-10-02 14:58:27

読書録　小田実。「河」、＃４．　メモ：失った時を求めて。

October 02, 2008

河、ｖ。＃１を読み続けている。

１９２５年前後、鴨緑江を越える朝鮮独立運動への武器搬入と、朝鮮内部から上海へ資金を持ちだす活動は深刻だったらしい。やがて「シナ事変」となり、重慶に臨時政府が遷都してもこの抗日運動は続いた。夥しい朝鮮青年が重慶或いは至延安に脱出した。向こう見ずな青年連中も随分いたようだ。僕は少年だったが、当事これらの朝鮮青年脱出に纏わる挿話は奇麗事だけではなかった。

時たま僕の母は和服を纏い、草履を履き、日本婦人のような格好で当時京城と呼ばれたソウルと大連を往復した。流暢な日本語を操る彼女の素性を見破る警官か憲兵はまず居なかった。

何故彼女が往復したか？僕はその理由を未だに知らない。

彼女が一等で大連とソウルを往復していたのは確かだ。公的に母は何時もオメシと呼ばれていた和服を着ていた。朝鮮服を彼女は使わなかった。彼女が愛用していた水色と白の帯を母は僕がアメリカに「逃げた」時、形見に持

たせてくれたのでそれを未だに持っている。「失った時を求めて」の話になるだろうが、現在の僕の推測では彼女は重慶の密使としてソウルと大連を往復していたのかもしれない。得たいの知れない朝鮮女性が時々母の診療所を訪問していたから。

母が手書きした年譜によると、彼女は京城第一公立高等学校を１９２５年３月２０日に卒業し、１９２５年４月に東京都大森の帝国女子医学専門学校に入学し、１９３１年３月２０日に卒業し、同年４月１０日に同医専付属病院産婦人科助手に任命され、同年６月２９日に厚生省第６５８９１号の医師籍に登録されている。鉄道省から満鉄に転勤した僕の父を追って大連に移住して大連鉄道病院産婦人科の研究室研究員に任命されたのは１９３４年９月９日だった。

Dairen Hospital.

以上の経歴から考えると：　母は日韓合併９年後の１９１９年には梨花学堂で１４歳生徒だったし、その学堂卒業後日本内地人子女系であった京城第一高女に第五年科目終了のために入って１９２５年に所定科目を終了し、斉藤実総督の後押しで東京にできたばかりの帝国女子医専に入学したことになる。僕が生まれたのは１９２９年（合併後１９年）で、母が東京に到着して帝国女子医専に入学した１９２５年は東京大震災中に惹起された朝鮮民衆虐殺後４年にも満たなかったことになる。１９２５年は丁度大正の終わりにあたる。

大正末期に、東京には夥しい数の朝鮮のヤンバン子女が留学していた。そして、中国南京からも数多の留学生が来ていた。所謂大正デモクラシーのこの時期に於いて、僕の両親はどんな生活をしたのであろうか？鹿地亘がやがて監獄から釈放されて、上海に逃げたのは１９３０年あたりだった。そのころになると、上海同文書院にも日本人学生が大分いたし、米国人ジャーナリスト、ハロルド・Ｒ・アイザークスが僅かに２０歳の若さでＣｈｉｎａ　Ｆｏｒｕｍを編集して活躍した時期が続いた。（アイザークスについてはいずれ書き留める。）

僕が過ごした幼年期と少年期は１９３０年代のほぼ全部だった。

このメモは「河」を読みながら、思い出すことを綴る僕自身の備忘録にすぎない。

★★★

Comments

1 ■斉藤実

今日の日記を拝見して、そういえば、高校の講堂正面左右に校訓が掲げられ、その横に「男爵斉藤　実」（何とその字が傾いていた）と書いてあったことを思い出す。ウィキペディアで斉藤を調べたら、「～揮毫をよく頼まれたが、元来の性格のよさから断らず、、」と書いてあった。高校時代は、何者かちっとも気にも留めなかったが、今、勉強しました。ありがとう、、トーマスさん！

にゃにゃ 2008-10-02 00:16:16

日米通信　河、＃５.

October 03, 2008

★しんやから。

朝の国際電話ありがとう。小田実の小説が君の幼時の記憶を喚起していることに不思議さを覚える。子供の記憶は断片的で、意味のよくわからない部分があるものだ。それに光が当たるとしたらたいへんな功績だ。ゆっくり読んで思い当たることには注意を払ってほしい。欠けていたパズルのピースの役割を果たすかもしれないよ。

今日はちょっと時間を割いて銀座のみゆき画廊に行ってくる。シベリヤに抑留された経験のある画家の展覧会だ。抑留死亡者名簿を作成した新潟県の人がわざわざ知らせてくれた。

大連会で満鉄会の会報をもらったので君に送る。さすがの満鉄、六〇年たっても組織は機能している。読んでいてちょっと驚いた。

アメリカがいまや金融でつまずいた。結果的に世界中が混乱している。どう収拾されるか。あちこちの懸案はたなざらしみたい。北朝鮮はここぞとばかり好き勝手をやっているようだ。中国は食品へのプラスチック原料の混入事件でひどいことになっている。進也、１１時

★Thomas

註。僕の父は日本降伏当時、満鉄鉄道技術研究所の職員だった。彼なりの苦悩、忠誠問題などはあったと思う。
彼と親しくしていた中西七郎さんがよく夕食に僕たち一家を訪れてくれたものだった。もう半世紀以上前の話だが、中西さんとは紐育で二十世紀末に再会し、紐育の法律事務所で働いてた娘さんにもあったし、数年前に彼がトルコを訪問したあとフィラデルフィアに来てくれて数泊してくださった思い出がある。

父は満鉄での技術修行を基礎にして、韓国独立以前の米軍軍事政府時期に南朝鮮半島の造船産業で活

躍した。たしか、金海ちかくに創立された造船所の初代所長をしていたと思う。僕がソウルを離れた年だったから１９４８年だった。だが、終生朝鮮半島に僕は馴染めなかった。

小田実のこの長編小説は「河」と題してあり、表紙を金文字の河が象る。僕にとって朝鮮半島はその形而上学的な河の向こう側に存在し、激流のその河は常に僕の目前に僕を拒むように流れていた。

日米通信　Ｊ．Ｌ．Ｃｈｅｓｔｎｕｔ、Ｊｒ．の死。 帚木蓬生、インタセックス。

October 04, 2008

★　Ｔｈｏｍａｓから。 一日中、微熱と咳に悩まされて、引き篭もり、謹慎した。

●　Ｊ．Ｌ。Ｃｈｅｓｔｎｕｔ，　Ｊｒ．（Ｊ．Ｌ．チェストナット）、が７７歳で亡くなった。

彼は昭和５年生まれだから、僕よりほぼ２歳ばかり若い。僕がアメリカに１９歳で着いた時、彼は１７歳だったことになる。南部のアラバマ州セルマで育った黒人弁護士。僕がアーケンソーで人種差別がなくなった当事の陸軍軍務に服役していた時、アラバマ、ミシシッピ、ジョージア、やルイジアナから黒人兵士がもともと白人基地だったそこのＣａｍｐ　Ｃｈａｆｆｅｅに転入されてきた。

彼は黒人大学だったハワード大學法学部を終えて、弁護士になった。

そして、マーチン・ルーサー・キング師の黒人解放運動に携わり、１９６５年３月７日のエドムンド・ペトゥス橋における流血日曜日には現場に居た。遵法の精神を貫いた英雄の一人だと思う。

●　小田実、「河」を読み続けているが、伊賀上野の親友が送ってくれた、素晴らしい日本語小説が今日の午後についた。

ほぼ徹夜して読み終えた。読み応えのある著書だったと思った。

帚木蓬生、インターセックス。集英社、２００８年８月。

著者は現在６１歳の作家。東京大学仏文学科と九州大学医学部を両方とも卒業した猛者らしい。彼の経歴をアメリカ育ちの僕はよく知らないが、１９９３年に４７歳で「三度の海峡」第１４回吉川英治文学新人賞を始めに、爾来種々の文学賞を受領している人だ。

この探偵推理小説のなかで、帚木さんは生理的に人間を５種類に分類して考えることを紹介している。つまり、「人類の歴史は聖書に書かれているように人間をＭａｌｅとＦｅｍａｌｅに二分してきたのだが、これを事実

に応じて５種類に分類することだ。

男女のほか、アメリカ社会で使用される性分類にＴｒａｎｓｓｅｘｕａｌｓがあり。３種類がある。（Ａ）性染色体がＸＹでありながら、性器の外見は女性である人、（Ｂ）性染色体はＸＸであっても女性性器が欠如して男性化している人たち、（Ｃ）そして完全な半陰陽で、男性器と女性器を両方具有している人々。日本社会には法的にもまだ使用されてない概念らしい。ＴｒａｎｓｓｅｘｕａｌｓはＨｏｍｏｓｅｘｕａｌｓとは違う。

しかし、この著書は現在の日本ではあまり読まれないだろうと思う。アメリカ社会では常識化している事柄が、今の東洋では未だにタブーになっているからだ。

二年前に、僕の母校ダーツマス大學では、１０年前に卒業したあと性転換して女性になったＴｒａｎｓｓｅｘｕａｌｈの方のために、卒業証書の名前を女性名に書き換えて再授与したことがある。

★　西羽さんから：　　コメント。小田実、河、＃６．

皆さん　　西羽です

今読んでいる本に、蒋介石の次男である蒋緯国が語った興味ある話が
ありましたので、ご紹介します。

蒋緯国という人は実は（蒋介石の）養子で、実母は日本人です。蒋介石に育てられ、
ドイツで軍人教育を受け、日中戦争や国共内戦で国府軍の指揮を取っ
た軍人です。

その蒋緯国に、作家の保阪正康氏が 1992 年に台湾で会ったとき、彼は
こう言ったそうです。

「日本の軍国主義が最終的につぶれていくというのは完全に私たちの
予想の範囲のなかにありました。中国に攻めこんだ国がどういうふ
うにつぶれていくかというのは歴史のなかでぜんぶ証明されているの
に、そして私たちはその戦略をもっているのに、日本軍はそのとおり
に入ってきた。あなたたちは、南京から重慶、成都へと日本軍が得々
と侵略して入っていったというでしょう？　違いますよ。あれは私た
ちがずうっと引きずっていったんですよ。引きずって引きずって、そ
して補給が絶えたときに敵は自然に崩壊するというような作戦だった
んですよ。私は半分、日本人の血が入っていますけれども、日本軍国
主義を憎悪することにおいては共産主義の比じゃありませんから」

（保阪正康＋半藤一利「『昭和』を点検する」）

当時の帝国陸軍は、“支那”など一撃の下に倒せると安易な考えで戦争をおっぱじめました。いわゆる「対支一撃論」です。そして首都の南京を陥落させた時、これで中国は手を挙げるだろうと考えていました。

私はまだ幼児でしたが、南京陥落を祝う提灯行列を見て、喜んでいました。もちろん子供だけでなく、大人も、政治家も、軍人も、そして大元帥陛下も、連戦連勝に酔いしれていました。

西羽 潔　Kiyoshi Nishiha

Email: nishiha@rose.sannet.ne.jp
「戦争を語り継ごう　–リンク集 – 」
http://www.rose.sannet.ne.jp/nishiha/senso/

★ 紐育の金さんから。金曜日。

産経デジタルが運営するニュースサイト「イザ！」などで人気の世界中の仰天ニュースを書籍にまとめた「世界は今日もヘンだった」（産経デジタル編、発売・扶桑社）が２５日、出版されます。
「マレーシアのサッカー審判、レッドカードの次は威嚇発砲」「フィンランド外相、ストリッパーへの大量メール送信で辞任の危機」「デンマークで開催されたホームレスのサッカーW杯」などなど、国際通信社ロイターが配信したちょっと耳を疑うような仰天ニュース記事５５０本を収録。驚きあり、笑いありのまさに「へんなニュース」のオンパレードです。

昨日 世界には Ｇｏｏｄ Ｎｅｗｓがありませんと 書きました。 世界には Ｇｏｏｄ どころか 「仰天ニュウース」が あふれていて それが 本になって 出版されております。
麻生首相を ニュウヨークタイムズが 軍国主義の復活と 書いたとたん 証明するように 麻生首相自身が「大東亜戦争」と 本性を 裏ずけました。
韓国では ＴＶ人気タレントが 自殺しました。模倣自殺 同情自殺が 続いているそうです。インターネットの書き込みに 悪質な 根も葉もない ウソと わるくちが 自殺の原因になるといって 政府与党が インターネットの 取り締まり法を 作ると 言い出しました。実は リミョンバク政府に対する 悪口と 非難が 多すぎるので政府が 自殺しないようにする 予防手段かと 皮肉っております。政府は 自殺どころか 弾圧を 強めており民間独裁政府になりました。
キリスト教の 国と 言われている アメリカは 貪欲の 代価の 支払いに 地獄行きになりそうです。

滅慾　諦慾　禁慾の　佛教のＢ　タイランドでは　腐敗　横領　不法蓄財をした　タクシンのため　連日　デモが続き　地獄の予行練習をしております。

宗教に　汚染されていない　楽園は　ありません？

★★★

Comments

■宗教のない世界

宗教で有益なのは

教育と福祉でしょう。

思想と正義と愛は

戦中にしか見た事がありません。

そう、残念ながら

今の戦の中です。

綿貫朔太朗 2008-10-04 07:54:41

2 ■No Title

綿貫さん、至言。僕もそう思います。

thomas-penfield 2008-10-04 12:26:37

友人素描　エドワード　Ｓ．クライマ教授。 Prof. Edward S. Clima.

October 05, 2008
日記。ＥＳＴ１０月４日、土曜日。

★　週末が来た。土曜日なのでチャックは今日は忙しい。午前７時の郊外電車で出勤した。僕は今日も風邪気味なので勿論在宅謹慎。

●　　９月２２日Ｅｄ　Ｋｌｉｍａ君が亡くなった。彼はダーツマス大學時代の級友だった。ダーツマス大學二年生の時、化学の定性分析実験室で、机が僕の隣だった。今でもよく覚えているのは彼の父上が若々しくて彼ら二人が親子とはても思えなかったことだ。始め紹介されたとき、父上は彼の兄だと思った。そして、二人が仲良く話し合っているのを眺めて羨ましく思った。東洋では考えられもしない親子関係だった。

東洋で戦争中高校の中に実験室経験なんて使わなかった僕は物理や化学は単に暗記するだけの学問だった。

だから、いきなりアメリカの大学に飛び込んで、化学講座を受講しても、定性分析でアメリカの高校で実験に鍛え

られてきた級友たちと競争できるはずがなかった。でも、彼が傍で根気良く助けてくれたのを、今でも感謝している。定性分析で絶望した僕は定量分析はやめといて、数学専攻に移った。（それも、本当は哲学をやりたかってけど、あのころアメリカでは、東洋人は哲学の学位でメシは食えなかった。）

それに、僕は２年生(１９５０年）時期は朝鮮戦争勃発直後で、父母の生死もわからない有様だった。彼が親切にしてくれたのを今でも有難く思っている。

１９５３年に大學卒業後、僕たちの進路は完全に分岐した。５５年別れたままだった。

今朝の紐育時報で、彼が言語学者となり、卒業３年後、チョムスキイ博士に見込まれてＭＩＴで１９５７年教え始め、１９６７年にカリフォルニア大學（サンディエゴ）に移り、そこで奥さんのウルスラ・ベルギ博士と一緒に言語学と生理学を連結する研究を進めたことを知った。彼は聾唖語であるＡｍｅｒｉｃａｎ　Ｓｉｇｎ　Ｌａｎｇｕａｇｅの研究で良く知られているし、現在その成果は日本語Ｓｉｇｎ　Ｌａｎｇｕａｇｅとしての結果も生んでいる。

クライマ教授

New York Times, October 4, 2008. Saturday. p.C10.

回顧録　**日本敗戦後、大連からの日本人難民救済直訴密使。**

October 06, 2008

★ヨザクラさんから以下の書き込みがあった。僕自身のＢｌｏｇ記録としても重要なので、再録する。

Dear Mr. Thomas Penfield,

トーマス様

お礼の記述、拝見。奴隷に売られた日本の児童難民の窮状を紹介した書き込み、役には立った模様で何よりです。

ただ、09/28 日付けブログの本文記述後の注釈欄にて、貴方が言及している「大連より派遣された日本人難民救済を直訴する密使」に就いては、次のサイトに詳細な記述あり。ご関心あれば、以下のサイトを自己責任に於いて訪問してみて下さい。

《マッカーサーに直訴した三人の勇者》
みやはらのホームページより抜粋
http://www17.plala.or.jp/bigbridge/a/makkasaa.htm

昨年 12 月 07 日付けフィラデルフィア日記でも記述されていた、この「密使派遣」、正確には総員 3 名であった模様です。上記サイトには、貴方の旧友の父親の姓名もフル・ネームにて明記されています。

また、貴方が姓だけを記憶していた「吉田首相(当時は外相)の身内で麻生姓の女性」とは、麻生和子のことですね？

上記サイトには、密使 3 名の決死の行動が逐一記録されています。ただ、その記述内容の正確性は何人も保証するものではなく、トーマスさんにて確認して下さい。

例えば、上記サイトの 02 月 23 日の記入欄に「全満日本人会会長・高橋達之助」とありますが、これは「高碕達之助」の誤字でしょう。

つまり、「×：高橋→◎：高碕」となる訳です。

このブログは、老境に入った貴方が、過去における生い立ちや過ぎ去りし日々を回想し、人生の意義を再度確認されることを目的にされているものと推察します。上記サイトや、みやはら氏の HP の記述などが参考となれば幸いです。

お元気で。

● １０月５日日曜日。

書き込みありがとう。

「麻生」という苗字は当時僕は発音できず当惑したのを覚えていますが、宛名が誰を指していたのかは今でも存じません。ただ、修道女ロザンヌさんの年齢からして、吉田首相一家の身内だとは思いました。勿論、僕は垣間見ただけでした。(勿論僕は吉田一家の誰をも存じません。)

当時の日本内地と僕たち植民地の大連はあまりにもかけ離れていたので、あの密使派遣の委細を僕は知りませんし、理解していません。一行が複数であったことは知っていましたが、３名だとは存じませんでした。

老境に入って、僕自身の過去に対する展望の変化に驚いてもいます。

ただ、僕の場合、生まれつき僕は影のない、無国境無国籍人生を環境によって強要されて生きてきたことだけは事実でしょうし、アメリカ市民として６０年暮らした現在、東洋は水平線の彼方の存在になってしまいました。ただし、僕の苦しかった少年期１６年間にお世話になった日本人恩師たちや生母がわりに世話してくださった人々のことは生涯忘れないつもりです。

種々の懇切なご指摘ありがとうございます。

Ｔｈｏｍａｓ

● 追伸：

ご指摘の高橋達之助は、貴方の通りに高崎達之助だったと思いますが、苗字には疎いのでよくわかりません。
少年時代からの記憶ではタカサキだったと思いますが。この追伸欄を書くまえに、ミヤハラさんのＨＰを調べてみて、その詳しさに驚きました。

★ 東京のしんやから。ＥＳＴ、１０月５日。日曜日。

遺棄残留孤児。

今日は木更津。毎週の決まりごと。特に変化なし。

この前、残留孤児のこと、ちょっと書いたね。今度訪日調査するのは３人だけ。黒龍江省の６７歳に女性。もう一人の女性７３歳は難民収容所で拾われた。終戦時推定１０歳。家族は全員死亡。もう一人は男性で新京市在住６３歳。１１月１７日から１２日間来日する。

もう一つ、最近の日本で暮らす残留孤児の記事。６５歳の男性は空き缶を拾って生活費を稼ぐ。ほかに４，５人の生活実態が簡単な記事と写真で報告された。みな年を取って貧困にあえいでいる。

僕もちょっと風邪を引きかけた。くしゃみが出て怪しかったがどうやら切り抜けた。また書く。進也、17 時

★ Ｔｈｏｍａｓから。

今、インタネットでこの３名に関する記事を読んだ。深刻だね。６３歳の男性は発見された時、生後３ヶ月ぐらいだったわけだね。このような人々に関する情報は続けて知らせてください。

★★★

Comments

1 ■最近の朝鮮近代史研究について

昨日、岡本隆司氏の『世界のなかの日清韓関係史ー交隣と属国、自主と独立ー』（講談社選書メチエ、2008 年８月）を読了しました。岡本氏はもともと清末中国の国際関係（特にイギリス、フランス）研究の専門家で、『近代中国と海関』（名古屋大学出版会,1999 年）で注目された後、朝鮮の史書をも精力的に読み、『属国と自主のあいだ』（名古屋大学出版会、2004 年）などの大著を発表してきました。その氏の著書がハンディな形で読めるようになり、喜ばしい限りです（他の本も素晴らしいのですが、博覧強記の人らしく、史料の原文引用が多いので）。

読了して思ったのは、いかに私が近代西洋的な感覚で朝鮮史（に限らず東アジア全体）を見てきたか、ということです。民族、領土、独立といった概念は、現在ではそれなりに尊重されるべき価値観となっていますが、20 世紀初頭まで、実は絶対のものではなかった。朝鮮半島でいえば、中国（それも実は明朝と清朝とで朝鮮の接し方は違っていたのですが）、日本、ロシアなど近隣地域との力のバランスでその外交（時として内政）方針は移ろっていたのです。中国には服属しつつも自主を堅持し、しかし近代的な意味での独立では主張しないことでうまくいっていたし、日本とは、中国を盟主に仰ぐもの同士の（日本はそう思っていませんが）兄弟分としての対等なつきあい（交隣）から、近代的な条約関係に移行していくときにつまづいた。現在の価値観での善悪ではなく、同時代感覚に迫っていく歴史学の醍醐味を味わえる本だと思います。朝鮮史単独の本はずいぶん書かれてきましたが（それも考えてみれば国民国家的な歴史ですね）、国際関係の中で地勢も勘案して書かれた本というのは案外ありません（以前ご紹介した李盛煥氏の著書などはごくわずかな例外です）。私は岡本氏の説明で、たとえば日清・日露戦争がどうして朝鮮半島を基軸に争われたのか、とても考えさせられました。また朝鮮近代にも対日協力の問題で苦しい政権運営を強いられた挙句、ついには虐殺された金弘集の悲劇に、中国における漢奸の問題を重ね合わせて感慨深いものがありました。

澁谷由里 2008-10-06 19:06:56

2 ■渋谷教授へ。

僕も同感です。金弘集は虐殺されるとき、無抵抗のまま敢えて死んだと少年の僕に涙ながらに語ったある古老の顔を思い出しながら、あなたの書き込みを読みました。

あれから、半世紀以上の時間が過ぎました。僕の曽祖父たちの世代は悲劇的でした。彼らが経験した苦悩はいまだに尾を引いていると思います。

Ｔｈｏｍａｓ

thomas-penfield 2008-10-06 22:02:22

3 ■追伸。

修道女たち：Ｓｉｓｔｅｒ Ｅｌｉｓｅ, Ｓｉｓｔｅｒ Ｔａｌｉｔｈａ, Ｓｉｓｔｅｒ Ｍａｒｇａｒｅｔの３人はＮＹ州、Ｏｓｓｉｎｉｎｇのメリノール本部墓地に埋葬されています。数年前にチャックと二人でメリノールを訪ね、お墓参りを済ませました。

Ｔｈｏｍａｓ

thomas-penfield 2008-10-06 22:06:38

日米通信　**青年時代（戦時中）の肺疾患。樺太。**

October 07, 2008
日曜日、１０月５日。午前１時。

★昨日も神妙に家にできるだけ自宅に閉じこもり読書。一時間置きにピアノに向ってバイエル弾奏稽古。暗記した練習曲が少し増えた。

西牟田靖が書いた「僕の見た大日本帝国」、（情報センター出版局、２００５。）を本棚の片隅に見つけたので、今晩床に入ってから読み出した。小田実の「河」を読んでいる所為もあるのだろうが、面白い本だと思った。著者は１９７０年生まれ。僕の次女の歳だ。（それでも今になってはもう３８歳だ。）

第一章のサハリン篇だけを今晩読んだ。（暇潰しでもある。）南樺太に置き去りにされた日本系と朝鮮系居留民の生態を描いている。

スターリニズムの民族政策をまざまざと見せ付けられた気がした。少年時代、スターリンの民族論は金科玉条だった。彼の論文は神聖視されていた。なんのことはない、民族を平等にならべて、祖国ソ連を頭上に安置した上、その祖国を大ロシアに取替え、その大ロシアの上に独裁主スターリンが君臨しただけだった。

サハリンからカザフスタンに流れた朝鮮族については今まで少しばかり読んだ。朝鮮族にとってはＤｉａｓｐｏｒａは日常茶飯事だ。でも、あそこに取り残されてしまった日本族が大分居ることには注意していなかった。著者西牟田君のこのような描写は貴重だ。

★　紐育の金さんから。（Ｔｈｏｍａｓ註：　金さんは東大卒業生。）

東大が慶大に２-１で競り勝ち、昨秋からのリーグ戦の連敗を１６で止めた。慶大からの白星は２００３年秋以来１０季ぶり。

東大が　勝ったというのは　Ｇｏｏｄ　Ｎｅｗｓです。幕下が　横綱に　勝つようなもので　奇跡に　等しいです。昭和２２年の春に　初めて　東大に　応援歌が　できました。校歌がないので　応援歌は　すごい勢いで　広まりました。昼休みには　安田講堂の　時計塔の前に　集まり　練習をしました。富士山の　万年雪のように　万年マケに　決まっておりました８２　Ｓ２３年に　山崎投手という　豪腕が　現れて　今年は　勝つ　勝てるの　意気込みが　大変でした。

秋の　和やかで　暖かい　野球日和でした。その日　勝てるの　奇跡に預かるため　はじめて　神宮球場に　出かけて　いい気分で　帰ってきました。そのときも　確か　慶応戦だったように　思いますが　勝った記憶はありません。

１０時ごろ　たたみに　丸めていた　布団に　頭を乗せて　上向きに　寝転がって　居たところ　ゴボゴボと　咳が

でて 口の中が いっぱいになり おかしいなあと思いながら ２階から 降りて １階の 便所に ゴボットと 吐いたところ 赤黒い血でした。当時は 水洗式でなかったので 影に 覆われて 黒く 見えました。

次の日 学生課長の 加藤先生を 訪ねて "先生 昨日の晩 こうこうでした"と 半泣きに 話しました。 そうかと 言って 清瀬国立療養所の 砂原所長への 紹介状を 書いてもらい 砂原茂一所長を 訪ねました。「そうか 次の 火曜日に 歯ブラシぐらいは もって 来給え」と 言われました。「先生 お金があません」と いいましたら 心配しないで 来なさい。 所長免除にして もらい 生活保護まで 心配してくれました。

当時 ベットがなくて 入所まで ３年以上も かかる 状況でした。私が あの学校から 受けた 最大の 唯一の恩恵です。これも 学閥の おかげです。

★ しんやから。

昨日は気温が高かったが、今日も意外と高温だ。朝から着ているものを減らして夏みたいになった。
嶋名から電話で、豚肉２０キロをさばいて、それを揚げ物にした。これが下ごしらえで、８０歳の労働者は腕が痛いよ、といっていた。彼もたいへんだ。老後を余生というが、とてもそんな気分ではない。ただ、いわゆる余生は時間をもてあまして暇つぶしになるようでは楽しくない。老人でも生きることは難事だ。

『昭和天皇・マッカーサー会見』という本がある。前から気になっていたが買ってきて読んだ。天皇は日本の防衛についてかなり突っ込んだことをいい、アメリカが日本を守ってくれることを要請している。新憲法の下では天皇にこうした発言が許されないはずだが、こういうことが行われていたことは知らなかった。日米安保条約は、こうした意向が反映したともいえる。天皇は近衛の影響だろうか共産主義に異常なほど恐怖している。そこには書かれていないが、彼には国民に対する信頼はない。要するに天皇制の擁護だけが目的だった。

金さん、
若い時代の経験、興味深く拝見。ずいぶん学校から手厚い保護を受けたのですね。僕も同じころ国立中野療養所に半年ほど入院しました。２週間の予定が予後が悪く延びたのです。お互い苦労したものですね。進也、１２時

★ Ｔｈｏｍａｓから。

少年時代に僕が通った伏見台教会についてヨザクラさんから書き込みがあった。
明日の記事でお答えします。

★東京のしんやから。月曜日。１０月６日。午前９時。

ブログに満洲や大連からの引き揚げについて、日本に密航してマッカーサーに直訴した、という話が載っていたが、これは富永孝子さんの『大連 空白の六百日』にくわしく記録されている。また、高碕達之助が日本人の救済に

資金を出してほしいと大連の有力者に働きかけたが、市長の要請で出した資金が帰国後に返済されなかったことから、責任を取って別宮市長が自殺したことも富永さんが書いている。

彼女の仕事は再評価されていい。

それから、これは別府に住む甲斐正人さんが出した本で、戦後外務省からの働きかけで、国内情報を伝達するために、船で大連に行き、そこからハルピンまで行って、最後は一般引揚者と一緒にコロ島から帰国した人物の自伝がある。僕ももらったが、いまどこにあるか見つからない。あのころ、よくこんな船が大連に行けたものだ。

今日、北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会から『光射せ!』２号が送られてきた。帰国事業を推進した朝鮮総連の責任を追及している。

図書新聞でリービ英雄の『仮の水』、『延安』の２冊を見つけた。面白そうだ。また書く。進也、１９時２０分

★★★

Comments

1 ■中野

２年程前、慈生会病院という練馬区江古田のキリスト教の病院に行きました。その近くにもう１軒キリスト教系の病院が建っていました。戦後は、そのあたりは、見渡す限り麦畑でこの２院とも結核専門病院だったとか、、今の町並みからは。ちょっと想像できなかったです。

にゃにゃ 2008-10-07 02:42:44

2 ■最寄りの警察へ連絡しましょう

「週刊フライデー編集部襲撃事件の黒幕 浮上した北朝鮮・朝銀人物」

名前 木山(杞山) 岳史

住所 大阪府東大阪市柏田東１０―９(転居)

経歴 北朝鮮・朝銀信用組合青年会所属

(父親は朝銀信用組合理事長)

思想 左

行動

過去に、暴力団山健組関誠会(現・大成会)組員の藤井なる人物に講談社の週刊フライデー編集部襲撃事件を教唆し言論弾圧事件を企てた影の黒幕であった事実が最近になって出てきた。

(事件後は警察から組員への厳しい追求にも指示した人物が誰なのか判明せず首謀者の木山(旧姓・杞山)は逮捕を逃れた。)

※詳しくは溝口敦 氏のホームページ http://www.a-mizoguchi.com/trial_8.html を参照。

この事件に関し余談があるそうで、木山(杞山) 岳史なる人物は国産の高級車を関誠会の浅田なる人物にプレゼントしたという。

当然、犯人の関誠会・藤井なる人物にも同様に手当てがあったという。

数年前～現在

毎日座っているだけで、月に数百万円といわれる利益を生む自動車担保金融業(大阪府門真市)を計画的に倒産させ、同時期

に引っ越し、さらに追跡調査を恐れてか姓名の姓の字を杞から木に変更し足跡を消したとのことである。
また、妻であった女性が逃げたのも同時期である。
一体、何を見たのか？
木山岳史なる人物は数年前から自宅から出ない生活を送っているという。
とある近隣住民は言った。「様子がおかしいんです。」
どうしてこれほどの言論弾圧事件の首謀者でありながら今まで名前が出てこなかったのか。
溝口敦 氏 有田芳生 氏
講談社 週刊フライデー 週刊現代 かもがわ出版 報道機関関係者 各新聞取材記者
住民の声 2008-10-15 10:34:53

メリノール　大連の伏見台天主教会。戦時中の肺疾患（２）。

October 08, 2008

★ Ｔｈｏｍａｓから。

備忘録。 ヨザクラさんから伏見台教会について質問があった。

この大連伏見台教会の建物は伏見台にあった満鉄中央（地質学）試験所の後にあった。これは欧州系と日本系信徒がおもに集まる教会で、中国系信徒は西崗子（シーガンツ）と呼ばれた区域の教会に集まった。僕は西崗子の教会に行ったことがない。時々、その教会の中国人神父様が伏見台に来られた。日本人神父は居なかった。

伏見台教会担任である神父二名（リビアベラ神父とマルテッリ神父）と修道僧一名は三人ともイタリア人で、サレジオ会に所属していた。加えてイエズス会の神父シッファー神父がいられた。修道女は全員５名で、全員米国系のメリノール宣教会だった。戦中のことだから、米国人聖職者は司教を除いて帰国してしまっていた。

伏見台教会は日本人建築家の設計と施工による。この事実は後年アメリカでメリノール宣教会会史を読んで知った。

文化革命前後に、大連の中国人信徒は苛酷な迫害に晒されたと言われるが、僕は真実を知らない。

伏見台教会は別称ステラ・マリス（海の星）教会とも呼ばれた。付属学校もアカデミア・ステラ・マリスだった。海の星は聖母マリアを指す。

★　東京のしんやから。火曜日、１０月７日早暁。

あのころの結核。

結核の話がいろいろ出たが、金さんにしても僕も、戦時中ではなく戦後すぐのころの話だ。あの頃、患者があふれていた。僕が入院していた療養所は病棟が２６もあって巨大だったが、僕は１２人部屋だった。長期の入院が多く、僕が退院したあと、同室の４人が死んでいる。ウサミが何度か見舞いに来てくれた。僕が驚いたのはキリスト者のうちにカトリックの信者が多かったこと。「カトリックダイジェスト」という雑誌をはじめて見た。にゃにゃさんの書き込みにあったが、周辺にいくつもの療養所があった。ベタニヤの家というのがあったことを覚えている。最近、近所で知り合ったおばあさんは、まだ闇でしか入手できなかったストレプトマイシンを入手して注射したが、病気はよくなったが耳が聞こえなくなった、とこぼしていた。ストマイつんぼといわれ、当時防ぎようのなかった副作用だ。結核は国民病といわれ、野田辰男など外科志向の医者は、こぞって肺外科に進んだ。今から考えるとうそみたいな話だ。

『光射す!』は、困難な本だ。萩原遼という元赤旗記者の書いた文が共産党の病根を衝いている。書記長だの委員長だのの役職に任期がないのだという。つまり自分でやめないかぎり終身職。宮本顕治が４０年も君臨したのもそのせいだ。今も退任した不破哲三が優雅に暮らしているのは野党としては考えられないという。日本共産党も脱皮できないね。つまり宮廷政治で、北朝鮮と同じだ。自民党のほうがましかもしれない。進也、１１時１５分

★　Ｔｈｏｍａｓから。

僕の父も太平洋戦争中に星が浦と旅順の中間で、旅大道路の脇にあった小平島結核療養所に入っていた。大連でも結核が蔓延していて、大連中学では生徒がツベルクリン反応で陽転すると、胸に徽章を縫い付けて陽転表示したものだ。だが、隔離はしなかった。

「光射す」は面白い本だね。萩原遼はたしか元赤旗の記者で、共産党のゴロツキさに絶望して脱党して朝鮮戦

争原因を追究し、あのころワシントン議会図書館に自分自身を缶詰して米国側の史料を殆ど全部読破した猛者だろう？
信念のある人だ。そして、まるで「カトリック教徒」（笑）だ。

当時、あんなことをやるし、やれるのは日本人だけだと思ったものだ。

そして、僕の記憶がまちがっていなければ、彼は朝鮮総連がだまして北朝鮮に「連行した」在日の救出を始めた方だと思う。つまりカルメギの始祖なんだろう？

★★★

Comments

1 ■ストマイつんぼ

私の大叔母は、ストマイつんぼ（難聴）でした。
その人は、再開発が進んでいる広尾の日赤医療センターの結核病棟（今、高級マンションガーデンヒルズが建っている）に入院したそうです。
あのマンションが出来た頃、母と祖母が「O が入院していた跡でしょう、平屋の病棟がずいぶん並んでいたね」と話していました。
昔の日赤病院の建物内を覚えていますが、今の明るい病院からは、想像できないほど暗くて寂しかったです。
にゃにゃ 2008-10-08 04:01:50

2 ■教会の写真、拝見。何処かで見かけたような記憶が

トーマス様
伏見台のカトリック教会の写真を拝見。「海の星・教会」との由、外見からもそれと想わせる優美な姿ですね。掲示、有難う御座いました。
時間があれば、感想などまた書き込みます。
お元気で。
Yozakura 2008-10-08 19:04:40

3 ■警視庁または最寄りの警察へ情報を届けましょう

「週刊フライデー編集部襲撃事件の黒幕 浮上した北朝鮮・朝銀人物」
名前 木山(杞山) 岳史
住所 大阪府東大阪市柏田東１０―９(転居)
経歴 北朝鮮・朝銀信用組合青年会所属
(父親は朝銀信用組合理事長)
思想 左
行動
過去に、暴力団山健組関誠会(現・大成会)組員の藤井なる人物に講談社の週刊フライデー編集部襲撃事件を教唆し言論弾圧事件を企てた影の黒幕であった事実が最近になって出てきた。
(事件後は警察から組員への厳しい追求にも指示した人物が誰なのか判明せず首謀者の木山(旧姓・杞山)は逮捕を逃れた。)

※詳しくは溝口敦 氏のホームページ http://www.a-mizoguchi.com/trial_8.html を参照。
この事件に関し余談があるそうで、木山(杞山) 岳史なる人物は国産の高級車を関誠会の浅田なる人物にプレゼントしたという。
当然、犯人の関誠会・藤井なる人物にも同様に手当てがあったという。
数年前～現在
毎日座っているだけで、月に数百万円といわれる利益を生む自動車担保金融業(大阪府門真市)を計画的に倒産させ、同時期に引っ越し、さらに追跡調査を恐れてか姓名の姓の字を杞から木に変更し足跡を消したとのことである。
また、妻であった女性が逃げたのも同時期である。
一体、何を見たのか？
木山岳史なる人物は数年前から自宅から出ない生活を送っているという。
とある近隣住民は言った。「様子がおかしいんです。」
どうしてこれほどの言論弾圧事件の首謀者でありながら今まで名前が出てこなかったのか。
溝口敦 氏 有田芳生 氏
講談社 週刊フライデー 週刊現代 かもがわ出版 報道機関関係者 各新聞取材記者
住民の声 2008-10-15 09:27:38

Diary. October9. Thursday. 日本の天皇制度。

日記。ＥＳＴ１０月７日。火曜日。

★ チャックの風邪は肺炎にならなくて済むみたい。彼は慢性気管支炎なので、うっかりすると肺炎に進行してしまうから、毎度びくびくする。正午にジェヌアルド超級市場で食料品を買い出ししたあと、ボーダーズ書店に入った。

昨月だったかに出版されたばかりのＢｏｂ Ｗｏｏｄｗａｒｄによる白亜館内紛争暴露報告が４０%割引で投売りされていたので求められて嬉しかった。そろそろイラク戦争暴露も読者に飽きられ始めたのかもしれない。それからＷｉｌｌｉａｍ Ｍｏｒｇａｎ編纂の「田舎教会建築」も買った。両方ともあわせて＄２０．近頃はチャックと僕の主客転倒で、書籍代は彼が全部払ってしまう。

Woodward, Bob. The War within. Simon & Schuster, 2008

まだ小田実を読み続けているから、ウドワード書は拾い読みしただけ。イラク侵攻後の白亜館の内情を積極的に暴露している報告書。

Morgan, William. American country churches.

モルガン書は、米国田舎に散在する典型的な教会建築３６軒の豪勢な写真集。これも売れ残りらしくたった＄８．そのうちに、米国教会建築についてエッセイを書きたい。アメリカの教会建築は欧州伝統の寄せ鍋に起来しているから、面白みがある。

夕食時間になって、チャックの指摘でＴＶを視て、ダウ平均が５００点下落したことを知った。深刻だ、イラク戦争の浪費とウオール街の極端な規制廃止が齎した無政府状態だったと思う。

今回の政府介入は、一応「国有化」とも言えよう。

★紐育の金さんより。１０月６日受信。

コクタイ、日本天皇制度の本質。

ー天皇は近衛の影響だろうか共産主義に異常なほど恐怖している。そこには書かれていないが、彼には国民に対する信頼はない。要するに天皇制の擁護だけが目的だった。ー　しんや。

日本の 歴史において 国民と 天皇の 接触は 平安朝以後は 天皇による 律令（法律）の 制定も ほとんど ないといっていいほど 政治とは 無関係に 京都に 囲われている。 ある意味では 幽閉されており 天上人として 天下の 騒乱と 無関係に 存在してる。武家の 天下取りの 騒動にも 租界のように 侍 武人の 権力にも 干渉されず また 干渉しないで 戦国の 混乱と 百姓たちの 殺戮にも 無関心に 安住している。

武士たちは 天皇の 安全を 保障する代わりに 武人たちの 権威を 高めるため 官職の 任命者として 温存していた。幕末 急に 尊王を 掲げて 天皇擁立を 騒ぎ立てたが 要するに 誰が 先に 幕府に 代わって 天皇を 戦利品として 権力を 占領するかの 名文にすぎなかったように 思われる。

明治維新後も 天皇は 統帥権者にすぎず 内閣が 実質的には 国家権力を 行使していたが 総理大臣に 決定権がなかったので 天皇の名を かりて 強者独裁になり 陸軍の 暴走が 戦争の 奈落へ 急進するのを 誰も 制止しなかったと言うよりも 制止できなかった。天皇は 一度も 民の 戦禍を 憂えて 陸軍をたしなめた事もなかったように 思はれる。

これが 天皇無責任論の 根拠に つながるが 一部の 天皇責任論にも 肯定する 点は 十分にあると 思われる。マッカーサーが 天皇制維持を 承認したのも 幕府が 天皇の存在を 保障することにより 幕府の 権威と 権力を 維持し 確保した 日本の伝統を 受け継いだのと 共通性があるように 思はれる。天皇制廃止の 革命よりも 安定的 占領政策のためであった。

米軍は 日本を占領して、国内安定的を持続した反面、 戦争責任を 埋没してしまい、 戦後の 国際関係を 交錯させる 歴史認識問題の 出発点を醸成してしまった。一方、ドイツの場合は ナチスを 処断することによって戦争の 全責任を ナチスに 全的に 帰着させて 戦後の ドイツは 白紙より 出発することができた。

これが 日本と 戦後ドイツとの 決定的 相違だ。

日本は サンフランシスコ条約で 国際法的には 戦犯処刑により 犯罪は 清算されていると 言える。しかし 戦前の 天皇制を 継続しているため 戦前との 決別が 歴史的事実関係では 清算できていない。

負担から 免責されていないので 歴史認識に 国際的 認識の 錯乱が 起きている。小泉前首相のとき 戦争肯定論が 一部に 起きたのは 天皇制の 継続が 体制的に 内蔵している 二重性のためであるように思う。幕府は 現在の 内閣責任制の ように 政治と 行政の 行為者であると 同時に 責任 担当者であり 天皇は 象徴に 限定されて 国家統治に関する 統帥権とは 無関係であったのは 戦後の 平和憲法と おなじである。

明治憲法では 天皇が 統帥権者であったため 戦争の 責任論から 完全に 無関係とは いえない 矛盾が 戦後の 歴史認識の 根源であり 複雑にており 時には 国際関係の 緊張の 原因にもなっている。

★ Ｔｈｏｍａｓから。

日本を遠方から眺めている僕たち外国人にとって、金さんのこの見方はもうすでに定着していると思う。日本流国体は神聖視されたし、今後も神聖視する人は残るだろう。日本の天皇制度は「悪」であると反体制側が言っているのは理解できるけど、日本文化絶滅の危機にあっていたころ、天皇制度は日本を社会的崩壊から護ったとも言える。

Ｖａｔｉｃａｎ の法皇 に日本の天皇は、歴史上少し似ている。

朝鮮王朝の没落は過度な中央集権制度により、外来異文化要素を急速に吸収できなかった原因もあると思う。全ての点で、朝鮮は日本に半世紀遅れて、とりかえしのつかない状態になってしまった。

ただし、僕が書いていることは単なる印象にすぎない。

今朝の紐育時報で、「過去の日本郵便貯金制度を褒め称えた記事を読んだ。」（笑）

★ 新潟の襄から。

とむさん

今日は初任者研修の一環で、長岡市の郊外にある県立歴史博物館へ。
米作りと雪国の暮らしという二つのテーマを中心に、縄文時代から
現代に至までの歴史を学べるように資料が展示された博物館です。
学芸員の説明を受けながら、見学してきました。

美術館や博物館って、だだっ広くて、無駄にスペースを使っているのが

何とも心地良いですね。

フィラデルフィア美術館なんて、あんなに広くて見上げるほど天井が高くて、
それなのに寒くなるほど冷房を効かせていて、とんでもないエネルギーの
消費量でしょうから。

金さんの結核にまつわる思い出話を興味深く読みました。
矢口さんもと言うことは、かつては随分と我々に近しい
病気だったんですね。
よくドラマなどで喀血する場面が登場しますが、あれだなと思いながら読みました。
ちなみに私も、過去に結核に罹っているそうです。
胸部Ｘ線撮影に、その影がしっかり映っていると毎年指摘されています。
一体何時罹ったのか分かりませんが。

お二人とも、体調は恢復されたでしょうか？

★

歴史　商船、ＳＳ　メレディス・ヴィクトリー号。

October 10, 2008
★★日記。ＥＳＴ木曜日。早暁。

★東京のしんやから。

朝はちょっと寒かったので着こんだが、すぐ気温が上がり、どんどん脱ぎ替えた。なかなか秋らしくならない。
リービ英雄の作を読んでいる。最近は彼はもっぱら中国旅行を繰り返しているようだ。田舎に行くと「老外」（註。ガイジンさん）という歓声に囲まれる。そういう体験と、方言がわからなくて手探りのような旅の経験が語られる。
共産党の政策か、あちこちにある記念館のたぐいは大体が抗日戦争の記念館のようだ。そんなことがわかってくる。
情報不足は日常的で、高速行路が突然封鎖され、翌日の英字新聞で開封の近くで漢民族とムスリムの衝突があった、と書かれているのを読む。そんな調子だ。黄河大橋をわたると水流は少なく、ほとんどの河原が一面の麦畑、という光景も出てくる。群盲象をなでる、のたぐいで、この大陸では人間の行動範囲が限られてくる。

ノーベル賞を日本人が四人受賞してちょっとしたした騒ぎになっている。（註。アメリカでは、アメリカ人１名、日本人３名と報道されている。ただし写真入りで。それが正確だ。一人の国籍はアメリカ。）めずらしいことだが、ほとんどが３，４０年前の業績に対する賞で、遅いという説もある。文学賞も、などと思うが、該当しそうな作家はいない。 進也、１１時

★Ｔｈｏｍａｓから。

単調な一日だった。チャックの風邪は大分よくなったが、持病の慢性気管支炎で注意が必要。それでも、彼は教会に行って半日勤労奉仕。僕には真似ができない。とにかく、毎週数回聖餐用布巾（日本語名を知らない）は洗濯、糊付け、アイロン懸けを怠らないのだし。（随分、時間がかかるのだから。）

昨日は、あまり読書しなかった。ただ、経済恐慌が続く。ポールソン財務相の７５００億弗の経済界救助策にも拘わらず株価は下落し続けている。アイスランドがほぼ破産して、露西亜に救助借款を要請しているらしい。

今、金曜日１０月９日早暁。余暇明けたらペンフィールド駅でひさのさんに逢って、二人で費城東部のケンジントン波蘭系区域に行く。今年の春に新潟の襄が来た時、あそこに連れて行ったことをこのＢｌｏｇに記録した。

★★　フィラデルフィアの僕たちが覚えている挿話。

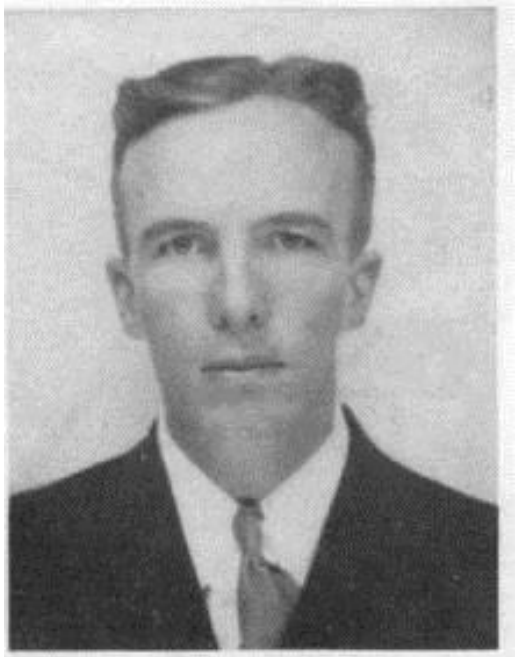
朝鮮戦争中、マッカーサーの北進で米軍が鴨緑江に到達し、予期しなかった（？）中国共産軍の介入に逢い惨敗し、酷寒の冬に南に向って敗走したことがあった。

あのころ、アメリカの僕は当時北朝鮮政府統治政策やあの社会内実情について完全に無智だったし、北朝鮮民衆が共産統治にどう反応していたかを理解してもいなかった。

清津の近くだかにフンナムという港町がある。漢字名がわからない。そこまで退却した米軍に追随して逃げてきた北朝鮮民衆は十万人を超えた。

当時、フィラデルフィア出身の貨物船船長にレナルド・ラルーという人が居た。ムーア・マコルミク商船会社の職員だったが、軍事航海運送局との契約で、所属貨物船メレディス・ヴィクトリー号を指揮して釜山からフンナムへジェット・ｊ揮発油燃料３００トンを満載してフンナムに入港したばかりだった。勿論退却してきた米軍に揮発油は不必要。米軍が直面していた問題はどう米軍兵士たちを緊急救助して南朝鮮に運ぶかだった。だが、退却に付随して逃げてきた十万名を超える民衆が波止場で震えているのを見て、米軍将校たちは困惑していた。

その時一肌脱いだ船長たちの一人がラルー船長だった。彼が指揮していた貨物船は乗組員４７名と乗客１２名、合計５９名の運送能力があった。ラルー船長は決断して、避難民を載せるだけ載せた。五つの輸送倉と甲板全部に立錐の余地もないほど１万５千名の民衆を詰め込んだ。



Captain Leonard P. LaRue

そして、酷寒の航海で、フンナムから釜山までの航路を、いつ触雷して爆発するかもしれない５２ガロン・ドラム缶に詰めた３００トンの揮発油を満載したまま、水雷が漂う日本海を南下した。満載された民衆はフンナムから釜山まで、勿論全路身動きできず、食糧もなく、飲み水もなく、医師もなく、通訳もなく、便意を催したら垂れ流しするほかなかった。到着した釜山には上陸できず、さらに８０キロ離れた巨済島まで航海して民衆をＬＳＴによって下船させたそうだ。
後日船員の一人が語っている、「あの時、朝鮮の人々はね、ストイックであるにしろ、あの酷寒だった全航路をどうやって身動きもしなく、完全に沈黙を守って立ったまま耐え忍んでくれたか、僕は信じられないよ。僕たち乗組員はそれこそ感動したものだった。」

このように、十万の民衆はほとんど全員救出されたそうだ。

ラルー船長は１９５２年までメレディス・ヴィクトリー号を指揮した。（ワシントンに於いて、１９６０年に彼は米国政府からこの義挙に基づいて叙勲されている。）

信仰深かった彼は２２年の航海職務から退役して、１９５４年にペンシルヴェニア州のベネディクト派の聖パウロ修道院に加わった。この修道院はフィラデルフィアの北に位するニュージャージー州ニュートンにある。

あの朝鮮戦争から半世紀経った。そして、独立した韓国がアメリカに自動車を輸出する時代になった。

一方、もともとドイツの修道会に所属していた聖パウロ修道院では修道僧の老化と相次ぐ逝去が続き、この修道院に未来がおぼつかなくなった。したがって、ドイツの大司教が韓国のカトリック教会に要請した結果、韓国大田の修道院が８名の修道僧を応援に派遣したそうだ。大田修道院が援助を約束した二日あとの２００１年１０月１２日に修道名が　”マリヌス”　（Ｂｒｏｔｈｅｒ　Ｍａｒｉｎｕｓ）となっていたラルーさんが亡くなった。

現在、この修道院では韓国系の修道僧たちがラルーさんの遺志を引き継いでこの地区の人々のために働いている。

間違いだらけにしろ、僕たちのアメリカにも、こうした伝統挿話が残る。
あの戦争で無謀に北進して、こてんこてんに負けて、退却したハンナムでも、
朝鮮戦争中、僕たちの軍隊は救いを求める北朝鮮民衆を遺棄しなかった。

参照：

"The greatest rescue operation by a single ship in the history of mankind."
SS Meredith, Victory.

www.shipofmiracles.com

Gilbert, Bill. "Ship of Miracles: 14,000 lives and one miraculous voyage."
Triumph Books, 2000.

★★★

Comments

1　■フンナムは「興南」と書くのでは？

Dear Mr.Thomas Penfield,

トーマス様

お尋ねの漢字表記は「興南」でしょう。

> 清津の近くだかにフンナムという港町がある-----漢字名がわからない----

そこは、清津から相当南に離れた港の「興南」ではないですか？　清津は朝鮮北部の代表的な港で、その昔、福井県敦賀市から定期航路も設定されていた筈です。

一方、興南は、工業都市のハムフンの南に位置する港町。北朝鮮でも中部に在り、地理的な位置は全く懸け離れています。

以下は、Wikipedia の都市紹介項目「ハムフン」に付属した衛星写真のページです。手前の右下、東朝鮮湾に向かい南側に開けた港(防波堤や埠頭も散見できる)が、お尋ねの「フンナム」でしょう。URL は、

http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/2/20/Hamhung_127.54085E_39.91185N.jpg

他の資料などとも照合して、御確認下さい。

お元気で。

Yozakura 2008-10-14 16:27:45

2 ■No Title

どうもありがとう。そうでした。

僕は漢字で育ったし、朝鮮半島地理に疎いので英語綴りの地名には閉口します。漢字名がわかっても、今度は発音できないことがよくあります。笑。

お手数かけました。

thomas-penfield 2008-10-15 02:30:19

歴史　北方領土先住民族について。

October 11, 2008

転載：

西羽　潔　Kiyoshi Nishiha

Email:　nishiha@rose.sannet.ne.jp

「戦争を語り継ごう　－リンク集－」

http://www.rose.sannet.ne.jp/nishiha/senso/

★　第一部。

神戸護国神社で、ひときわ大きく、異彩を放っている「北方異民族慰霊之碑」について。

「北方異民族」という

のは、かつて日本の領土だった南樺太（現サハリン）の先住民族であるウィルタ人（オロッコ人）やギリヤーク人のことを指しています。
戦前・戦中はそう呼称していたのでしょう。

戦前から日本陸軍はソ連軍の動向を探るため、国境を接した南樺太に陸軍中野学校出身者を中心とした特務機関を設けていました。戦争が激しくなってきた 1942 年、カラフトの陸軍特務機関は先住民族の青年を召集、対ソ連の諜報活動に従事させました。

日本の敗戦後、彼らは置き去りにされ、そしてソ連によって戦争犯罪人としてシベリアに送られ、多くの人が強制労働や飢えのため亡くなりました。幸い生き残った人の中には、故郷サハリンへ帰ることが叶わず、国籍もないまま日本へ引き揚げた人も多くいたようです。

元樺太敷香（しすか）陸軍特務機関長だった扇貞雄元陸軍少佐は、シベリアに散った多くの部下を悼み、「日本のために殉じた異民族の慰霊は私がしなくて誰がする」という執念から、復員後起こした会社が倒産の危機にある中で、この慰霊碑を建立しました。

兵庫県出身でない樺太先住民たちは、この神社には祀られていないと思いますが、扇氏は戦後神戸市でずっと会社を経営していましたので、この神戸護国神社に慰霊碑を建てたのでしょう。

この慰霊碑の写真は、次のサイトでご覧ください。

「兵庫県神戸護国神社」
http://knishiha.web.fc2.com/gokoku.htm

●

シベリヤから運よく生還したウィルタ人の一人にダーヒンニェニ・ゲンダーヌ（日本名：北川源太郎）という青年がいました。

彼はサハリンへ帰ることができず、北海道の網走へ移住し、肉体労働で生計をつなぎつつ、少数民族の軍人恩給支給問題を国へ訴えました。1976 年、この問題は国会においても論議されましたが、当時の少数民族に日本国籍はなく、兵役義務もなく、非公式の令状にて召集されたとして、彼らに戦後補償が与えられることはありませんでした。

1976 年 5 月 13 日の参議院内閣委員会における小笠原貞子議員（共産党）の質問から、ゲンダーヌ（北川源太郎）氏の特務機関・シベリア抑留時代を紹介した部分を引用します。

＜ 当時この北川源太郎氏は十八歳の青年でございました。この人たちも召集を受けまして、そして軍事教練、遊撃戦術教育、全く軍人と同じ教育を施され、しかも戦陣訓、軍人教育、いわゆる軍人勅諭というものをたたき込まれました。そしてその間言われたことは、この戦争中南方では台湾の高砂族ががんばっている、おまえらも負けずにがんばれと、こういう上官の中野学校卒業の将校らが指導したわけですけれども、叱吃されて、そして北緯五十度、広大なツンドラ地帯で、忠実に、実に忠実に任務に従ったわけです。上官の命令で、あるときはソ連領側にいる同族らを拉致してきたり、殺害するといったようなことまでやらされておりました。この間オロッコ族はほとんどばらばらになるという目にも遭いましたし、北川さん自身もお母さんを失うというようなことになりました。

終戦になりました。北川さんは仲間とともに日本軍人としてスパイ容疑で諜報活動していたということでソ連軍につかまって軍事裁判を受けて、そしてその結果、重労働として八年の刑を受け、シベリアに八年間抑留をされていた、こういうことでございます。そして昭和三十年、北川さんは刑を終えてやっと復員してきたわけですけれども、日本の戦犯になったということでございますので、気がひけて自分のふるさとであるオタスの森にも帰られないというわけで舞鶴に引き揚げてまいりました。そのとき北川さんに手渡されたものは毛布五枚と下着、米穀通帳の引きかえ券、当座をしのぐ一万二千五百円というお金だけでございました。これが北川さんの人生の十八歳から十三年間ふるさとを失い、貴重な青春を棒に振った代償でございました。＞

「参議院会議録情報 第０７７回国会 内閣委員会 第４号」
http://kokkai.ndl.go.jp/SENTAKU/sangiin/077/1020/07705131020004c.html

この問題が起こったとき、扇元少佐は神戸からわざわざ網走までゲンダーヌ氏に会いに行き、「私があのとき責任を持って召集をした、たいへん苦労をかけていまなお解決できない、まことに申しわけなかった」と詫びたそうです。

このゲンダーヌ氏の告発をきっかけに、1975 年に「オロッコの人権と

文化を守る会」（翌年ウィルタ協会と改称）が発足、資料館の建設、
慰霊碑の建立、樺太の同胞との交流など、ゲンダーヌ氏は少数民族の
復権に努めました。

多くの人の寄金で建てられた慰霊碑は、網走市に「静眠の碑」、サハ
リンのポロナイスク市（旧敷香）に「北方先住少数民族戦没者慰霊碑」
があります。

「ウィルタ協会：慰霊碑の建立」
http://www.d2.dion.ne.jp/~bunkt/katsudou/ireihi.htm

神戸護国神社に建つ「北方異民族慰霊之碑」は、建立の趣旨を記した
石碑がしゅろの葉の陰に隠れてまったく見えず、その由来を誰に知ら
れることもなく、ひっそりと建っているように見えます。

★　第二部。

西羽　潔様、そして皆様。　　池田幸一です。

先住民族の「シベリア抑留」に関わる貴重なお話を頂きましたので、体験者と
してお礼方々所見を述べさせて頂きたいと存じます。ウィルタのゲンダーヌさん
のことは神戸オフでのＦＷで直接見聞しただけにひとしお辛い思いを致しまし
た。

この人は自らの生涯を棒に振らされた悲しみと恨みの原因をソ連と考えたか、
または冷酷非情な日本だとしたか、貴方はどちらだと思われますか？　私は私の
体験上、後者であっただろうと思います。

必要とあれば愛しい家族から引き剥がしてこき使い、都合悪しとみれば履き古
した草履のように捨てて顧みない。天皇の正社員を除いて並みの庶民や足軽ども
は日本人であっても無視する国が、外国籍の人々にまで配慮するはずはないので
あります。

どこの国でも、例えばグルカ兵（インド）は宗主国であったイギリスが、アル
ジェ兵はフランスが、戦後の変化に関わらず本国と同様の扱いをしています。そ
の反面我が国は「靖国」の祭神として朝鮮族２１，１８１名、台湾族２７，８６
３名を合祀していますが、外国籍であるとして遺族への公務扶助料は一切払って
はいないのです。

つまり遺族の承諾もなく勝手に祀り上げ、一銭も出さないと言う、また度々の分祀依頼をも拒否するとは、いったいまともな人間のすることでしょうか。ゲンダーヌさんに軍人恩給を与えるなど、とてもとてもそんな優しい国ではありません。

序ながら韓国人の「シベリア抑留」事情は以下のとおりです。その数約３５００人、うち抑留中の死亡１３００人、無事帰還したのは約２２００人。抑留３年で各地から１箇所へ集められて北朝鮮の興南へ。１９４８年に３つに分けられてダモイとなりました。中国へ３０２名、北鮮へ１３６０名、韓国へ５００名の計２１６２名です。

韓国への漢灘江や山岳地帯の３８度線を越える時、銃撃されて命をなくした者もあり、やっとの思いで帰れば帰ったで祖国の警察や収容所で尋問されるという、実に苛酷な運命が待っていました。

その後もたいへんで、アカだの日帝協力者のレッテルは容易に取れず、ようやく声を挙げられるようになったのは１９９０年末のことだったといいます。以後今に至るも日本政府を相手に日本兵同様の処遇を要求し続けて係争中。この至極当然なことを拒否しているのが日本政府であります。

「朔風会」を組織する彼らも老いが進み、今は３０人弱と相当痛んではきましたが、直情一筋の義は固く、日韓両政府への果敢なアタックは敬服の至りです。私たちより数倍も苦労をしている彼らを差し置いての「旅行券」は、そうむざむざと行使できるものではありません。その一部を集めて昨年はソウルを訪れ、僅かながらに労苦を分け合いました。

戦争への反省と償い全般に対することですが、我が国の血も涙もない仕打ちはいったいどうしたことでしょうか？　特に外国籍への極端な薄情さは“貴重な血税は負担しない外国人にそう簡単に使うわけにはゆかないのだ”　というのですが・・・・

そのような冷たい国の穴を辛うじて埋めているのが名も知れぬ草の根の善意であります。”冷酷な国には心底腹が立ちますが、貴方たちの気持ちで癒されているのです”この言葉一つで友好が保たれている危うさ、私は幸い小降りになった雨の好意のもと、扇元少佐の心情を偲びながら「北方異民族慰霊乃碑」に手を合わせました。

★

Diary. October12. Sunday.　１０月初旬の二日。

日記。１０月９日－１０日。（木曜日・金曜日）。

★木曜日。
午前９時に、ひさのさんを誘ってペンフィールド駅で落ち合い、郊外急行と地下鉄だけをつかってフィラデルフィア東北のアレゲニイ駅まで行って、ケンジントンの波蘭系住民区域を二人でぶらついた。歩きながら、往時に建設された種々の教会を指しては説明した。襄と一緒に４ヶ月前に歩いた道だ。うららかに晴れてくれた秋の午前１０時。

行き着けの食料品店で燻製ソーセージ二個と波蘭製鰯缶詰５個を仕入れて、リュックサックに入れ、二人で庶民長屋区域をぶらついたあと、襄と入ったダイナーで昼食を摂った。僕はこのＤｉｎｅｒがとても気に入っている、ありふれたＤｉｎｅｒではあるけれど清潔で、もともとはＮｅｉｇｈｂｏｒｈｏｏｄ雰囲気がしみついている。夜になると酒場になるらしいが。
午後２時半に帰宅。

★金曜日。
ダウ平均暴落とクレヂット・恐慌の二日。老後への蓄えと信託した株系投資が３００％消えた。Ｍａｒｋｅｔ　Ｆｕｎｄに信託しておいた現金は大丈夫。

こうなるのを見越して用心して、三ヶ月前に預金がほとんど全部株系だったのを、５０％をＭａｒｋｅｔ　Ｆｕｎｄ　やボンドのナマに移転しておいてよかった。そちらは問題ない。だけど、利率や市場価値が多かった株系だけに信託して、年金生活をしている老人たちは困ってるだろうと思う。アメリカ生活はシンドイ。

チャックの風邪がいつもの通りに肺炎に進化し始めた。慢性気管支炎が持病だからしかたがない。朝九時半にミラー博士に電話して、Ｂｒｙｎ　Ｍａｗｒの薬局に連絡して貰い、そこに二人で抗生物質を受け取りに行った。

チャックはＢｒｙｎ　Ｍａｗｒで生まれて育った。だから、こちら生まれの知人が多すぎると言えるほど多い。薬局のおばさんもＢｒｙｎ　Ｍａｗｒ出身だ。そして、チェインの隆盛にもかかわらず、この薬局は老舗で生きながらえている。薬局に入ったら、７３歳の老婦人に紹介された。僕とは初対面だけれど、チャックの従姉だ。メリー・アン・クラン。結婚前の苗字がドカティー。チャックと彼女の間にたちまち昔話の花が咲いて、彼らは結構３０分ぐらい話し込んだ。彼女は勿論僕のことについてはよく知っていた。チャックの親類の葬儀があるたびに二人で顔を出しているから、葬儀社の社員まで僕を覚えている。笑。

マケインの選挙運動が極度に汚くなってきた。支持率が下がってきたので、必死なようだ。
選挙運動広告に昔流の悪口、人種差別が目立ちだした。オバマが８歳だったときに、爆弾事件を起こした男にオバマをひっかけて彼の忠誠問題を口にしだした。白人反動どもが太平洋戦争以前に、日系市民たちを蹴飛ばし歩いた手口に似ている。

風景描写　イラクの基督教徒迫害。波蘭住民区の思い出。

October 13, 2008
日記。ＥＳＴ　土曜日、１０月１１日。深夜。

よく晴れた土曜日だった。週末だからチャックは今日と明日は教会でオツトメ。昨夜彼は数十枚のＰｕｒｉｆｉｃａｔｏｒ聖布（日本語？）を洗濯、乾燥、糊付、アイロンと忙殺されていた。あんなに丁寧に準備される聖餐はフィラデルフィアにはまずないだろう。勿論全てが奉仕だ。

NY Times　によると、イラク北部イラクで今度は基督教徒が迫害されている。

南部から追い出された彼らは安全を求めてクルド族が多いモスル市に避難していたが、少数族の自治に関して米国支持下のイラク議会で紛糾が起こっていて、基督教徒排斥を醸成しているらしい。モスルでは住居の焼き討ちが続き、カルデア・カトリック教会の大司教が暗殺され、この数日間に１０名以上の医師、薬剤師、教員などの暗殺が連続して、５００名以上の基督教徒がモスルを避難脱出している。イラクに８０万も居た基督教徒人口は現在その３分の１に減ったと言われ、ヨルダンの避難人口の殆どが基督教徒だとも言われている。

国際連合をめぐる国際倫理は少数族を保護していない。コソヴォのアルバニア族、ボスニアのムスリム族、樺太の先住民族など、民族乃至宗教的少数族や被征服族は概ね自治権を認められていないし、住んでいる土地の領有権も剥奪されている。

樺太には露西亜がほぼ百年前に入り込んできて、領有権を主張しているが、もともと樺太は樺太に昔から住んでいる種族に帰属すべき土地だと僕は思う。

「見つけたからおいらのもの」という論理は、神憑りのローマ法王さまのご託宣で大西洋を二分してこの世界をスペインとポルトガルに分け与えた歴史に発祥していて、偏見と傲慢も甚だしい。見つける人間はもともと白人だけに限られていた。

今朝　Ｎｅｗ　Ｙｏｒｋ　Ｔｉｍｅｓ　を読んで知ったが、イラクの基督教歴史もユダヤ教歴史も随分昔に遡るようだ。アラメイク語を話すユダヤ種族は紀元前５世紀に定住していたらしい。基督教もアラメイク語種族に伝播されて、ローマ教会とは平行した歴史を持つようだ。現在のカルデア・羅馬教会やアッシリア教会の歴史も古いが、僕はあまりよく読んでいないので知らない、今後読書が進むにつれてこのＢｌｏｇに記録していく積りだ。

今日も一日中、時間をおいては定期的にバイエルを弾いてピアノを練習して過ごした。

★　新潟の襄から。　　アレゲニイ・ケンジントン波蘭系住民区の思い出。

とむさん

私がとむさんからケンジントンの波蘭系住民区域に連れて行って貰ったのは、
「４ヶ月前」ではなくて「２ヶ月前」です。
だって、８月２日のことでしたから。

その日は「ケンジントンに行くよ」と言われていたのですが、それがどんな街なのか
見当もつきませんでした。
以前から，スラムや黒人街を見ないでアメリカを見たことにならないと言われていたし，
いよいよ行くのかと、映画で見た町並みを想像しました。

電車の窓から見るスラムは、随分荒れ果てていたし、大丈夫かなあ。
不安を胸に出発したのです。
電車が地上に出て川を渡ると，工場街。乗り込む乗客も黒人が増え、ホームの汚れが
目立つようにも感じられて，いよいよ怪しげな雰囲気。
ここだよと言われ，下車。ホームから大通りを見下ろします。
道路の両側が駐車車両に占領されているのは散々見た光景でした。
道路を通行する車はそれほど多くはないが、広い歩道にはゴミが目立つ。
道路沿いの町並みはずっと続いているし，駅周辺でもあって商店は多いけれど，
建物自体が汚れている。そんな様子が，一瞥しただけで見て取れました。

街に降りて二人で歩く。
黒人がたむろしている。家の前にたたずんでいる人の姿も目立つ。何をしているんだろう。
（冷房がないから涼んでいるんじゃないかというのがとむさんの説明）
あれこれを写真に収めようと思いはするものの、「何、写しているんだ？」などと見とがめられて，
誰か近寄ってきたらどうしようなどと心配が先に立ち、ほとんど写真を撮ることができませんでした。
「そんなことを怖がっていたの？！」と，後でとむさんには呆れられましたが，
怖かったんです！！

通りに沿って、かなり歩きましたね。
高架橋の下をくぐると，町の様子が変わる。住んでいる人種が違うからしい。
更に進んで，ポーランド人街に入る。
同じような長屋が続いているのに，街の表情は全く違うものになりました。
道路のゴミが消える。長屋の窓ガラスが，ピカピカに磨かれている。
玄関先や窓辺には花が飾ってある。
長屋全体の統一感や清潔さが，共同体意識の表れに感じられる。
ホッとしました。
黒人街では、隣近所には全くお構いなしに好き勝手な色のペンキを塗っている家が
とても目立ちましたからね。
Ｂｌｏｇに書かれた食堂は、ホッとした後のひとときでしたからよく覚えています。

フィラデルフィアサンドとスープを注文。熱いきのこスープはとても美味しく，
サンドも美味しかったのですが何しろでかい。半分食べるのが精一杯でした。
とむさんの注文したサラダの容器など，まるで洗面器でしたもの。

この日の私のカメラは、ほとんど何も記録されていませんでした！！

★　東京のしんやから。

キンモクセイがオレンジ色の花を散らしている。雑草のセイタカアワダチソウも今が花期だ。しかし１０月になると今年ももう年末か、という思いに駆られる。あわただしい。

今日と明日は休日を利用して原稿を書かなくてはならない。いろいろ宿題がある。
今、『森鴎外と日清・日露』という本を読んでいる。文芸評論の範疇に入るが、旅順虐殺事件も出てきて、引用の本に嶋名の本が出てこないのが残念だった。彼の本はどちらかというと目立たない。筑摩書房が出した井上晴樹の本に寄りかかっているみたいだ。引用文献が表出されていないのも困る。

リービ英雄の『延安』が面白かった。彼はもう何度も行っているが、今度に紀行ではビル街になった延安と、依然として周辺には洞窟住居のある村、さらに北へ行き、山西省が見える黄河流域ではまだ近代化の波の及ばない昔の中国がある。北京の、あるいは上海の、文明化した中国の後背には１００年も前の農民が暮らしているのだ。その状態がだんだんと言葉少なになる文章で書かれる。沿岸からの距離が遠くなるだけ、重層的に文明度が違ってくる中国の大きさがわかるとともに、何かひどく憂鬱になってくる。１０時半

★　Ｔｈｏｍａｓから。

リービ・英雄は凄いね。彼は僕と一緒に育ったＭｏｒｔａ　Ｇｌｏｂｅｒｍａｎを彷彿させる。彼は中国に郷愁めいた執着があるのだろう。今から考えるとモータの中国語は本物だった。米国南部のジョージアに２０年前に旅したとき、中国生まれのＰＫ（牧師の息子）たちに随分逢ったものだが、彼らＰＫＩの多くが君の書く山西省付近の黄河流域育ちが大分居た。

彼らは父母の布教で寒村で中国人の子供たちと中国語を話して育った。だから、彼らは実質的に中国人だったし、彼らの中国愛には打たれた。僕の青春期の対中国アメリカ外交にはＰＫが参加し活躍していた。極右の連中が彼らを国務省から追い出してしまったとも言えるけど。

★★★

Comments

1　■relax

襄さんのお手紙の中で「黒人が外でたたずんでいる」とありましたが、私も最初は、苦手でした。

ある日、むすこが黒人地域に遊びに行って帰ってくると、「皆、家の前で relax sしていた」というのです。戦前のえんがわ、又は、昔

東京の下町に夏の縁台のようなものでしょうか。

米国東部の寄宿学校の事務所で働いている人の話
「ある中国人の子供の残高証明書が（留学生は提出しなければならない）６０ミリオンだった。」恐るべし、中国の富裕層。
にゃにゃ 2008-10-13 01:05:49

2 ■No Title

たしかにそうですね。６０年まえにハワイかあの中華系学生の一人がＲｏｏｍｍａｔｅでしたが、春にハワイから彼に大きなトランクがつきました。開けてみたら、トランクににＯｒｃｈｉｄが一杯詰まってました。後年彼が結婚した時、僕は陸軍に徴兵されていて結婚式に列席できなかったけど、彼の父親は飛行機二台をチャーターしてシンガポールまで友人たちと一族郎党全部を連れて行ったらしい。彼の奥さん一家は当時のシンガポールに見切りをつけて、貨物船を一隻買って一族を引き連れてブラジルに移住して、アマゾン川河畔の荘園に落ちついたそうです。
僕の境遇とはスケールが違った。嘘みたいな話です。
Ｔｈｏｍａｓ
thomas-penfield 2008-10-13 04:49:40

風景描写　長女宅改築（リモデリング）と職人さんたち。

October 14, 2008

１０月１２日、日曜日。長女宅改築の進展記録。

経済恐慌にも拘わらず長女宅改築は進行している。玄関と台所に窓がはめ込まれた。
表壁はまだ覆われていない。右側の二階の窓が台所。その下が地階の車庫。（下掲第三写真。）

これが玄関の表門。

地階車庫。

現場監督と連絡の若い建築技師。アメリカの建築会社では、習慣として有名で老練な技師の下にこのような若い技師さんが弟子入りするらしい。李王家の李Ｑ君も昔ニューヨーク市でたしかＩ． Ｍ． ペイさの下で若い建築技師として働いていた。東洋に帰らなかったら良かったのに。彼はアメリカで幸福だった。

マスター寝室のスカイライト。はめこみが済んでしまっているようだ。

職人さんの一人。

マスター寝室の天井裏。種々のパイプやら配線装置が入るようだ。

居間は吹き抜け天井の大広間。表庭に面した壁は総ガラス窓になった。窓の後に玄関が見える。

台所。まだ流しや皿洗い機や冷蔵庫など種々の器具が運び込まれていない。

玄関、正面から撮った写真。アメリカではゲンカンという概念が希薄だと思う。長女が改築を僕と話し始めた時、靴を脱ぐ習慣を幼時から身につけさせて育てた僕は玄関の必要性を説いた。それで設計時期にこの玄関を考えだしたらしい。靴を脱ぐ習慣を取り入れたそうな。（くどくなるが、アメリカでは玄関の床は居住区域から一段下にさがっていない。日本人は靴を脱いで、床にアガル。）

もう一人の職人さんと彼の仕事道具らしい。この改築工事はおそらく２月あたりまで続くと思う。コネチカットの冬は一寸厳しいから、厳冬まで概ね完成してしまうとよいが。クリスマスにはチャックとまたこの村に戻るけど、家内マリカ宅に厄介になる。ほぼ一週間を皆と一緒に過ごすことになる。クリスマスに紹介する写真はもっと完成し充実しているだろう。

日米通信　金さんが見た世界恐慌と北朝鮮テロ指定解除。

October 15, 2008

★紐育の金さんから。

● 世界恐慌。

経済には疎いのですが、世の中ほんと大変な事になりそうで
すね？世界中、大丈夫なのでしょうか？じっと我慢してたら、
元に戻るような程度ならいいのですが？　　- えり　–

世界が こんなに わるくなったことがありません。 事必帰正 曲がったものは 元に戻る 間違ったことは 正しいところに帰る Ｂｕｓｈの 考えが 悪くはなかったが 計算違いをして 事態が 悪くなったのか あるいは 因果応報で 悪いことをした 結果であるのかは 見解の 相違かもわかりませんが ヒットラーよりも 悪い 結果で数千万人 あるいは 数億の人たちに 被害を 与えているのは 事実です。お上ごもっともで 権力に 従順な日本人にも 悪の 影響は 容赦ありません。権力が 人民＝民草のことを 優先的に 考えることはありません。テロ戦争の 名文も ウソで Ｂｕｓｈの 不法な戦争の 名文にすぎず 結局は 世界を 混乱と 塗炭の苦しみに 陥れました。新自由主義 聞こえは 良かったが 何のことはない アメリカの 資本に 自由＝有利にするこ８１で 他人のことは お構えなし 自分の勝手気ままが 新自由主義でした。それが 小泉が 拝み奉った 規制緩和であり ぶち壊せでありました。あまり 勝手すぎたので とうとう 脱線してしまいました。アメリカは勝手気ままに 特に ブッシは ふふまってきました。自分は 約束は 守らず 相手には 厳しく 迫りました。核については 勝手気ままです。イスラエルと インドには 寛大です。ＮＫと イランには 平和的 原子力の保有も 許せません。

アメリカが とうとう Ｎ＝ＥＦを テロ指定国家から 11 時に 解除しました。テロ解除の 約束を 守らずに あれこれ 難癖を 重ねて ウソを 重ねながら 引き伸ばしてきましたが 内部の不満もあり とうとう アメリカが解除をしました。

ＮＫが 正常国家になれば なるだけ 世界が 良くなります。悪口を 続けると 聞いた人は 本当にしてしまいます。イラクも アメリカが イラクの 石油を 横取りしたくて イラクの 悪口を 言い続けました。イラクが 悪くて悪口を 言い続けたのではなく アメカの 陰謀を 隠すため イラクを 悪人に 仕上げました。そして 逆に イラクの 泥沼にはまり その上 紙切れの 債券証書を 乱発して 自縄自縛して 世界を 混乱に 巻き込みました。アメリカを 断罪できる 力は 誰にもありません。断罪する代わりに アメリカの 地位が落ちて アメリカをコントロールする 勢力圏が できて 牽制と 均衡を 調節する 多国体制が 急速に 浮上すると おもいます。上海機構を 中心にする 中国 ロシア 中央アジアの 連合体

ＥＵ 発言強化 イスラム勢力の 増大による イスラエルの 弱化にともなう アラブ勢力の 台頭と ブラジル ベネズエラなどの 南米諸国の 反米勢力など アメリカの 地位低下は 既成事実になりつつあります。

ＮＫにたいする テロ国家からの 解除は 東北アジアの 勢力均衡にも 直接 影響を 及ぼし リミョンバクの軽率と 統治哲学の欠如は 韓国の 地位低下となると 心配されます。ＮＫは アメリカと 日本との 国交正常化が 実現すれば 急速な 経済建設による 発展にともなう 南北協力よりも 南北対立的 競争時代になるかもわかりません。金大中と ロムヒョンの 南北和平と 相互繁栄の 南北首脳協定を 拒否して ＮＫ圧迫政策を 続け 南北対話を 中断させている リミョンバクの 自家撞着です。東北アジアは 従来の 中国 韓国 日本の ３者関係ではなく 中国 韓国 ＮＫ 日本の ４者関係に 多角化されると 予想されます。

● 北朝鮮。テロ指定解除。

◇双方の利益に合致－－小此木政夫・慶応大教授（現代韓国朝鮮論）の話

検証問題でハードルを上げた米国が交渉決裂を避けるために元の枠組みに戻し、テロ支援国家の指定解除に応じたと言える。

◇燃料棒搬出が課題－－伊豆見元・静岡県立大教授（国際関係論）の話

北朝鮮は、核計画申告という大幅な譲歩をしたのに約３カ月間、テロ支援国家指定解除という結果が得ら

れず、核施設の無能力化中断などの行動に出た。これに対し、ブッシュ米政権は北朝鮮の出方次第では、クリントン９４権当時よりも状況が後退してしまうという懸念から指定解除に踏み切った。双方が失敗を恐れて譲歩した形で、現時点での評価は難しい。

「世に義人　一人だになし」の　聖書の言葉の　借用をすれば　世に　良き知らせ　ひとつだになしの　すべてが　悪くなる　暗鬱な中で　一つの　朗報がありました。
アメリカが　ついに　ＮＫを　テロ指定国家から　２０年９ヶ月ぶりに　手かせ　足枷を　はずしました。やっと　一人前の　普通国家の　仲間入りを　認めました。３－４年前の　２月０ＮＫと　６者協議の　再開に　合意した　直後　とたんに　協議とは　関係のない　ＮＫの　偽造ドル問題を　取り出して　協議を　１年以上　中断させた　ＢＤＡ銀行問題がありました。 そのとき　私は　婚約直後に　過去の　男との交際に　ケチをつけるのと同じであると　言いました。このときも　アメリカは　自分の手で　銀行送金を　解決しました。今度も　ＮＫが　核計画申告を　すれば　交換に　テロ支援国家指定解除をすると　約束をして　ＮＫが　申告をするなり　約束にない　厳=Ｅ６な　核検証問題を　突きつけて　またもや　 問題をこじらせて　ＮＫが　怒り心頭に　来て　無力化中止を　宣言して　６者協議を　破綻直前に　追い込みました。今度も　アメリカは　もとの　合意にもどってやっと　テロ指定国家より　解除しました。いつも　約束に　ケチをつけて　問題をこじらせて　結者解之(糸を　もたれさせた者が　解く）のことわざのように　結局は　アメリカが　もとの　約束に　もどって　解決しております。骨折り　損の　くたびれもうけです。それだけ　威信８２　失い　信頼を　おとすのみです。
しかし　時間は　かかりましたが　ＮＫが　正常国家に　編入される　重大な　決定となり　喜ばしい　限りです。之が　契機になり　金融問題も　徐々に　安定の方向に　解決して　行く兆しになるように　願っております。 糸の　ほぐれの　始まりとなるように　祈ります。アメリカの　意地悪も　ほどほどに　やめる　潮時になりました。意地悪が　通らなくなりました。それで　世界が　良くなります。

★

風景描写　フィラデルフィアとクランプ造船所、小村寿太郎、桝本卯平。

October 16, 2008

★ このＢｌｏｇに記事として数度紹介したが、フィラデルフィア都心から東北に急行電車で１５分ぐらい、デラウエア河河畔にそって離れた地点にケンジントン・アレゲニイ駅がある。

新潟からの襄君と、教会を通じて仲良くしているひさのさんと一緒に電車でこの付近を一緒に訪ねたことはこのＢｌｏｇで二度ばかり書いた。

アレゲニイ駅からアレゲニイ大路を東側のデラウエア河に向って１０分ばかり歩くと波蘭系住民区に入る。（下掲地図の赤線参照）。

僕一人だけでも、時々波蘭産の鰯缶詰と波蘭ソーセージを買いに来て、波蘭語書籍を商う小さい書店もひやかすことにしている。

建国以来２０世紀の始めまで、この界隈は世界有数の工業地帯でもあったのだ。今はすっかり寂れてしまって田舎然としているが。

そして、１９世紀の日本とも関係がある。日本の軍艦はおおむね英国製だったが、それでも二等巡洋艦「笠置」と「高砂」はフィラデルフィア製だった。皮肉にも、日本海に沈んだ帝政露西亜バルチック艦隊の数隻もこの地帯で作られた、（ＥＧ。戦艦レトウィザン、１２，９０２トン；ヴァリヤーグ（６，５００トン).

さらに、このアレゲニイ大路を東に向けて歩くと波蘭系カトリック教会を過ぎて、国道＃９５につきあたる。そして、その国道＃９５の背後にデラウエア河河原がひろがる。百年前ごろ、その河原は世界に誇れる造船産業地域だった。

十九世紀初期のフィラデルフィアにとって、ケンジントンと呼ばれたこのあたりは急速に栄えだした米国産業の新天地だった。

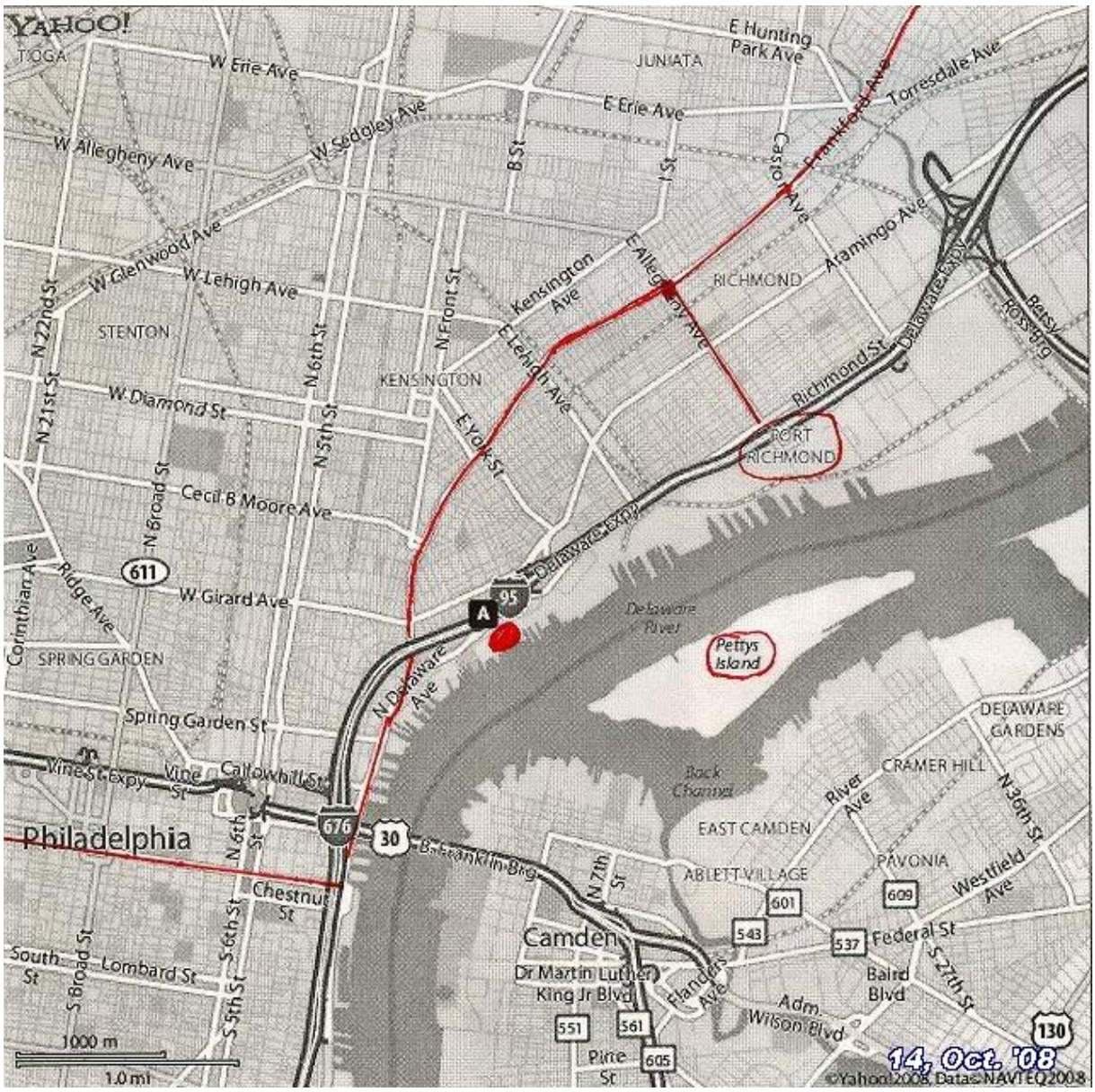
英国から学んだ蒸気機関の応用はやがて蒸気機関車製造業と造船業に実用化されて、フィラデルフィアは機関車を製造するボールドウイン（Ｂａｌｄｗｉｎ）会社と造船業のクランプ（Ｃｒａｍｐ）会社、によって代表されることになった。

この二つの産業は安価な労働力と、欧州で鍛錬された知識をもつ技術者を必要とした。

欧州からの移民たちや技師たちがここの工場で働きだした。１８４５年の愛蘭馬鈴薯飢饉、波蘭の独立運動に伴った動乱、イタリアの世紀末の動乱、ナポレオンの露西亜侵略、Ｐａｌｅと呼ばれた帝政露西亜ユダヤ族強制居住区内の迫害が米国の移民流入に拍車をかけたことは言うまでもない。

結果として発達したのが、労働者を住ませるための長屋住宅開発だった。フィラデルフィアはロウ・ハウスとよばれる長屋で有名だ,この町では長屋だけでも３０万軒あると言われている。

（下掲地図の赤線は２００８年における地下鉄・高架急行電車線。アレゲニイ駅は赤丸で表示。）



クランプ造船所はポートリッチモンドから南は二丁ばかり下がった地点だった。

デラウエア河にＰｅｔｔｙ’ｓ　Ｉｓｌａｎｄが記載されている。クランプ造船所はこのペティス島の対岸にあり、ペティス島にもクランプの造船工場が増設されていた。 クランプ本部工場は上掲地図の赤丸地点、Ｅａｓｔ　Ｐａｌｍｅｒ　Ｓｔ とデラウエア河の接点区域河原（記号Ａの下に河原地帯）にあった。下掲写真には当時の埠頭のギザギザが残る。

上掲と下掲の写真は当時のクランプ造船所。

★明治中期から後期にかけて、日本造船界で活躍した、桝本　卯平（ますもと　うへい）（１８７３～１９３１）と呼ばれた人物が居た。”ヒ日向の国、飫肥藩（日南市）油津上町の旅館「桝本屋」の長男として生まれた。

12 歳で振徳堂に学び、更に志をもって上京し、小村寿太郎侯爵の書生となった。 小村寿太郎侯の勧めにより造船学を専攻。小村侯の駐米公使着任をきっかけに一緒に渡米し、フィラデルフィア・ケンジントン区域のウイリアム・クランプ造船所で働きながら造船学を学んだ。

僕は宮崎県を訪れた経験がない。小村寿太郎は１８５５年の生まれだから、桝本は小村より１８歳若い。東京に大志を抱いて上京した彼は兄貴のような存在である小村寿太郎宅に書生として住み込んだのだろう。渡米した彼は小村寿太郎駐米公使の世話で、ドイツ系米人が経営していたクランプ造船所で働くことになった。（上掲写真は現在残っている、飫肥藩の城門らしい。小村寿太郎もここの藩士の末裔だそうだ。）

桝本卯平の凄いことは、クランプ造船所で製図の綺麗仕事とのあと、進んであのころ誰も顧みなかった造船所の職工として地道に、汚い、きついどんぞこ仕事から叩き上げて造船術の修行をしたことだ。さすがに、明治日本の青年だった。

クランプ造船所の経営者は独逸系ユダヤ人だったらしいが、（確実な証拠は見つからないでいる）。それはともかく、１８００年初期の造船企業界は帆掛け舟から蒸気機関船への転換期で苦労していたらしい。この造船所創設者ウイリアム・クランプは２３歳の若さで１８２３年に始業したといわれる。商船や軍艦の建設について、

帆掛け舟建設から蒸気船建設への転換に成功したのはウイリアムの息子のチャールスだったそうだ。桝本卯平が小村寿太郎の紹介で入所できたのは、息子のチャールス時代だった。チャールスは当時産業界を風靡しはじめた労働問題に敏感で、この造船所は進歩的な職員待遇で有名だった。

帰国後、間もなく今度は海軍国イギリスに渡ったが、この間、米英の労働事情の研究にも没頭した。 帰国後は、国内の造船所を渡り歩き、「造船界に桝本あり」と名を馳せた。彼は１９３１年、昭和６年に５３歳で亡くなった。

残念ながら、僕は桝本卯平の人生についてあまり知っていない。

もしも、このＢｌｏｇ読者に宮城県日南市について詳しい方が居られたら、飫肥藩の詳しい歴史と桝本卯平の生涯についてご教示願いたい。桝本卯平は造船所を渡り歩いたと書かれているが、僕にとって詳細は未だに不明。

（註。以上の記事の基礎：司馬遼太郎、アメリカ素描、読売新聞、１９８５年９月２８日、及び１２月４日。東京のしんやが送ってくれた、切り抜きによる。

司馬氏はこの造船所遺跡が見つからなかったと書いていたが、ＩｎｔｅｒｎｅｔでＧｏｏｇｌｅにより、僕はその遺跡の所在と上掲空中写真を突き止めることができた。）

★★★

Comments

1 ■昔

近所のおばあさん（９２歳）ロシア系ユダヤ人は、亡命革命家で細菌学者の父親が Richmond と Orthodox に開いた薬屋の２階で育ちました。

「父のお店のお客には、ずいぶん、船員さんがいたものよ、髭剃りや、歯ブラシなんか買ってくれてね。」

船員さん！今や影もありませんね。

にゃにゃ 2008-10-16 05:03:17

2 ■No Title

Ｐｏｒｔ　Ｒｉｃｈｍｏｎｄだかの Ｏｒｔｈｏｄｏｘ通りにあった旅行社で、１３年前に波蘭のカトヴィーチェやらクラカウのホテル予約をとってもらいました。まだあの旅行社が残っていることやら？あのあたりは、黒人化波が押し寄せてきていて、州際（インタステート）＃９５が防波堤になってました。次回の訪問には行ってみましょうね。食堂も一つぐらいは残ってるかもしれない。

thomas-penfield 2008-10-16 05:33:22

日米通信　費城（費府）のケンジントン。波蘭系住民区（続）。

October 17, 2008

日記。木曜日、１０月１６日、早暁。

★　東京のしんやから。受信（ＥＳＴ受信：１０月１６日、木曜日早暁。）

小村寿太郎関連の記事で、宮城県というのは間違いで宮崎県だ。日南市は県の南端に位置し、鹿児島県に近い。造船の技術者になった人物も調べることは出来ると思う。（Ｔｈｏｍａｓ註。幻滅だね、宮城でなくて宮崎だった。笑。僕も米化したものだよ。）

昨日、ノーベル賞についてのメールは尻切れトンボで、じつは１９７０年以降に業績を挙げたはずの学者、たと

えば中国、韓国、インドなどの人が授賞対象になるのはもっと先ではないかと思うのだ。

造船所の跡地には行かなかったが、アムトラックの列車でニューヨーク方面に行った時、線路際にずいぶん工場の廃墟があったね。フィラデルフィアは産業の興廃がはげしかったのだと思う。日本にはあのような廃墟は少ない。すぐにまた再利用されるからだろう。（註。Ｔｈｏｍａｓ註。そう、緯度から言えば、ケンジントンはあの地区のさらに東側だ。残る白黒混住住宅区域のそのまた東に流れるのがデラウエア河なのだ。）

宮城谷昌光の『三国志』第７巻を読んでいる。この人は中国の歴史を材料に小説を書くので有名だが、この『三国志』は今『文芸春秋』に連載中だ。７巻目は赤壁で曹操が敗北した以後が書かれる。まだ地歩の確立しない劉備が蜀に進出するあたり、曹操が西に軍を出して戦い、さまざまな人物が出てくる。宮城谷の書き方は漢文の名調子を引用したり、難しい漢字を、しかし意味はだいたいわかるように引用する。文春の読者は年配者が多い。そういう読者の好尚に投じ、同時に、軍略の立て方や、それを用いるのにどう考えたか、を描く。うまいと思う。誰でも知っている三国志をおさらいしながら、上にたつ人のあり方を説くというやり方。孫子の兵法は当時誰もがそらんじていた。曹操の留守を守る息子が、反乱した兵を処罰する時に、それを問うたら、軍の処理は任されていると孫子にある、という。著者は、論語読みの論語知らず、といい、孫子の引用より心を知るべきだとして、このときあえて指示を曹操に仰いだやり方を讃える。経営者や時として政治家に対する説法だと思う。進也、１３時

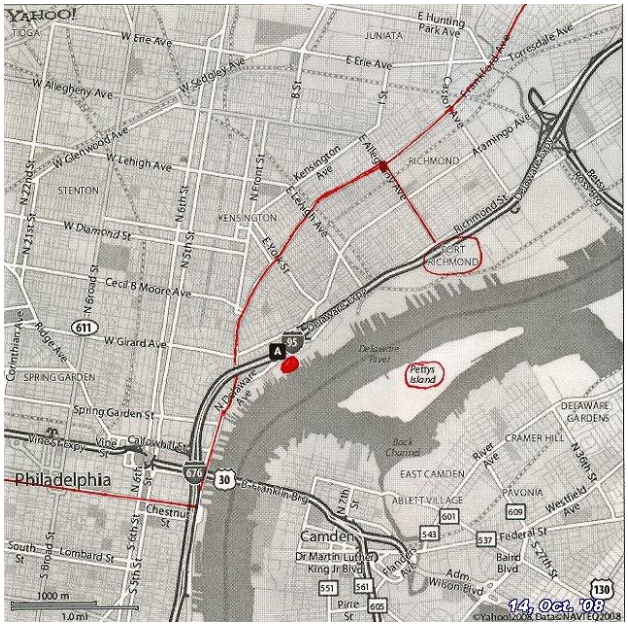
★　新潟の襄から。

とむさん

とむさんからお話を聞いて予習している私は、今日の Blog は余裕で理解できました！
でも、多くの読者はこれを読んで、「いきなり何だ！？」と思うことでしょう。
とむさんの興味関心、知的好奇心の対象は、振幅がすこぶる大きいですからね！

ところで、GoogleEarth のストリートビューでアレゲニイ駅からの道を眺めました。
撮影が少々古いので、今年の夏のままではありませんでしたが、高架橋の下を通り、
左に病院を眺めながら更に進み・・・という具合に、記憶を呼び起こしながら歩きました。
凄い！凄すぎる。
でも、ポーランド街へは、どう進んだんだろう？？？
私達は駅から河までの道のりの丁度中間地点辺りまで歩いたのだと思います。
道が真っ直ぐデラウェア川まで延びています。
（Ｔｈｏｍａｓ註：　僕たちが歩き回った区域はデラウエア河河畔のすぐ前、アレゲニイ大路の北側です。リッチモンド路とアレゲニイ大路との交差点あたりが缶詰を買った雑貨屋。行き着けのダイナーもそのあたり。

波蘭系住民区域は、アラミンゴＡｒａｍｉｎｇｏとリッチモンド、ＬｅｉｈｉｇｈリーハイとＣａｓｔｏｒキャスターで囲まれる矩形区域です。アレゲニイ大路はその区域を中心で両断しているわけ。この辺りの人種的、民族的分布についてはいずれ記事にして書きましょう。酷く込み入った話になるけど。）



こんなことができるから、尚のこと懐かしさが募ってしまいます。
いっそ、遠い遠い、容易にうかがい知ることのできない世界なら、スッパリと諦めがつくのに。

★

風景描写　ペンフィールド近辺。到了秋天了。秋来たれり。

October 18, 2008
日記。１０月１６日。木曜日。ペンフィールド近辺の秋。

自動車が修理でガラージへ。薬局に薬をとりに行くのに歩かねばならない。没法子、メイファーツ、しかたがなーい。
チャックが一緒に歩いてくれるというので、二人で往復５キロの道程を歩いた。

ペンフィールド付近ではもう秋が深まり日本紅葉が紅いに染まり始めた。

ブルックライン大路のこの薬局はチェイン進出ですでに廃業。だが、薬局前の紅葉は季節を忘れないでいてくれる。

路地を入ってこの辺りにきたら、僕たちの気に入っている一軒家が眼についた。屋敷の脇の庭はいつも丁寧に手入れがしてある。

やがて、一軒屋区域を出て、双子（Ｔｗｉｎ，ツイン）区域と呼ばれる区域に入る。昭和初期に流行ったこの住宅は一家屋を半分割りにした家屋。中央に馬鹿でかい暖炉煙突があって家屋を両方に区切っている。勿論、建設当時家屋一軒が二軒として分売された。それだけに、比較的には安価だ。

中央の煉瓦煙突がツイン区域の目印だ。

このツインは典型的だ。一軒に入口が二つあるわけだが、別々の入口には調和がとれていない。

チャックの気に入ったヴィクトリア風家屋。大工ゴシックとも言われるが、屋根の装飾が素敵。大工さんが自慢の腕を振るう時期がアメリカにも昔にはありました。

これが町立高校。この町の学校制度は６－３－３．だから、第１０学年、第１１学年、第１２学年の三学年。公立学校としては評判はよいが、私立にはおよばない。

このあたりでは、（白人）オバマ候補支持者が多い。軒並みにオバマ支持標識が芝生の上に見受けられる。このあたりには、黒人は一人も住んでいないはずだ。アメリカの労働階級もずいぶん変わった。

町立図書館。少し遠いし、駐車場が狭すぎて、僕はあまり使っていない。だが、全国図書館から責任を持って必要な図書は何でも無償で借りてきてくれる。

不景気で一寸困っているだろうと思う銀行支店と木立に隠れている中学校（７、８，９学年）

大連で大連中学同級生の親友だった紫藤貞昭君が住んでいた家とそっくりの家屋。この家をここで見つけて仰天した。あのころ、大連ではなんでもかんでもアメリカ文化直輸入だったらしい。冷房装置があったし、電話もダイアル式だったし、町の道路には並木がずらりと並んでいた。こちらの友人によると、ここでもこのような家屋は１９３０年代初期に流行っていたそうだ。あのころの大連は一風カワッテイタ。

紫藤君の父親は九州帝大出身の医学博士で、関東州州政府だったかの衛生課長だった。鹿児島の旧制高校在学中だかに徳田キュウイチに資本論を読ませたといわれる猛者。ゲーテに関する本が書棚にやまほど積んであった。この家を見るたびに、紫藤君を思い出す。彼は僕たち大連中学８回生仲間の大黒柱だった。彼ももう亡くなってしまった。

往復２時間を費やして、へとへとになり、チャックと二人でここのカフェーでお茶を飲んだ。

カフェーというよりも、デリカテッセンが正しいのかもしれない。食品も売ってるから。イタリア系チェインの支店だ。これは店の内部。

この二枚がメニュー。英文だが、ご理解いただけると思うので翻訳しない。食品価格は一ドル＝１００円で換算して、そのまま円で読めばよいだろう。例：＄６．７５＝６７５円。

仕出しもしてくれる。Ｃｏｆｆｅｅは一杯、＄１．５０、＝１５０円。

日米通信　根津朝彦氏論文。鰯缶詰。

October 19, 2008

★東京のしんやから。金曜日、１０月１７日早暁。

天気がよく、気温も高い。１０月中旬とは思えない。日本は高温域に移動したみたいだ。

昨日、綜合研究大学院大学の根津朝彦さんから郵便物が来た。未知の人だが、何かと思ってみたら、中央公論が深沢七郎の「風流夢譚」事件を発端に同誌の編集部が改変された経過を追及した論文を送ってきたのだった。

なぜ僕にきたのかは、根津さんが図書新聞の先輩（僕より高齢の編集者が存命）に取材したからしい。論文は事件の経過を追ってくわしく編集者の思想を記述していて有益だが、ことは一雑誌にとどまらなかった。六〇年安保闘争の終った直後でもあり、政治的にも不安定だった。社会党の浅沼稲次郎が演説会で刺殺され、犯人の右翼少年が獄中で「七生報国」と遺書を書いて自殺した直後だった。中央公論社長の自宅を右翼少年が襲い、お手伝いの女性と夫人を刺し、女性が死んだ。無差別テロといっていい。

この時期、中央公論も大変だったが、行動右翼が気勢を上げ、死んだ少年の神社をつくろうなどといってジャーナリズムを脅迫した。言論は一斉に自粛調になったことを覚えている。僕らですら恐怖に近いものを感じたのだから、非常に不安な時期だった。

何かと考えることが多い。原稿も書くつもり。進也、１２時

★　Ｔｈｏｍａｓから。

そうか。浅沼先生が殺された時ね。日本社会にとって深刻多難な時期だったね。ウバステヤマのあの話はコワイと三島由紀夫が真面目な顔をして僕にミシガン大學で語った年なわけだ。１９６０年代だったのね。

僕は米国陸軍から除隊してミシガンに帰り、毎月大學日本語図書館に行っては、中央公論も読んでいたよ。アメリカに来てからかれこれ十数年経っていた。

ＴＶで現在のペイリン（Ｐａｌｉｎ）副大統領候補の選挙演説会を視聴していたら、会衆が「Kill him!（オバマを）殺せ！」だとか、「Off his head!首をチョンギレ！」だとか喚いているのを、彼女は制止もしていなかった。白人優越感がこのような群集心理の根底にあるのは否めないだろう。まるで、リンチ・モブだ。太平洋戦争当時、日系市民を迫害した連中によく似ている。いざとなると、熱狂する連中は手段を選ばない。

こんな代物が大統領選挙に横行するまで、僕たちの社会が堕落してきたものだとつくづく哀しく思った。それでも、

僕がアメリカに来た時、数十年前には、リンチが未だに現実でもあった。そして、ボストンの新聞上で「ＪＡＰ」という単語を何度読んだことだろうか？

僕たちのアメリカ社会の前途は多難だ。

それでも僕はアメリカ民衆に自由と人種平等の未来があることを信じる。事実、黒人が大統領に選挙される未来が　アメリカにはあるのだ。

★ひさのさんから。

（鰯の缶詰を戴いたのでお礼状を昨日だした。これはそれへの返事。今日の正午にジェッフィーさん宅で昼餐。旧ユーゴスラヴィアからの国務省女性訪問客二人と同席。一人はセルビア籍、もう一人はボスニア籍。この昼餐は明日のブログに記事を書く。お礼状には来週水曜日の郊外電車での遠足について書いた。）

トーマスさん
そうですね、アメリカで、いわしは見ません。値段が安くて、鮮度が落ちやすく、調理法がメンドクサイのかしら。

日本に住んでいた時、千葉県、銚子漁協が作っている安いいわしの缶詰を愛用していました。私の好きな料理（？）は、鍋に鰯をあけ、玉ねぎの薄切りにおしょうゆをほんの少したらして食べる方法。（少し温める）めんどくさかったら、じかに玉ねぎとしょうゆをたらし、缶ごとストーブ（ガス台）にのっける。少し温める。

今日のセルビア人のお客様の話、又、ブログに掲載してくださいね。昔、２０年以上も前、祖父の会議にくっついて、トリエステから近いユーゴスラビアのリエカという保養地に行きました。地中海に面している歴史あるところらしく、可愛い教会がありました。街のはずれの修道院の修道女（お互い言葉が通じず、残念）でも、年をとった修道女が「ドイツ語が出来るか」と聞いたときは、あのあたりの歴史的背景の複雑さを思いました。

次の遠足、ノリスタウンにも興味がありますが、今は、ケンジントンのドックの跡地その付近でしょう。
私は、水曜日は、大丈夫です。

昨日お邪魔した時、テーブルに「教会の布」が置かれていましたが、あの洗濯の仕上がりの美しさを見て、子供の時、時々行った横浜のレース屋さん（リネン屋）の店先を思い出しました。麻に刺繍が入ったハンカチ（イニシアルとか小さなもの）がずらりと並んでいるのです。チャックさんってほんとにすごい！洗濯にズボンを出して折り目が２本になって返ってくるアメリカの洗濯やよりずっと丁寧な仕事です。

では、また

ひさの。

友人素描　日米通信。昼餐。ボスニアとセルビアからの女性客とトルコ青年。

October 20, 2008
日記。１０月１８日。土曜日。

★正午に、このＢｌｏｇで二度ばかり紹介したジェフィーさん宅で昼餐。実は一昨日彼女から電話で出席を要請された。旧ユーゴスラヴィアから米国滞在視察団が来ていて、団員二人が突然昼餐に割り当てられたそうな。

トルコ出身のシナン君。昼餐中この青年はまるでアメリカ人だとさえ思った。イスタンブルにいずれ戻る若いウィルミントンの信託会社社員。大手会社の信託投資を受け持ってる青年で、在米数年目。イスラム教徒だが、フランス系高校をイスタンブルで終了、フィラデルフィアのカトリック大學を出た。綺麗なフランス語も話す。姉がベルギー人と結婚していて、ブラッセルに住んでる。信託会社の上司が韓国系二世だと言ってた。アメリカの会社は誰でも能力次第で雇うし、登用する。

彼もＪｅｆｆｉｅから要請されて出席。中央がジェフィー。右側はウルグアイのモンテヴィデオで生まれた米国人女性。父堂が米国外交官で欧州各地で育った人。ジェフィーの友人で、同じ聖公会の教会員。

ゾリツァさん、（白服）セルビア籍。ベオグラードにある大学の宗教社会学教授。５２歳。右隣がヤスミナさん、（黒服）、ボスニア籍。音楽テラピスト。現在主要空港があるトゥズラ市で生まれて育った。３５歳ぐらい。英語は学校で勉強しなかったが、話すことで覚えたそうだ。ゾリツァさんより会話がずっと上手。（僕の主観だろうが。）

初対面だし、ただ昼餐だけの接待だったから、昼餐中あまり会話が弾まなかった。ただし、ヤスミナさんは僕にＴｕｚｌａを描写してくれた。今後、お互いに文通続することを約束した。

言葉って使う上手下手は問題じゃない、意志が通じればそれでよいのだ。

上掲写真：食卓上の、左からトルコ、セルビア、米国の小国旗。

下掲写真：左端がボスニア国旗。この国旗は作られたばかりらしいが、黄色の三角形はほぼ三角形であるボスニア領土を、青地に九つの★は欧州連合を象徴するそうだ。

馴れたもので、ジェフィーさんは世界各国の小旗を用意してある、何処でもござれだ。彼女は１１月７日に中国友人たちの招待で北京に飛んで二週間滞在する。国務省から送り込まれる国際客をもう３０年ぐらい接待してきたから世界中に友人だらけ。彼女は毎年何処かに出かけていく。

トルコ国旗とセルビア国旗がこのようになかよく並んでいるのが楽しかった。アメリカでないとこんな珍奇現象は起こらない。書くまでのないのだろうが、セルビアは昔コソヴォ戦闘に負けて、オットマン帝国の領土として５世紀間呻吟したのだから。

ヨーロッパにはいわゆる白人イスラム教徒が居ないと思ったらとんでもない間違い。下掲写真のシナン君もヤスミナさんも、原則的に書けば、もともとはイスラム背景出身だ。

だが二人とも、あまり既製宗教にこだわらないのは東洋人に似ている。そして、二人とも英語とフランス語を操る。これから、欧州もどんどん変化するだろうと思った。

このように、東洋でも国際客を個人宅に招待して接待する組織と習慣が望ましい。

★★★

Comments

1 ■食卓の会話

写真と説明で当日の雰囲気が伝わってきます。

１９５０年代末、米国に留学した日本人家庭が其処で知り合った２国のお客様を呼びました。

食事会は楽しく終わったのですが、後日、日本人主婦は、片方の客から「A 国（相方）とウチの国は、歴史的に問題があるの」と言われ、落ち込んだそうですが、２１世紀に入り、徐々にこのようなことは、なくなってきている、又なくす方向に進んでいると思います。

「」言葉って使う上手下手は問題じゃない、意志が通じればそれでよいのだ。」

あしたは、日本人を連れて、近所の小学校見学に行きます。通訳業務は、気が重いのですが、トーマスさんの言葉に励まされます。

にゃにゃ 2008-10-20 00:46:39

日米通信　**老齢期疾患。楢山節考。詩集。史感。**

October 21, 2008
日記。日曜。１０月１９日。

★　東京のしんやから。受信：ＥＳＴ　１０月１９日、日曜日、早暁。

朝６時半に目がさめたが、ちょっとうとうとしていたら嶋名からの電話で起こされた。７時半。彼はだいたい７時半にならないと電話しない。犬の散歩をすませてテレビや新聞にも目を通しての連絡だと思う。僕が遅いのだ。夜は１１時に寝床に入るが、今夜は３０分早めてみようと思う。よく眠れるとしてもちょっと寝すぎだ。嶋名はひざの裏側が痛むという。体があちこちきしんでくるのだろう。僕も腰の痛みが続く。治るまで時間がかかりそうだ。

深沢七郎の作で、君の連想したのは『楢山節考』だ。

事件のもとになったのはそれより大分後の作品。１９６０年１１月号の『中央公論』に掲載された『風流夢譚』。夢物語で革命が起き、皇太子と妃殿下が首を切られてころころ転がる、といった荒唐無稽な作だが、当時の世相にとっては刺激が強すぎた。宮内庁が中央公論社に苦情を言ってきて、編集長がお詫びに参上した、という経過が余計に右翼を刺激した。跳ね上がりの少年が社長の自宅を襲い、しかも女子供を殺害したのだから、右翼としても不出来だった。しかし、結果的には右翼をつけあがらせるだけだった。

この事件の後、『風流夢譚』は出版されていないし、同じ時期に書かれた大江健三郎の「セヴンティーン」という作も中絶した上、やはり出版されていない。影響は甚大だった。

詩集の書評をたのまれてちょっと苦吟している。最初の詩集を出してから２５年にもなるキャリアの持ち主だが、僕にはピンと来ない。君は最近詩を読むことある？『花と死王』という題だ。

現在の金融不況は、信用不安、つまり実体のない証券やら株券がふえすぎたことだろう。一度世界中で決済したらいいのだ。もちろんそんなことはできっこないが。借金は返してもらえる保証があるから貸してもらえるわけで、僕のような素朴な人間は買いたいものはお金をためてから買うという話になる。たとえば、今住んでいる家を建てたのは退職金があったからだ。３００万円くらい不足したが、確か５年くらいの返済期限で借りた。僕の最大の借金だ。庶民から大金持ちまで、人の金で暮らせると思い込んだことに問題がある。自分の身の丈に合わせた経済観念が必要だと思う。進也、１３時１５分

★紐育の金さんから。

Ｂｕｓｈの　世界政策＝単独覇権主義による　一方的　先制攻撃という　前代未聞の　暴悪的国家から、国連を中心にする　国際協調関係に　入ることは　確実です。

また 善とされた 資本主義の本質が 実は [賭博経済]であり その 投機性が 暴走する。そして 人類最高の価値である 富が 紙幣と 債券の 増刷となる。 権力の 独占を 生み出す。 富の下部構造を 貧の拡大で 腐食させる。 結果として、 世界経済＝金融体制を 破壊 または 崩壊させている 資本主義が根本的に 再検討される。

やがて、監督＝規制が 作用する 調節機能を 強化した 協調経済体制とも いえる 新時代を 迎えると僕は」予想します。

資本主義 または 民主主義も 褪色（色 褪せる 時代の遺物）になるかも わかりません。

但し、私見です。

★Ｔｈｏｍａｓ から。

● さて、国際経済はどうなることか？

● 金さんの記事だけど、僕は 老齢期に入ってからは、もう歴史の史観展望なるものが持てない。
プレハノフに熱中した大学時代が懐かしいが、僕だけにとっては、すべてが観念論だったと思う。
あのころは、大學図書館に閉じこもってはディルタイやら、ヘーゲルやら、戸坂潤やらに読みふけった。「経験世界の思惟的秩序」なんて言葉を本気にしたものだった。笑。

● 詩のことね。僕は詩的「片輪者＊」です。１８歳で粘着語の７・５調詩感覚から、屈折語のアクセント扱い、ライムなどの詩感覚に飛び越えた。そして、高校６年間の英語詩訓練も受けなかった。日本語にしろ、英語にしろまともな文章が一応書けるようになったのは成人後、それもずっとあと。だから、素養が全然ない。

英語詩をこなして、暗記して身に着けてる友人たちと話すたびに羨望を感じる。だから、娘二人は幼いときから、詩は読んで聞かせてそだてたが、結局家内のマリカに頼るほかなかった。そのマリカも希臘移民家庭の育ちだ。
でも、娘二人はともかく英語詩の基礎は作りながら育ったと思う。

現在僕は英語詩集は楽しめるけど、一人前には読めない。

*註。日本語で、この単語は handicapped people を形容する差別語なの？よく知らないけど。

★新潟の襄から。

とむさん

懐かしいジェフィーさんはお元気なご様子。

花柄の壁紙も、家の中の様子も、改めて思い出しました。
お正月にお邪魔した時は、沢山の人たちが集まっていましたから
もうすっかり気押されてしまって、緊張しっぱなしでした。
それもまた懐かしいです。

ジェフィーさんはこの夏中国に行くはずだったのではなかったですか？（Ｔｈｏｍａｓ註：僕の思い違い。）
それが１１月に変更になったのでしょうか。
夏はオリンピックでしたから、きっと１１月の訪中の方が楽しめますね。
それにしても、小旗を用意してあるというのがお見事！
これぞ民間外交！です。

新渡戸稲造を読んでみようかと思って注文しました。
「武士道」って、英語で書かれた本ですが、彼は日本語ではこれを書いていないんですね。ですから、様々な訳者の本が存在します。珍しいことですね。（Ｔｈｏａｍｓ註：アメリカでこれをこちら向きに書いたのです。あのころ、ＯｖｅｒｂｒｏｏｋのＭｏｒｒｉｓ邸に出入りしてたと思います。）

★

歴史　明治時代の費城留学生。新渡辺、内村。モリス邸宅。

October 22, 2008
日記：ＥＳＴ月曜日、１０月２０日。

★　新潟の襄から。受信：ＥＳＴ１０月２０日。

とむさん

今日の午後、チェンバロを中心としたアンサンブルのコンサートを聴きに
出掛けてきました。「客が少ないんだけど、聴きに行きませんか？」と、同僚から誘われたからです。
バッハ以前の音楽だけの２時間でした。楽しめました。

で、早めに会場に行き、開演まで１時間も本を読んで過ごしたのですが、その本（文藝春秋１０月号）に、新渡戸稲造の「武士道」や白州次郎が取り上げてあって、面白く読みました。

特に「武士道」は、お茶の水女子大の教授が学生達と行っているゼミの第一回の課題なのだそうで、それを誌上で公開しています。宗教教育がない日本には武士道がある、という新渡戸の主張が分かり易く腑分けされています。

「武士道」なんてろくなイメージがないから、それが極めて片寄った見方であるということが分かっただけでも収穫で

した。

そして興味深いのは、次回の課題が内村鑑三であること。１２０年も昔のこの二人は今の時代に取り上げるに値する二人であること、そして彼らの精神活動を支え、形づくったであろうアメリカ生活の現場を、私はこの眼で見てきたのだということが、嬉しいですね。

★Ｔｈｏｍａｓから。

費城来訪中に、モリス邸跡を一緒に訪問できてよかったですね。あの邸宅で明治時代の日本人留学生たちのほとんど全部がお世話になったのだから。とにかく、あそこに招かれては饗応された日本青年子女の数は膨大でした。津田大學の歴代女性学長は全部モリス夫人が世話しています。そして、全員がブリンモア大學卒業生でした。モリス夫人が創始したと言ってよいブリンモア大學の「日本人学生教育資金プログラム」昨世紀中活発に運営されましたし、今でも続いているはずです。大学図書館のＡｒｃｈｉｖｅｓで、津田梅子や明治時代のファイルに読みふけったものでした。

あのころのモリス邸の古い写真をインタネットで見つけて掲載したと思うけど、再度掲載しておきます。

おそらく、この写真は、あのころは知られていても、今では僅かに記憶されている一枚にすぎないでしょう。内村鑑三、野口英世、津田梅子、高峰譲吉、新戸部稲造たちなど、日本明治文化の創造者たちが招かれては、ここの玄関をくぐり、裏庭のポーチに座っていたと想像するだけでも楽しいです。

僕の友人ひさのさんは現存するこの建物をよく知ってます。（現在はフレンド中央高等学校。）

★　東京のしんやから。受信：火曜日、１０月２１日、早暁。

昨日メールを出さなかったので変だな、と思ったことだろう。ごめんなさい。パソコンが駄々をこねていた。開いたらつきっ放しで、待ち合わせ画面のまま梃子でも動かない。アイコンも出ないし、どうしても消えない。あきらめてそのまま寝てしまった。朝になっても依然同じ状態。出勤して図書で聞いたら、強制消去すればいい、とのこと。帰ってそのとおりにしてやっと解決した。強制消去のことを知らなかっただけのことだが、まいったね。

今朝になってあらためて開いたら、くずメールが５６通！　ごみ掃除も容易でない。

昨日、三森さん夫妻と会った。楽しかったよ。一時体調が悪かった三森さんも元気になっていた。君のブログに関心を持っていたので知らせておいた。そのうちにメールが行くかも知れない。

今日の午後は大連会に行かなくてはならない。今日も気温が上がり、今の室内温度が２６℃。まるで夏だ。関東地方南岸にいた低気圧が突然台風に発達、そのせいらしい。風は吹かないが夏の気温をもたらしている。

『父が子に語る日本史』という本を興味深く読んでいる。１９６２年生まれで４０台だが、専門が中国思想史で、日中の歴史認識の問題を中国側と研究しているので視野が広い。こういう本は一国史観を抜け出すきっかけになると思う。進也、１１時

★　Ｔｈｏｍａｓから。

しんや、

東洋・大連関係書籍３冊昨日受け取った。Ｔｈａｎｋｓ．

副大統領候補ペイリンが案外労働階級の男たちに受けている。彼女は意図された選定指名らしいね。アメリカの亭主は近頃極度に幼稚化しているから、井戸端会議に長じて、男を顎で使えるママ的存在がうけるのかもしれない。妹の亭主が離縁したら、知事としての権限をフルに利用して警察官だったその亭主を政府から追い出し、解雇に同意しなかった男の上司まで首を切ったってんだから、スゲエ。そして、今夜はオペレッタに女優並みに出演した。見るに耐えなかったから、スイッチを切った。彼女は女性民権運動に泥をぬる。

昨日、前首相のパウエルがオバマ支持を表明。オバマを形容するのに、Ｔｒａｎｓｆｏｒｍａｔｉｏｎａｌって単語を使った。同感だよ。

本日受領書籍：
北朝鮮帰国者の生命と人権を護る会。光を射せ!創刊号。　東京、２００８１０月２日。
甲斐正人。大連を予見した（夏目）漱石。２０世紀大連会議。２００７。
島田浩。文と写真で蘇る「満鉄の遺産、大連病院」。２００４．
Mother Jones, Nov and Dec, 2008.
National Geographic. November 2008.

小田実の「河」はまだ讀続中。

★★★

Comments

1 ■モリス邸

フレンズ高校の１年生は、新学期が始まった最初の歴史の授業でこの建物の建築様式、（邸宅のときは、裏側にもバルコニーがあった）や由来を勉強します。

昨日、日本人のお客様をこの学校の小学校に案内しました。教頭先生が２０年ほど前、日本の普連土学園を訪れたことなど話したのですが、客人は、ご存じなく、私が「新渡戸稲造のアメリカ人の夫人の実家の援助で出来た学校です。」と付け加えました。

ひさの 2008-10-22 02:26:29

2 ■Palin's Failin'

「彼女は女性民権運動に泥をぬる・・」全く同感！

彼女はガラスの天井を打ち破るどころか、せっかくヒラリーがヒビを入れた天井を更に厚くし、やっとここまで来ていた歴史を後戻りさせてしまった。

WallStreetJournal・Peggy Noonan 女史の弁〈コラム記事）は、トムさんや私の様なペイリン否定派の気持ちを見事に代弁していると感じる

http://online.wsj.com/article/SB122419210832542317.html

しかしながら、このコラムに投稿された一般読者からのコメントには、想像を絶するほどのペイリン支持者達の強烈な声が多々上がっており、驚かずにはいられない・・・。

NY マム 2008-10-22 07:16:11

3 ■警視庁または最寄りの警察 雑誌社編集部へ連絡しましょう

「週刊フライデー編集部襲撃事件の黒幕 浮上した北朝鮮・朝銀人物 戸籍抹消」

名前 木山(杞山) 岳史

住所 大阪府東大阪市柏田東１０―９(転居)

経歴 北朝鮮・朝銀信用組合青年会所属

思想 左

行動

過去に、暴力団山健組関誠会(現・大成会)組員の藤井なる人物に講談社の週刊フライデー編集部襲撃事件を教唆し言論弾圧事件を企てた影の黒幕であった事実が最近になって出てきた。

(事件後は警察から組員への厳しい追求にも指示した人物が誰なのか自供せず首謀者の木山(旧姓・杞山)は逮捕を逃れ２人だけが逮捕された。)

※詳しくは溝口敦 氏のホームページ http://www.a-mizoguchi.com/trial_8.html を参照。

この事件に関し余談があるそうで、木山(杞山) 岳史なる人物は国産の高級車を関誠会の浅田なる人物にプレゼントしたという。

当然、犯人の関誠会・藤井なる人物にも同様に手当てがあったという。

数年前～現在

毎日座っているだけで、月に数百万円といわれる利益を生む自動車担保金融業(大阪府門真市)を計画的に倒産させ、同時期に引っ越し、さらに追跡調査を恐れてか姓名の姓の字を杞から木に変更し足跡を消したとのことである。

また、妻であった女性が逃げたのも同時期である。

一体、何を見たのか？

木山岳史なる人物は数年前から自宅から出ない生活を送っているという。

どうしてこれほどの言論弾圧事件の首謀者でありながら今まで名前が出てこなかったのか。

とある近隣住民は言った。「様子がおかしいんです。」

溝口敦 氏 有田芳生 氏

講談社 週刊フライデー 週刊現代 かもがわ出版 テポドン 朝銀資金 朝鮮総連 報道機関関係者 各新聞取材記者 ※戸籍

掘り出し物 2008-10-22 13:02:09

Diary. October23. Thursday. 米国大統領選挙。もしもね？有醜の美。

日記： 日曜日、１０月１９日。午後一時。

★ 親友ジェフィーから。

昨日、オバマ候補。日曜日、１０月１９日。セント・ルイスにて。（ＮＹ Ｔｉｍｅｓ）。

Thomas, トーマス、

I thought you would like this...I did!

転送するこれね、興味深深な手紙だった、貴方もそう思うと確信する。

Subject: FW: "What If"
論題：　:「もしもね？」

Democracy is not average people selecting average leaders.
It is average people with the wisdom to select the best prepared leaders
Facts are powerful.
民主主義って普通人が普通人指導者を選挙する過程じゃない。 それはごく普通な人民が良い知恵で最優等な指導者を選ぶってこと。事実は強力です。

Obama/Biden vs McCain/Palin, what if things were switched around? Would the country's collective point of view be different?

今の候補者たち、オバマ・バイデンとマケイン・ペイリンね、おのおのの背景があべこべだったら？
アメリカ社会の衆意は違っているかしら？

Could racism be the culprit?
人種優越感が問題な原因かしら？

Think about the following:
以下の事実を考えてもごらんなさい。

★

What if the Obamas had paraded five children across the stage, including a three month old infant and an unwed, pregnant teenage daughter?

オバマがね、自分の子供５人を壇上に連れ出してたら？
その一人は生後３ヶ月の赤ん坊で、その母親は最妊娠してる未婚少女の娘だったら？

What if John McCain was a former president of the Harvard Law Review?

もしもジョン・マケインがハーヴァード大學法律評論の前首席だったら？

What if Barack Obama finished fifth from the bottom of his graduating class?

もしも、バラク・オバマがクラスのビリから５番目で卒業した男だったら？

What if McCain had only married once, and Obama was a divorcee?

もしも、マケインが離婚経歴が全然なく、オバマが離婚していたら？

What if Obama was the candidate who left his first wife after a severe disfiguring car accident?

もしも、オバマが、自動車事故で酷い傷を負って、醜くなった顔の奥さんをさっさと見捨てて去った候補だったら？

What if Obama had met his second wife in a bar and had a long affair while he was still married?

もしも、オバマが再婚相手の女性を酒場で見つけて、既婚の身で彼女との逢引を繰り返していたら？

What if Michelle Obama was the wife who not only became addicted to pain killers but also acquired them illegally through her charitable organization?

もしも、オバマの妻ミシェルが痛み止め麻薬の中毒者であるばかりでなく、彼女の配下である慈善事業団体を通じて不法的に買い求めて常用してたら？

What if Cindy McCain graduated from Harvard?

もしも、シンディ・マケインがハーヴァード卒業生だったら？

What if Obama had been a member of the Keating Five?(The Keating Five were five United States Senators accused ofcorruption in 1989, igniting a major political scandal as part of the larger Savings and Loan crisis of the late 1980s and early 1990s.)

もしも、オバマがキーティング醜聞ブロックの一員だったら？（米国議会上院議員だったこの五名の連中は１９８９年に収賄罪で問罪されたあげく、１９８０年代後期から１９９０年代初期にかけて、貯金組合制度の大騒動を引き起こした。）

What if McCain was a charismatic, eloquent speaker?

もしも、マケインが衆望がある、雄弁な演説者だったら？

What if Obama couldn't read from a teleprompter?

もしも、オバマがテレプロンターもよく使えない候補者だったら？

What if Obama was the one who had military experience that included discipline problems and a record of crashing seven planes?

もしも、オバマが軍事経験履歴を持っていて、その履歴には非行処罰が連発し、飛行機を７回も墜落させていたら？

What if Obama was the one who was known to display publicly, on many occasions, a serious anger management problem?

もしも、オバマが公衆の前で激怒を示し、時によっては過激な憤怒行動に至る人物であるとしたら？

What if Michelle Obama's family had made their money from beer distribution?

もしも、ミシェル・オバマの一家がビール販売で富をつみあげた百万長者だったら？？

What if the Obamas had adopted a white child?

もしも、オバマ一家が白人の子を養子にしていたら？

★

You could easily add to this list. If these questions reflected reality, do you really believe the election numbers would be as close as they are?
This is what racism does. It covers up, rationalizes and minimizes positive qualities in one candidate and emphasizes negative qualities in another when there is a color difference.

このリストはまだまだ、拡大し続けられると思います。もしも、このように事実があべこべだったら、現在のように選挙動向が「半分別れに近く」なっていると思いますか？

人種優越感ってこんな代物です。
人種が違うと、候補一人の肯定的な性質を隠してしまったり、、否定的な性質だけを前に押し出す。

Educational Background:

教育背景の差：

Barack Obama:バラク・オバマ。
Columbia University - B.A. Political Science with a Specialization in International Relations.

Harvard - Juris Doctor (J.D.) Magna Cum Laude (Served as president of Harvard Law Review)

Joseph Biden:ジョセフ・バイデン。
University of Delaware - B.A. in History and B.A. in Political Science.
Syracuse University College of Law - Juris Doctor (J.D.)

vs.

John McCain:ジョン・マケイン。
United States Naval Academy - Class rank クラス席次: 894 of 899

Sarah Palin:サラ・ペイリン。
Hawaii Pacific University - 1 semester（１学期終了）
North Idaho College - 2 semesters - general study（２学期）
University of Idaho - 2 semesters - journalism（２学期）
Matanuska-Susitna College - 1 semester（１学期）
University of Idaho - 3 semesters - （３学期）
B.A. in Journalism

Education isn't everything, but this is about the two highest offices in the land as well as our standing in the world.
教育背景だけが全てではないだろうけど、彼らは私達の国の最高地位の候補者であり、世界に於けるアメリカの地位にも重要なことです。

★ Ｔｈｏｍａｓ附記。

こりゃおもろい漫才やな。

あの御仁がよもやビリから五番目の海軍兵学校劣等生で、飛行機７機を事故で駄目にして、素行問題を頻発したなんて知らなかった。怒りっぽいのは有名やけど。

そう言えば、捕虜になって、頑張りとおしたのも、ほんま球の一ですわ。徳の田圃に育つ雑草のさいたるもの。

共に産まれる、野草の美。でも、考えてみると、あの男はヤンゴトない上流出身でっせ。

東洋社会でも世襲制度には御用心、御用心。

第一夫人が自動車事故に遇って、醜くなったらさっさと棄てて、酒場で逢い引きして二番目の美貌細君をしとめるあたり、世襲制度にはもってこいの気質だと思う。

白状しますが、僕は全然知らなかった。そして、チャックに笑われた。

Ｎｅｗ　Ｙｏｒｋ　Ｔｉｍｅｓばかり読んで、僕は世間知らずのバカになってしまった。アメリカで、僕は何も知らない８０歳爺さんになってしまった。この手紙はこの点でありがたい。

でも、アメリカ人の良識はここまで進んで来ている。１９４１年に日本社会の良識がここまで上昇していたら、あの大東亜戦争は起こらなかったかもしれない。（但し、それでもイラク戦争は現実ですね。）

有醜の美。

日米通信　マデリン・ダンハムのおばあちゃん。

October 24, 2008

おばあちゃん。

考えてもごらん。
新潟市に住むおばあさんが居るとする。
苦労して育てた娘が東京の上智大学に行って、アフリカのケニヤからの男性と恋に落ち、駆け落ち結婚する。そして、子供が生まれる。
一方このおばあちゃんは新潟に住んでる。

隣近所にとって、この駆け落ち結婚は美聞だっただろうか？醜聞だったろうか？

話は新潟じゃなくて、ハワイに戻る。

やがて、その娘が離婚して、インドネシア人男性と結婚してジャカルタに移住したあと、アフリカ系の息子バラクの始末に困って、そのおじいちゃんとおばあちゃんが引き取ることになる。そして、バラクを育てる。

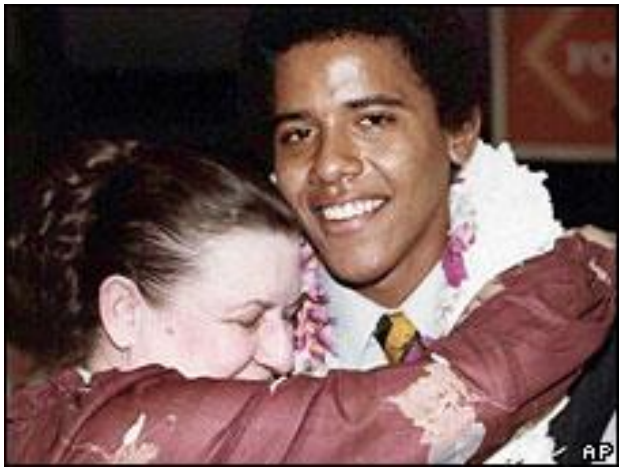
簡単な話だと思う？隣近所がバラクを諸手をあげて歓迎してくれたと思う？
それだけじゃない、この祖父母は混血児の孫をハワイのプナフ学院に入学させた。
プナフ学院に入学させたって、どんなに犠牲を払って受けさせた教育なのか、理解できますか？

プナフ学院はオアフ島最高、最高価な私立学院です。私立高校に、慶応早稲田なみの学費を払って入学させ

たのと同じ。

あのころ、オアフの東洋系子息にはイオラニ学院とプナフ学院と両方あった。イオラニには殆どもっぱら東洋系、プナフは白系黄系共学で、プナフに入る子は超ブルジョア子弟だけだった。長岡の子を、高い金を払って、東京の成蹊か暁星に入れたと思ったら、ほぼ妥当だろう。勿論、それどころの話じゃない。

そして、プナフを出たら、今度はカリフォルニアの私立大学を経て、ハーヴァードに送り込んだ。



僕が１９５４年にミシガン大學大学院から徴兵されて米国南部のアーケンソーに引っ張られて行った時のことだ。引っ張られ先の基地の名前がチャフィー基地だった。その基地には米国南部はもとより、カンザスからの青年が随分送り込まれていたし、カンザス州ストックトンという村からの白人青年が基地での僕の親友だった。（おばあちゃんはカンザス生まれで、カンザス育ち。）

当時この基地の内部では黒人差別が法的には撤廃されていた。だけど、兵士酒保には白用と黒用が二つあったし、基地外のフォート・スミスの町では、僕は黒人兵士と一緒に普通のレストラントには入れなかった。東洋人の顔をした僕の顔をみて、レストラント内に座っていても給仕が僕の食卓に来ることを拒絶してほっぱらかせられた事

件も一度あった。２１世紀の今とは全然と言ってよいほど環境が違う。

このおばあちゃんは、その逆境の雰囲気でバラクを育てた。アーケンソーじゃなくて、ハワイだったにしろ。

バラクの育ちは複雑だ。日本の読者には理解できないだろうが。黒人を在日に置き換えて考えたら一応良いだろう。

このおばあちゃんにしろ、おいそれと黒人の顔をした孫を受け入れる彼女の素質が天賦であったわけじゃないだろう。

そして、育ったのが新潟じゃなくて、ハワイだったにしろ、バラクだって彼なみのイジメにあったことは確実だ。

イジメは米国や日本だけに限ったことじゃない、全世界共通の現象だ。

ダンハムおばあちゃんのことを、日本の在日諸君はもっと調べて、知ってほしい。

アメリカで老いていく在米一世・在日二世の戯言かもしれないが、他人事ではありません。

日米通信　人生雑記。

October 25, 2008
日記。ＥＳＴ水曜日、１０月２２日、深更。

★　東京のしんやから。受信：１０月２２日、深更。

昨日は図書新聞の仕事が終わったあとでＫ君と会った。彼がしごと（麻雀屋）をやめてから会う機会が減っている。お互い無職というのは閑で困る。

彼は近くに区立図書館があり、そこが豊富な蔵書を持っているので利用しているらしい。彼は目が弱いので読むよりもCDを借りて聴いているそうだ。少し昔の思い出を聞いたが彼は記憶がよく、面白かった。教員になりたい希望だったが、就職口がなく、北海道のオホーツク海沿岸の町に空きがあるというので行こうかとも思ったが、やめたそうだ。それでよかった。

その後会った友人は大阪から来た元大学教授、もう一人は作家・評論家で、中学以来の友、僕にはそういう関係ではないが愛読者だ。

いろいろ面白い話が出たが、作家氏によると、最近のマンガは表現にすぐれたものが多くなり、小説で文章化するよりもはるかに訴求力のある作品があるという話が出た。こうの史代の『夕凪の町・桜の国』という作品がお勧めで、

これは広島の原爆を扱った作だそうだ。僕はマンガは駄目で、「ロン」をちょっと読んだくらいだが、今度見てみようと思う。進也、１０時半

★　Ｔｈｏｍａｓから。

しんやの友人であるＫ君は僕たち大連中学同窓の仲間。大連では僕の家から半丁はなれたところに住んでいた。しんやとの間柄は、硬軟の摩訶不思議な思想組み合わせで、その友人関係がで今になるまで続いている。事実、僕にとっては、このような矛盾した交友関係が民主社会の基礎なのだとも思う。

漫画ロンを僕も読んだ。ミシガン大學の同窓で、聖公会の牧師になったあと、それをやめて今度は言語学を専攻した親友がアマーストのマサチューセッツ大学で言語学教授をしていたけど、彼が昔読み終えたロンの雑誌漫画Ｉｓｓｕｅｓをどっさり送ってくれた。奇妙な左右思想混合の歴史漫画だったが、僕たちの少年時代中国生活の描写が小憎らしいほど上手に描かれている漫画だった。

ところで、アメリカでも日本の漫画が流行り始めた。Ｂｏｒｄｅｒｓ書店にも日本漫画がずらりと並んでいる。（ただし、英語版。）それから、漫画の描き方などのテキストも。

★　ところで、午前１０時に、Ｂｏｒｄｅｒｓ書店でひさのさんと落ち合ってＣｏｆｆｅｅを一緒にした。あそこの喫茶部は何時間喋っていても、追い出されないからありがたい。そして、日本語で話していると、あっと言う間に二時間が過ぎる。

★　衝突で前部を破損された自動車が修理完了で戻ってきた。このガラージは最近では珍しく親切丁重な店だった。見違えるほど綺麗になった自動車に満足している。だが、あと数年で僕は自動車運転を謹まなければならないだろう。８５歳になったら、この家を引き払って、長女宅の近所に移転するかもしれない。リッジフィールド町のど真ん中にコンドを買って移るわけだ。移転はしたくない、僕たち二人が住み慣れた今の我家だし。

★　昼過ぎに自宅の前庭に抛り棄てられた財布をチャックが見つけた。盗んだ財布を誰かが遺棄したらしい。調べたらイタリア系の名前な男性の写真入の運転許可証明カードが入っていて、金銭は勿論は入っていなかった。その財布を町警察署にチャックと二人で届けた。そうそう、午前中、ひさのさんとＢｏｒｄｅｒｓで駄弁ってるあいだにＣｏｍｐｕｔｅｒをＤｅｆｒａｇした。

★★★

Comments

1　■表現方法(^^)

今後は、ややこしい取扱説明書などに、漫画を増やす予定です。

安易に知識が増えた為に(良い事ですが)、理解力に問題がある人が多いですからね(文意を読み取れないみたいです)…具体的な画像で提示させる必要があります。

静かなモノクロ新聞が懐かしいです。(内容は別ですが)

綿貫朔太朗 2008-10-25 05:38:12

2 ■No Title

アメリカは近頃は日本のＭａｓｓ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎを追跡しているみたいですね。アメリカで怒りつつある漫画の洪水に驚いています。

そして、日本産アニメーションを若い連中が好いていること、崇拝に近いです。笑。

Ｔｈｏｍａｓ

thomas-penfield 2008-10-25 06:08:07

3 ■Gomennasai.

起りつつあるが、怒りつつあると「文字転換」されたのを見逃しました。英語圏に住むからシカタガナイ。

thomas-penfield 2008-10-25 06:10:33

風景描写　ある木曜日。欧化した中華食堂。新潟の秋。漫画。

October 26, 2008

日記。木曜日、１０月２３日。快晴。（記述現在、金曜日、午後１時。）　日付はＥＳＴ、米国東部標準時間による。日本との時差現在１３時間。）

午前十時にひさのさんが「大根の葉」一束を持ってきてくださったので、一時間半ばかり応接間でお喋りした。チャックが気を効かしてＣｏｆｆｅｅを入れてくれた。アメリカでは「大根の葉」が全然入手できない。野菜屋が無用の長物だと棄ててしまうからだ。鰯が手に入らないのと同じ原因。すなわち、買い手が少なすぎるから。資本主義ってこの点あっさりしている。そのかわりに、実入りがあるのなら監獄だって民営化してしまうのだから。

大統領選挙がどんどん泥仕合になってきている。見るに耐えない、聞くに堪えないことばかり。

★

１１時半にチャックとブリンモアの（王）陽明（ヤンミング）・レストラントに行った。
ある親友の誕生日で僕たち二人が頻繁に招待されているのにお返しするためだ。このＣｈｉｎｅｓｅレストラントは、仲間には評判がとてもよい。

日本にはまさか（王）陽明食堂なんて出現はしまいが、タイヘンな場所だ。華欧折衷もいいところ、まさにアメリカ文化の真髄かもしれない。

ブリンモアきってのブルジョアノミバだったＣｏｎｎｅｓｔｏｇａ　Ｉｎｎをがめつい中国資本家が買収してた。

そして、昔ちょっとひなびていた１９世紀からの落陽郊外資本家酒場を超ブルジョア化した。

雑炊（チョプスイ）と炒麺（チャオ・メン）が代表していた在来米国苦力シナメシ（実際こちらの日系一世はＣｈｉｎｅｓｅ　Ｒｅｓｔａｕｒａｎｔをシナメシと呼んでいた）食堂を進出してきたタイ・レストラントの真似をして改造した。

食卓に生の花を投げ入れた花瓶を置いた。給仕する食皿を日本なりフランス風に飾ってだす。
雑炊やら炒麺をやめて何が何だかわからないフランス語めいた名前が連列するメニューに換えた。
分量は在来の半分以下にしてしまい、ワイン・リストはやけに長くなった。

とたんに、デコールが受け、評判になり、客が押し寄せた。商売上手てこのことだろう。

もともと、フィラデルフィアのブルジョアは食べ物の食い方を良く知らない。祖国英国の食物が世界一不味いのは定評だ。肉は焦がすし、野菜は屍骸になるまで煮るし、海産物は海老ぐらいだけしか食べない。

もちろんこちらの、お上品な奥様たちは食品嫌悪症で、やせるだけやせている。食物＝毒物だ。だから、デザートとワインと酒精飲料（＝酒）を充実して、雰囲気を極度に美化し浪漫化しさえすれば、レストラントは流行る。

僕の仲間の間でも、モダーンなこのようなクイモノヤはとても評判がよい。

罵詈雑言で申し訳ないが、僕は結構楽しんだ。そして、僕は禁制の好物、Ｖｏｄｋａ　Ｇｉｂｓｏｎを数杯引っ掛けた。

★ 新潟の襄から。受信：　土曜日、午前５時１５分。

とむさん

母の所に行って、新米を貰ってきました。
お天気が悪くて、残念。秋の田舎を写真に収めようと思ったのですが、
今回は諦めました。

明日は、前任校の１３０周年記念式典があるので、そこに顔を出します。
懐かしい顔と会ってきます。懐かしくない顔も、ありますが。

日本の漫画はアメリカのコミックに影響されてスタートしたのだと思いますが、
その表現力に関しては何十年も前から本家アメリカをしのぎ、世界中を席巻するに至っています。

矢口さんの通信にも紹介されていますが、「たかが漫画」などと侮れない。
優れた表現力に、ようやく正当に光が当てられてきたのだと思います。
今更、という感がありますけどね。
表現者の方が先に進んでいて、偉い批評家の先生達はついていけなかった。
勿論、ろくでもない漫画もたくさんありますが。

寒くなったでしょう？
だって、フィラデルフィアの気温は、日本でも知ることができますからね。
風邪引かないでくださいね。
車も、最大限の注意を払って、乗ってくださいね。

★

回顧録　戦争花嫁、１９４５－１９６５。

October 27, 2008

★　某氏の手紙。

終戦後、日本国内に溢れた進駐軍相手の売春婦パンパンについて、どなたか詳しく説明して頂けませんか。中には無理やりさせられた少女なども多数居た覚えがあります。

とにかく私の故郷ＸＸ市にも大勢いました。見るに耐えない情景も多々目撃しました。

いずれにしても、どこからか指示があったのかどうか、かなり組織的にやられていたような気もしますが。

ただ、話題が違うとの事で没にされても結構ですので。

★　僕の手紙。

拝啓、

御投稿を拝読いたしました。未知の貴方にアメリカから不躾にお便りいたしますことを御赦しください。

僕は東京で生まれて、満洲大連で育ち、太平洋戦争後ただちにアメリカに来て、高校と大學を終え、こちらで６０年過ごした、朝鮮族老人です。

来年３月に８０歳の誕生日を迎えます。

僕の母親は日本の帝国女子医学専門学校の第一回生の婦人科医師で、僕が育った満洲大連ではそのころただ一人だけの婦人科女医でした。

結果として、太平洋戦争中も逢坂町と呼ばれた花柳街の女性たちが大勢母のＣｌｉｎｉｃに通っていました。ソヴィエト軍が大連を１９４５年８月に占領したあと、僕たち一家が大連を１９４６年１１月に脱出するまでのほぼ１５ヶ月間、占領軍兵士に強姦された日本人女性が次々に母の診療所に担ぎ込まれました。（大極旗が翻る母の診療所は一種の駆け込み寺でもありました。）

それを嚆矢に、以後占領下の生活に困った日本女性が身体を売る状況が現れて、性病患者が通院し始めました。一方、これらの女性を同伴するあるソ連軍将校の嘆願で性病に感染していた彼を治療しました。

そして次々に現れた彼の同僚たちや兵士たちの治療も引き受けなければならないことになりました。僕が通訳でした。当時、腐りかかった男性性器を１６歳だった僕は厭になるほど、見ました。

アメリカに来てからも、最初の２０年間、戦争花嫁として米軍兵士と結婚していた日本女性とも知己関係になりました。（来米後、徴兵されて僕は１９５４年から１９６７年にかけて米国陸軍の兵士でした。ですから、日本占領経験を持った（主に）下士官たちを随分知っていました。彼らの配偶者には日本女性が多くいました。

除隊後、デトロイトの大學で教えていた時期には、白人男性に嫁いでいたこれらの人のグループに招かれた経験もありました。当時、日英両語を話す東洋人男性はほとんど居ませんでしたから。

前置きが長くなりましたが、あのころの「売春」は現在の「売春」とは大分違っていると存じます。生きるための、生活手段でした。

醜業婦とさげすまれた彼らの背後には種々の事情がありました。貧困も問題でありましたし、女性を人間として扱わない男尊女卑も問題でした。そして、東洋社会の階級制度では、男尊女卑に加えた、人権観念の欠如もあったと存じます。

以上、とりとめなくながながと書きました。御赦しください。文通していただければ、幸甚です。お便りは日英両語のいずれでも結構です。ただし、僕の日本語は中学４年終了程度でしかございませんことをご了承くださいませ。

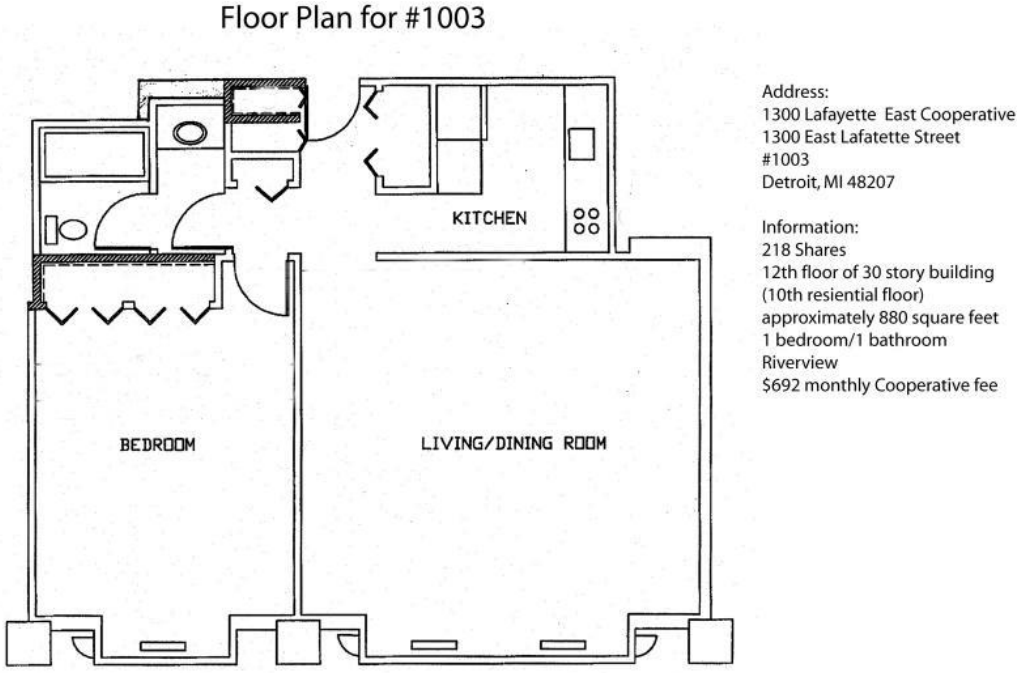
貴方のご健康をアメリカから祈ります。今後ともよろしく。

★　恵子さんの話。

●　１９６４年に僕はデトロイト郊外ロチェスターにあったオークランド大学からデトロイト都心のウエイン州立大学に転職した。（１９４８年に来米して、高校、大学を卒業し、徴兵され、兵役から戻った大学院で結婚し、長女が生まれて、アメリカ生活がもう１６年経っていた。）

なにしろ太平洋戦争後米トルが３６０円だった太平洋戦争勝利後の元禄景気アメリカ社会だった。僕たち一家が郊外から移り住んだ、ラファイエット高層（住宅）塔は、二つの高層２２階の塔から構成され、二塔の間に水泳プールを戴いた広大な車庫を挟み、植林された広い公園のどまんなかに聳えていた。

ウエイン州立大学の僕の収入だってバカにならなかった。



だから僕たち一家はそのアパート塔の最上階、２２階にデトロイト前市街と遠くにデトロイト河を見下ろして住んだ。２２階でそこのエレヴェーターを出ると、廊下の壁は全部大理石で張り詰められていた。

デトロイトには、そのころ、米軍兵士と日本で結婚した戦争花嫁が数多く住んでいた。

その一人が同じアパート塔の六階に住む恵子さんだった。彼女は米軍兵士ビルと結婚してデトロイトに戻ったあと、この高層アパートに移り住んだ。ご亭主ビルはそこのガラージの支配人だったが、（長続きしなくまもなく解雇されてしまった。）

始に、彼女は日本からやって来てデトロイト郊外に、ビルがモビル・ホームという「家屋に四つの車輪がついてる代物」を買って住んだ。

モビル・ホーム公園なるものがあって、最安価住宅から形成された一種の特種部落があったのだ。あまり評判がよい場所ではなかった。

男っぷりがよかったビルは軍隊では威張れる下士官だったが、市民社会での生活能力がからきしだった。結果として、恵子さんはビルと一緒に飢餓に瀕してしまった。（ビルは現在の副大統領女性候補の亭主にそっくり似ていた。というのは、マッチョだが尻の下にしかれやすい傾向があるようだ。）

だから、恵子さんはデトロイト都心に仕事を探した。英語が下手糞だったし、学歴がなかった。だが幸運にもユダヤ系の宝石商人が彼女を見つけて雇った。恵子さんは日本女性だったから手が器用で、編み物やら繕いが勿論上手だった。だから、たちまち壊れた首飾りの修理の名人になりかわった。

● そのころデトロイトや隣接したグロス・ポイントには自動車産業で儲けた親玉たちがごまんと住んでいた。まだ小売商店街商売がなりたった時代だった。親玉たちの夫人は、通常宝石が大好きだ。だから、あちこちに宝石商店が散らばっていた。勿論、装身具修理腕抜群の恵子さんは可愛がられた

● どうしてか雇われていた宝石商店が突然破産して潰れた。

思案したあげく、姉御肌の恵子さんは、銀行から思い切って借金してその商店を買収した。

そして、販売をやめて、首飾りなどの装身具修理専門に切り替えた。競争相手があのデトロイトに現れるはずがなかった。失礼だろうが、実際アメリカの女性は繕い物なんて得意ではない。一方、白人兵士たちと結婚して、追

い出されるように日本を去ってデトロイトにやってきた十数名の日本婦人があたりに居た。皆金が要るのに職がなく、働きたがっていた。

次々に彼らを見つけては、姉御肌の恵子さんが雇った。店が繁盛した。

人口が数百万だったデトロイト全市で、壊れた装身具を上手に、まともに修理してくれて、しかも信用できる店は恵子さんの店のほかにはなかった。

● 月に一回ぐらい、ラファイェット塔の公共の集会室で、恵子さん仲間十数名が、ご亭主同伴で、日本料理を詰めた重箱を持ち寄せては集まった。大抵、夕闇がせまる黄昏だった。集会室の真ん中の大きなテーブルに重箱と恵子さんが毎度つくる茹蛸の皿とビールとウイスキー瓶が満載された。女性は食物をつっつきながら盛んに日本語を、久闊の仲間と喋るだけ喋った。可哀想に、彼女たちがあのデトロイトで故郷の言葉で喋れる相手なんて居なかったから。

彼女に伴ってやってくる男たちがフルっていた。大抵、背高く、男前はたいていＡ－かＢ＋。痩せぎすで、無口が多く、学歴が高卒の労働者ばかりだった。

南部アクセントで話す連中が多かったのは、南部からの移住民の倅だったからだろう。デトロイト市警察の警官は殆ど南部出身の白人だった。だから、彼らの黒人市民扱いが手荒らなことが定評だった。

そのころ、南部では黒人差別がまだ残っていたし、デトロイト人種暴動直前だったのに、ジョージアやらアラバマ訛りの連中が日本婦人と結婚してデトロイトに戻って来ていたあのころのデトロイト社会が僕には未だに理解できない。

通常、その集会室の壁のまえに、ご亭主たちは煙草を口に咥えたまま壁にへばりついて、無口で座り続けた。労働階級のアメリカ人男性はおおむね社交馴れしていない。未知の男に話しかけることは一種のタブーだ、（それはオカマがやることだと前提されている。）

見知らぬ人と話すのが下手で、未知の男に愛想よく話しかけ、自己紹介し、握手しないのは日本人男性に少し似ている。上流階級ならともかく。

だから、英語と日本語を両方とも話す僕がいつも会話の円の中心になったし、相談相手になるのがオチだった。

「何故トムは英語をアクセントなしに話すの？」とよく彼らが言った。（満洲で１２歳の時から僕が英語を話しながら育ち、太平洋戦争中僕がハワイのＫＲＨＯに短波で聞き入ってたなんて、彼らの理解能力を超えた。）

● 思い出すあの時代からもう半世紀の月日が流れてしまった。フィラデルフィアの僕に、恵子さんは月に一回ぐらいデトロイトから電話をくれる。

４０年前に、彼女は亭主を自動車のごとく取り替えた。「亭主と自動車は新品ほど良い。」

そして彼女より２０歳はたしかに若い男が恋女房じゃなくて、ながもちする恋亭主だ。子供は居ない。そして、二人はデトロイト北郊の広壮な家に住んでいる。

あの仲間の子供たちもそれぞれ専門職について成功して、孫の時代になってしまった。

孫の代になると、「日本」はもう昔話。祖母は日本人「だったらしい」と言われるのが関の山だ。仲間女性で離婚した人は一人も居ない。皆さん幸福に暮らしている。ただ、ぼつぼつ亡くなり始めている。

恵子さんは亭主を取り替えただけだけど、その若い亭主だって彼女ともう４０年も一緒にくらしたままだ。

そして、デトロイト自動車産業はほぼ潰れた。

★★

★ 日米通信。

東京のしんやから。

昨日はよほど疲れていたようだ。何もする気力もなく、とにかく眠った。６時４０分に目がさめたがまた眠り込んで、７時半の嶋名の電話で起こされた。

ひどいものだ。それほど働いたわけではない。体力に自信がなくなったよ。それでもさすがに寝足りたのだろう。のろのろ起きて、朝食にして、やっと人心地がついた。広子のところに行きたかったがあきらめた。外は雨が降ったりやんだり、すっきりしない。
今朝の新聞にアイルランドの作家フランク・オコナーの短編集（岩波文庫）の書評が出ていた。アイルランドで大作家といえばジョイスとベケットだが、好きとは言いにくい。愛すべき作家だったらオコナーとショーン・オフェイロンだ、という。オフェイロンは知らないが、『アイルランド』、『アイルランド短編集』が岩波文庫にあって、オコナーと並べていい、と書いている。僕は長田弘の本で、アメリカの女流作家、フラナリー・オコナーという作家のことはちょっと知っているが、アイルランドの作家のことは知らなかった。君は知っている?

金さんの言っている実体経済の収縮とは、要するにお金が動かなくなる、ということだと思う。僕らのような収入の少ない人間にとっては、物価の上昇が何よりこわく、出来るだけお金を使わないようにしようと思う。同じことをすべての人間が考えれば経済は収縮する。結局はアイスランドが象徴するように、お金は大きくどこかに流れているのだと思う。お金はもうけになるところに行くと思うが、それはどこか。

昨日、聖徳小学校の同窓会で、会長の交代やなにやら会があったが、友人の一人が僕と同じような形で浅田次郎を読んでいて、彼の言うには浅田の小説は中国人の名前やせりふに中国語のルビが振ってあって、それが便利だ、といっていた。これは僕の気のつかなかった点で、彼は中国語に関心が深いからだったと思う。張作霖に、いちいちチャンズオリンとルビがつき、小説を読みながら発音していたら多少は身につくかもしれないね。

この次の『あかしや』に、「あかしや」の執筆者別総索引をつけようと思う。いつまで続くかわからない『あかしや』だが、今のうちに使いやすい索引をつけるべきだと思った。君に手伝ってもらってもいいが、方式について相互理解がつかないとうまく行かないのではないかと心配している。たとえば題のない文章を、内容によって手紙とするか、無題とするかなど。１５号まで作ったからこのままつづける。進也、１２時半

★★★

Comments

1　■中国語ルビについて

お友達のお話、嬉しかったです。ルビも考証（というより校閲）の対象ですから、神経をつかった甲斐がありました。中国語は非常に音楽的な言葉で、四声と呼ばれる音調（声調）がありますから、実はルビだけでは音調が再現できないし、また中間音も多く、完全にはかたかなで表現しきれない音もあるのですが、浅田さんがどうしても中国語の美しさを小説に取り入れたいとおっしゃるので、浅田さんの原案に多少修正を加えつつ、可能な限り原音に近い表記にしました。ちなみに満洲語のかたかな表記、会話作文がいちばんたいへんでした。小説が描く時代（19 世紀末から 20 世紀）にはもはや満洲族でも話せないし読み書きもできない言葉ですから、「文法的に考えてこうであろう」という前提で、専門家と相談しながら作りました。今思えば楽しい作業でした。
澁谷由里 2008-10-27 19:04:13

回顧録　戦争花嫁。続。

October 28, 2008
日記。１０月２４日、２７日。日曜日と月曜日。

★　東京のしんやから。
デトロイトの恵子さんの話、面白く読んだ。英語を十分に学んで行った訳ではない。戦争花嫁はいわば裸一貫で渡米した。ある意味で勇敢だし、夢もあったのだろう。生き抜いた恵子さんは立派だ。

ところで、君はある程度想像で書いたが、日本の現実は複雑だった。パンパンガールは当然軽蔑されたし、それに抵抗して彼女らは余計に挑発的だった。やまとなでしこの裏返しだ。僕は同時代者だし、目撃もしている。米軍の兵士が進駐してきて半年くらいにもう姿を現したように思う。

ただ、アメリカにいけるようになるのはそんなに早い時期ではなかった。初期の米兵はもちろん娼婦として付き合ったのだと思う。嫁さんにするのは大分たってからだと思う。当然ながら、すぐに混血児の問題が発生する。親に捨てられた混血児が社会問題になり、自費で孤児院『エリザベス・サンダース・ホーム』を作った女性がいた。進也、１８時

★　Ｔｈｏｍａｓ　から。

●　ソウルに居た時の２０ヶ月の殆どをＵＳＡＭＧＩＫ朝鮮（駐留米国軍事政府）の従軍牧師室（宗教部）で秘書をして働いた。時々、朝鮮娘と恋に落ちた兵士が恋人同伴で僕の上司である牧師に結婚したいと申し出て来た。そのころ、上司の牧師が「忠告」したのをよく傍で聞いた。人種の壁を越えて生活する困難、産まれる子供をどうするか、世間がおいそれとアクセプトしてくれるかなど、まだあの頃だったから今のＰＣ態度のまる反対なチュウコクだった。基本的に反対することはなかったけど。

それでも、反対を乗り越して国際結婚する男が少しは居た。だけど、アメリカに来てから、美人でないむしろ醜い日本娘にもたくさんあったし、よほど男が惚れこんだのだろうと思ったケースが大分有った。

僕が知ってる夫婦は,東洋人との国際結婚ケースはほとんど全部銀婚式を終えているし、子供に大學を卒業させた人々が多い。離婚はあまり聞かない、不思議だ。ぞっこんほれ込んだのだろうね。笑。

●あのころ、（何時だったかよく覚えていないが）　李香蘭がアメリカ映画に日本名（山口淑子？）を使った英語名 Shirley Yamaguchi で登場した。くだらない、お涙頂戴代物だったが、僕も視た。

日本に帰ってきた級友が７８ｒｐｍのレコードを買ってきて、聞かせてくれた。「あの子かわいや、カンカンむすめ」って行進曲風の戯れ歌だったが、知ってる？

とにかく当時は在米５年で、日本食と日本文化に飢えていたものだ。ミソシルが食べられたのは１５年はあとだったよ。それも、二度か三度だけだ。

シカゴの北クラーク街にあのころカリフォルニアから追い出された日系一世が経営する食堂が３軒ぐらいあったから、時々家内と長女を連れてシカゴにミソシルのためにアナーバーから自動車で出かけたものだ。運転が３時間はかかったと思う。ヒルトンに泊まったが、極安宿泊だったから変てこな合宿室みたいなものを宛がわれて、バスが二室両側にくっついていたし、ベッドが３台あった。長女のアナスタシアが大喜びでベッド３台に飛び渡っては跳ね上がって往生したのを覚えている。あの子ももう５０近くになってしまったね。

★★★

Comments

1 ■映画サヨナラ

先年亡くなったナンシー梅木の映画サヨナラは、まさにその時代の作品でした。接収されていた伊丹空港最後に国会議事堂前が映されています。

当時ロードショーであの映画を見たアメリカ婦人は、「心中」の場面でお客が泣いてねえ、と言っていました。

にゃにゃ 2008-10-28 00:09:28

随筆　漢字：日本語と英語への翻音。Ｔｒａｎｓｌｉｔｅｒａｔｉｏｎ.

October 29, 2008

★ 渋谷教授が下掲を書き込んでくださったので、一寸書く。

■中国語ルビについて

お友達のお話、嬉しかったです。ルビも考証（というより校閲）の対象ですから、神経をつかった甲斐がありました。中国語は非常に音楽的な言葉で、四声と呼ばれる音調（声調）がありますから、実はルビだけでは音調が再現できないし、また中間音も多く、完全にはかたかなで表現しきれない音もあるのですが、浅田さんがどうしても中国語の美しさを小説に取り入れたいとおっしゃるので、浅田さんの原案に多少修正を加えつつ、可能な限り原音に近い表記にしました。ちなみに満洲語のかたかな表記、会話作文がいちばんたいへんでした。小説が描く時代（19 世紀末から 20 世紀）にはもはや満洲族でも話せないし読み書きもできない言葉ですから、「文法的に考えてこうであろう」という前提で、専門家と相談しながら作りました。今思えば楽しい作業でした。

澁谷由里 2008-10-27 19:04:13

● 中国語を大連の少年時代に馬鹿にして、僕たちは酷い損をした。だいたい、チャン語と呼んで、真面目に

勉強する意欲が皆無だった。

１。注音符号を習ったが、子音と母音の組み合わせの根本的概念さえ無視されていたので、注音符号が純然たるアルファベットなのだと気が付いたのは、僕にとってはアメリカに来てからだった。時既に遅しで、こちらでは英語の注釈書を頼りに再復習するほかなかった。

● ところが、僕の世代は不運なもので、英語にはに三種類の transliteration 翻音方法が慣用されているのだ。

① １９世紀に欧州人により使われた翻音法。北京＝Peking。

② 学界で使われた Wade-Giles system: Peiching.

③ 中国共産政府が編み出したピン音、注音法。 北京＝Beiching.

結果として、同じ人名や地名である固有名詞の表記が英語には三種類あるのがほぼ普通だ。

● だから、論文を読んでいて、人名や地名の固有名詞にぶっつかり、さて同じ主題について詳述している英語文献を探そうとする場合、英語表記から漢字に戻れないのみならず、もしも日本語のカタカナで漢字が表記されている場合、迷路に入り込むことが多い。

日本の中国文化研究界でも、渋谷教授が苦心された表記法のようなものをさらに検討して、日本語の中国語注音方式乃至表記法の標準を確立することが望ましいと思う。（僕の感想では、文部省のＬｅａｄｅｒｓｈｉｐが重要だと思う。）

同じように、今になっても日本語による英語単語翻音方式も、標準化していない。

★ 新潟の襄から。 受信：月曜日、１０月２７日。深夜。

とむさん

朝からひどいお天気でした。 まだ夜も明けやらぬ頃から、雷に稲光、激しく打ち付ける雨音。
なんという週明けだと、ガッカリでした。

気温も下がり、寒い一日でした。あまりだるいので、熱でもあるのかと思って体温計を。・・・・・・平熱でした。
要するに、月曜日の「仕事したくない病」だったのでしょう。

今日のＢｌｏｇの、中身の濃いこと！ で、とても面白かったです。

恵子さんのことはこれまでにも度々伺っていましたし、ラファイエット塔の話題は、デトロイトの暴動と同様
何度聞いても興味深いですから。 副大統領候補への痛烈な嫌味も、楽しめました！！

渋谷先生、久々の登場ですね。

★ 東京のしんやから。 受信：米国時間、火曜日、早暁。

今朝は電話をありがとう。浅田次郎の本に固有名詞や単語に中国音のルビがついていること、渋谷さんの書き込みを読んでいなかった。なるほど、浅田さんが中国語が達者とはいえないから、こういう仕事は渋谷さんのおかげだろう。君のいうとおり中国音をローマ字で書くとさらに漢字に復元することが難しくなる。浅田次郎の本、そのうちに送る。

それから、ブログに出た「カンカン娘」の歌は知っている。下らない映画の主題歌で、歌っていたのは高峰秀子。

晴れて暑く（？）なった。着るものがいつまでたっても夏物だ。

フランク・オコナーの短編集を買ってきたので、２， ３篇読んでみた。うまいと思う。

金さんが書いているが、麻生総理はまだしばらく大臣をやっていたいらしく、解散を先送りしている。株価が２５年前まで下がって、不安が募っているが、どうにもなるまい。まだ下がるかもしれないが、そのうちに上がってくるかもしれない。とにかく、自分の力では解決しない問題だ。進也、１２時

★ Ｔｈｏｍａｓから。 受信：同上。

高峰秀子だったんだね、あの戯れ歌の歌手は。一種の階級抵抗歌として、面白がって聴いてたものだ。爆。
愛蘭作家を僕はあまり読んでいない、大学時代あまりに思想書に熱中して文学書をなおざりにした罰だ。起承転結だって、大学院に入って担任教授から作文に叱られて、大學一年生クラスに入って英語で作文をやりなおしたぐらいだ。だって、戦争時代に僕はそんなゼイタクができなかった。

それに、あの時代、しかたなしに僕は数学を専攻したし。だいたい、僕には数学をやる頭脳がない人間だった。それでも、どうやら稼いで、こちらでは生き延びたわけだが。

僕の仲間は愛蘭文学をよく知らない。オコナーも僕は読んでいない。日本の読者は感心だね。
だけど、愛蘭文学が英文学界を風靡していたのが事実だ。ダブリン英語が大英帝国内で一番清潔な英語だって昔よく聞いた。「ガリヴァー旅行記」のジョナサン・スイフトや「ピグマリオン」のバーナード・ショウだって愛蘭出身だしね、チャックはさすがによく知ってる、傍に彼が居るから、僕は家庭教師についてるのと同じだ。

ところで、愛蘭の名前だが、やはり露西亜のように父系伝承が露出する国なので、親父系の匂いが前に突き出

てしまう。

露西亜名前の二番目に　イヴァノヴィッチだとかロマノヴィッチだとかのＰａｔｒｏｎｙｍを現るイッチがくっつくように、原則として愛蘭苗字じゃ苗字そのものがＰａｔｒｏｎｙｍ表示そのものだ。（例外は多いし、英蘭名が入ってしまってもいる。だって、英国植民地統治７００年だろう？朝鮮じゃ併合２０数年ごにもう創始改名が起きた（笑）。

オコナーのオが表示字。オコネル、オマリイ、オハラなど。独逸名のフォン、フランス名のデュ、イタリア名のディと同じ。オと一緒にマクも使う。もともと愛蘭族はウエールス族やスコットランド族と一緒にゲール族で、ゲール語を話した民族だからスコットランドの名前と仕様が共通している。マクドナルドはもともとスコットランド名だ。

★★★

Comments

1　■音表記の標準化

今すぐの導入は、問題があると思います。

経済的な負担も大きいですし、かなり混乱してしまいます(＾＾)

それに、その国の音を、それぞれの国で「正しく」表記するには限界があります。

文学的ならまだしも、経済的ではありません。

実際に、判断する事が出来ない場合が多いですからね。

cf.

日本人の「B」と「V」や、「L」と「R」など。

「V」はヴィーナスなどに使われていますが、「B」よりに発音しています。

他にも、有名なのは「H」の発音が出来ない仏蘭西や、

語頭の濁音が出来ない韓国など。

中国に至っては全てを漢字にしますから、もっと大変です(＾＾)

アルファベット語圏でも表記や発音が、各国で同じではありません。

“Michael” “Michel” “Mikaelo” “Mikail” “Miguel”

結果、慣用的に相互に読む方が楽ですね。

(日本では、中国は相互読み、韓国は現地読みですが)

cf.

漢字の音読みには、呉音・漢音・唐音があります。

「行列」「行進」「行灯(あんどん)」

他にも色々な理由で、言葉だけでなく名称自体が置き換えられる事があります。

「赤十字社」=「赤新月社」

*****

追補(^^)
「音」は時代と共に変化しますからね。
特に日本語は顕著に変わりました。
綿貫朔太朗 2008-10-29 03:24:50

2 ■No Title

貴重なコメントありがとう。
英語圏に住んでいて日本語を使いながら時折淋しく思うのは簡単な英語辞典（e.g.Webster's Collelgiate Dictionary)でも語源掲示がちゃんとあることです。日本語辞典の場合、少なくても呉音、唐音、漢音だとか、朝鮮音などのの一寸した委細が知りたい。音韻変化の歴史が東洋ではあまりに等閑にされていると思います。

この事柄について、朝鮮語辞典の場合も、ほぼ同様です。アメリカの大学一年になって、すぐ覚えたのは欧州言語のＧｒｉmm’ｓ　Ｌａｗでした。一寸衝撃をうけたのを覚えています。
thomas-penfield 2008-10-29 03:55:54

3 ■字典はどうでしょう(^^)

簡単な分であれば字典(漢字字典「字源」など)の後にある説明が有用ですね。
辞典(広辞苑など)や事典などよりはご参考になるかと思います。
専門的なものは調べてみないと解りません。
(当然歴史も重要です)

確かグリム童話の兄弟ですね(^^)
綿貫朔太朗 2008-10-29 13:45:43

4 ■詳細

服部四郎氏の文献(多数)が、希望に近い様ですね。
(済みません。専ら使う方で、研究の専門家ではありませんので)
綿貫朔太朗 2008-10-29 21:19:27　Reply to this comment

5 ■脚を引っ張る様ですが、Beiching は誤り

Dear, Mr.Thomas Penfield
トーマスさま

"Transliteration" と云う単語の存在とその用法、初めて知りました。勉強になりますですね、このサイトは。ご教示、有難う御座います。

しかしながらトーマスさん、貴方が提示されている「中国共産政府によるピンイン表示の北京==Beiching」は、誤りです。
現行のピンイン方式では、捲舌による有気音"ch"に、母音(韻母)の"ing"は結びつきません。正しくは、"Beijing"です。
つまり、
×：Beiching →◎：Beijing
が正確な表記です。

一目みて「これは誤りだ」と分かりましたが、

1) あなたが日本民族や日本語に対して愛憎あい半ばするフクザツな感情を有する心境は、このブログに於いて何度----少なくとも２回以上----も自ら公言されている上に、

2) 「その内、誰かが指摘してトーマスさんが自ら訂正されるであろう」と高を括って、

待機していたのです。で、どなたからも指
摘が無いので、投稿する次第です。
(字数制限のため、後半を割愛します)
Yozakura 2008-11-01 14:18:45

6 ■投稿の後半部分です
指摘ついでに、もう一言書き添えておきます。
漢字で表記された中国の固有名詞や単語に、中国語に拠る読み仮名(ルビ)を苦心して振付けたとの由、ご苦労な作業だとは思いますが、原作者の欲求不満と焦燥が伝わってくるだけです。

もともと、日本語と中国語とは、言語としての成立経緯、文法構造や音韻構成、日常の使用環境など、全く異なる言語です。完全に「別物」なのです。
成る程、発声時に於ける流麗な旋律や躍動感ある語調は、中国語に特有の美しさなのですが、それは飽く迄も「中国語の世界の事象」です。日本語とは無関係であり、別物なのです。
日本語で表記された漢字にいくらルビを振ったところで、原典・原文にある「流麗な旋律や躍動感ある語調」は再現不能なのです。「流麗な旋律や躍動感ある語調」は、話者自らが発話・発声して、その中にドップリと漬かって生きていき、体感により味わうしか、他に方途は無いのです。

現代日本の文学界でも有数の筆力を誇る直木賞作家・浅田次郎にしてみれば、素材に固有の美しさを、筆を以って活写し得ない自分自身に、焦りを感じる経緯は、余人にも十分に推測できます。
そして、原典の打つ駆使亜さを再現し得ない技量に欲求不満を募らせる余り、澁谷教授の手を借りる仕儀となったのでしょう。
しかし、日本語と中国語とは、完全に別者であり、両者は「異なる世界」を築いているのです。日本語と満州語に就いても、同様でありましょう。

園芸愛好家の隣人・トーマス氏が、丹精込めて栽培した百合が、紫色の美しい花を咲かせた。嗚呼、何と素晴らしい色だ!!!

何とか真似をしたい!!

そこで、嫉妬と羨望が嵩じる余り、自宅の庭に咲いている美しい「白い百合の花」にペンキを塗って、何と「紫色の百合」に塗装して仕舞った----とすれば、これは「子供よりも愚かな振舞い」でしょう。

「隣家のトーマス氏はトーマス氏、私は私」なのです。そう思いませんか、トーマスさん？

Yozakura 2008-11-01 14:20:10

7 ■誤字訂正です。申し訳ないです。

トーマス様

直前 14 時 20 分付けの私の投稿、先頭より 15 行目に誤字がありましたので、大急ぎにて訂正します。

×：原典の打つ駆使亜さを再現----

◎：原典が擁する美しさを再現----

注意をしてはいるのですが、一人の校正作業では、中々思い通りの仕上がりには至らない場合もあります。失礼しました。

Yozakura 2008-11-01 14:35:35

8 ■No Title

ご指摘、ありがとうございました。

thomas-penfield 2008-11-01 15:07:14

9 ■お礼のコメント、拝見。再訂正です。

トーマス様

迅速なる謝礼コメントの記入、拝見しました。叮嚀な応接、有難う御座います。

で再度、私の記入コメントを読み返してみました。所用あって書き急いだ所為でしょうか、投稿後半の結論めいた部分の記述に、配慮が欠けていた模様です。その部分のみ、以下のように書き直してみました。

×：「隣家のトーマス氏はトーマス氏、私は私
」なのです。

◎：「紫色の百合には、紫の美しさ。白い百合には、白の美しさ」なのです。

此処で記述すべきは、隣人間の嗜好や性向、人格の相違を直接に論じる牽強付会な比較ではなく、彼等が栽培する植物の相違対照を通じた、間接的な比較でしょう。

別用あって急いでいたのが、良くなかったようです。失礼しました。

Yozakura 2008-11-02 02:40:24

10 ■こちらはどうでしょうか(＾＾)

http://ja.wiktionary.org/wiki/

Wikipedia の姉妹プロジェクトです。

韻も丁寧に書かれており、ちょっとした事であればこちらで十分かと思います。
綿貫朔太朗 2008-11-06 02:04:14

歴史　フィラデルフィアの朝鮮史跡、＃1。韓人聯合議会、第一次韓国独立議会。

October 30, 2008

★１８５３年にペリー提督が米国太平洋艦隊を率いて浦賀に来て、開国を要求した。開国後、江戸幕府が大政奉還をなし、明治維新が現実となったのは１８６８年だった。

一方、朝鮮王朝は鎖国の夢に固執したまま、１８８４年の甲申政変を経て、１８９４年に日清戦争勃発を経験したあと、１９０４年日本と露西亜の葛藤の結果１９０５年にほぼ完全に日本の保護国化したが、所謂日韓併合により独立国家としての韓国は１９１０年に崩れた。

併合後、朝鮮半島は明治政府の武断政治（言い換えれば武断占領）に晒された。

今から考えると、明治政府の武断占領は欧州帝国主義の植民政策を踏襲していたとは言え、同化を前提していた奇妙な和洋折衷政策でもあった。徳川の参勤交代制度の諸藩を基礎とした３００年の後、明治維新がもたらした日本内諸藩の均質化統一の延長であったかもしれない。

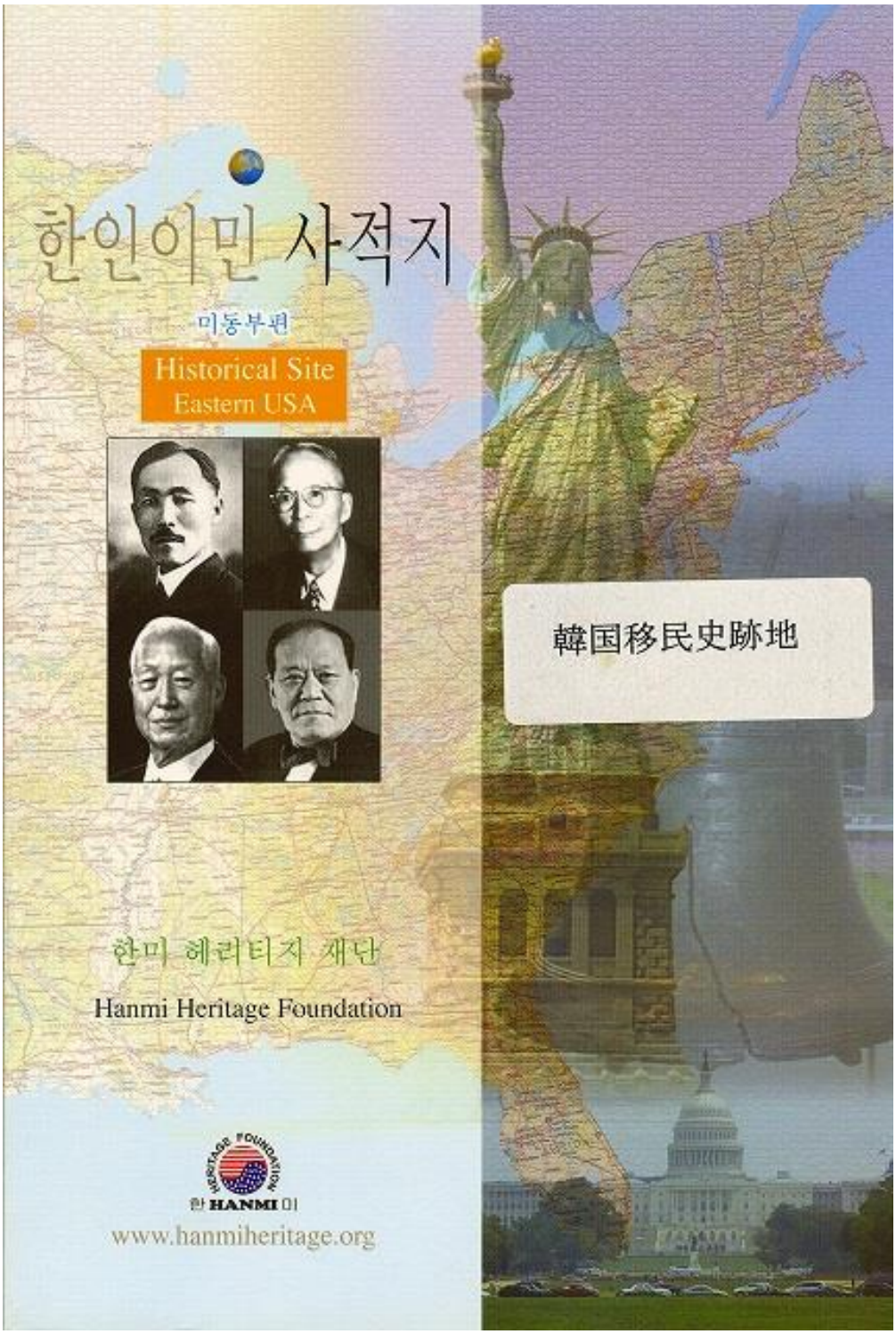
1600 年前後の愛蘭騒擾鎮圧後、クロムウエル統率下に英国は愛蘭住民をシャノン河以西に追放し、土地測量を施行した結果の土地台帳を基礎に土地を没収した。そして、罪法とよばれた布令により、愛蘭住民の生活を縛った。シャノン河以西に移住しなかった住民は不法居住者として逮捕し、カリブ海に奴隷として売り飛ばした。

現在、愛蘭国内で愛蘭国語を話す愛蘭民衆は１％を越さなく、ゲール・タハトと呼ばれる「僻地」に」限定されてしまっている。それでも、１８４８年度に紐育に到着した愛蘭（避難）移民女性の４０％は英語を解しなかったと言われている。明治維新前後からほぼ半世紀のあいだに、愛蘭住民は急速にゲール語から英語に移ってしまった。現在、愛蘭でゲール語を話す人口は全人口の僅かに１％だと言われている。

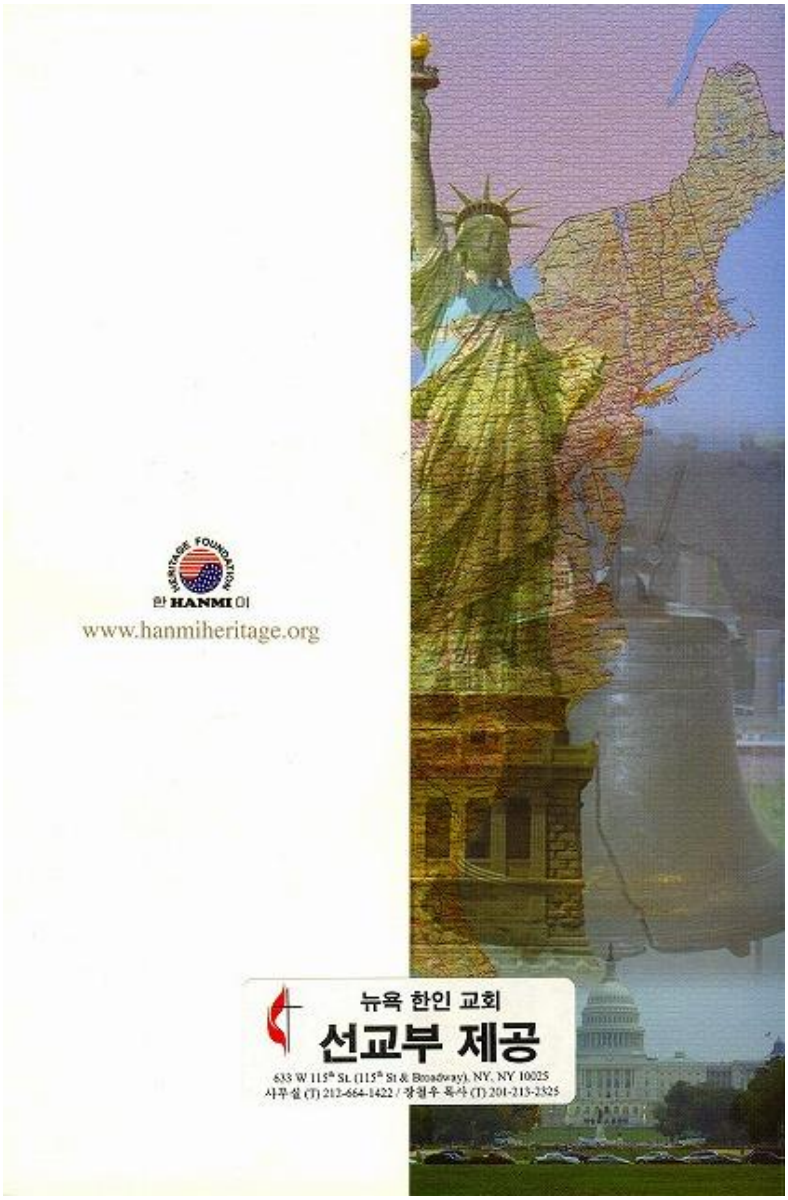
だが、日本政府は日本内地から優秀な小学校教師を派遣して、皇民化教育を推進した。当初、学校教師も警察官なみにサーベルを下げていた。朝鮮族の習慣と心理反応を無視した統治政策が摩擦を惹起しないはずかなかった。
しかしも派遣された教師たちに優秀な人たちが多かったのも事実だ。

１９４８年に僕は来米して、紐育市の日系市民聯盟遠足に参加したことがある。その時、一世の多くが移民社会に残る「県人会」について僕に語った思い出がある。19 世紀の明治時代に於ける日本社会の国家観念にはまだ江戸幕府統治下の諸藩意識が温存していたと思う。

併合９年後の１９１９年には朝鮮独立を要求する運動が勃発した。１９２０年代を通じて、朝鮮語新聞だった東亜日報はアイルランド自治運動に関する記事を二百回以上掲載したといわれる。１９１９年に起草、宣布された独立宣言書は格調の高い文章だった。（自治運動が独立運動に変転した結果のアイルランド独立宣言は、既に１９１６年にダブリンで引き起こされていた。）



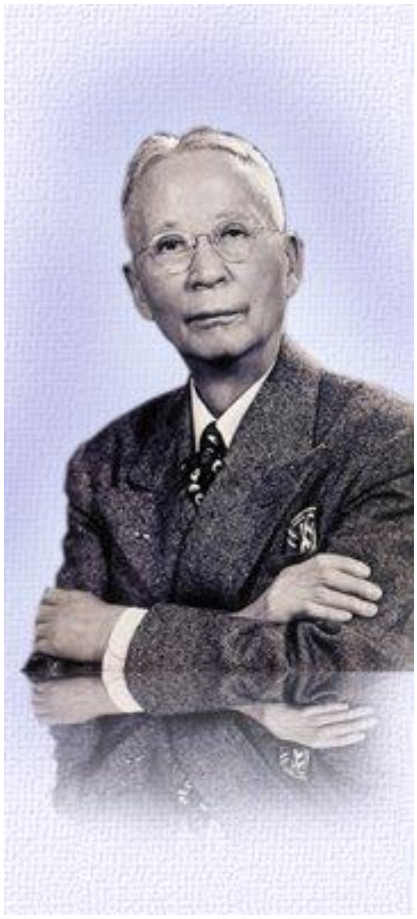
紐育の金さんが最近韓米協会により刊行された「韓国移民史跡地」誌を送ってくれた。



朝鮮王朝崩壊後の韓国移民に纏わる米国東海岸各地史跡が羅列されているが、１８８６年の甲申事変（革命）が失敗に終わり、日本を経て米国に亡命した人々の一人徐載弼にまつわるフィラデルフィア史跡が示されている。

徐載弼は１９１０年の韓国滅亡の時点において、既にアメリカに来ていた。彼は 1864 年に生まれ、1882 年に 18 歳で科挙に合格し、1883 年から 1884 年まで日本に留学生として送られて戸山陸軍士官学校で学び、1884 年 12 月 4 日に甲申革命に参加している。周知のごとく、この革命は三日天下に終わった。

失敗後、彼は日本を経て米国に朴泳孝と徐光範に随行して亡命した。当時僅かに 20 歳だった彼は最年少で、徐光範は同族で父親世代の人だった。1886 年から 1869 年にかけて、徐載弼はペンシルヴェニア　ウイルクス・バールのハリイ・ヒルマン学校を卒へたあと、1890 年に米国に帰化し、1892 年には 28 歳で医学学位を取得している。

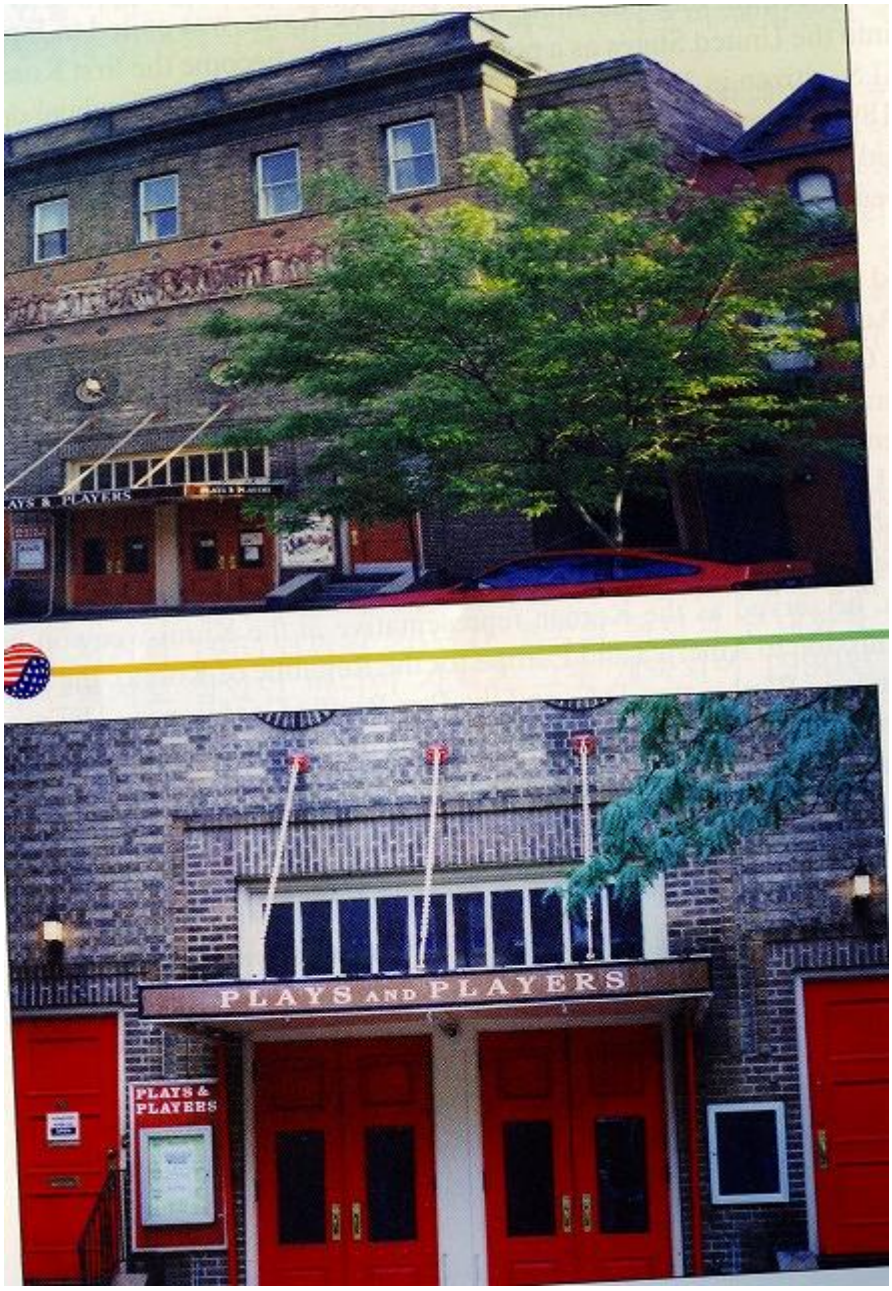


僕が１９４６年１１月に南朝鮮に戻り、翌年３月に米軍軍政府の「宗教部」で秘書をした。欧米から派遣されてきていた欧米普通人たちを扱う宗教部の部屋は軍事郵便局の観を呈していた。少年の僕の役目の一つは郵便物取り扱いだった。

その結果、僕は徐載弼の次女ミュリエルとは時折話した。彼女は僕の母より少し年下の若い「小母さん」だったが、ずっと若く見えた。徐載弼について今回インタネットで知ったが、彼女の母、ミュリエル・アームストロングは米国大統領ジェームス・ブキャナンの姪だった。（そんなことは、勿論当時知りもしなかった。）次女だった彼女は母親の名前を引き継いだことになる。フィラデルフィアに来てからＭｅｄｉａ在住の友人から告げられたが、姉さんがステファニーで、一人息子が３０年前までは僕の自宅の隣町であるＭｅｄｉａに住んでいたが、恐らく姉妹二人とももう物故したことだろう。

僕はソウルを１９４８年８月に去り、ミュリエルは父と米国に同年秋に帰った。

徐載弼については、Ｗｉｋｉｐｅｄｉａ記述に記載されているから、詳述しない。そして、徐載弼のアメリカ生活詳細に関しては、よく知っているわけではない。

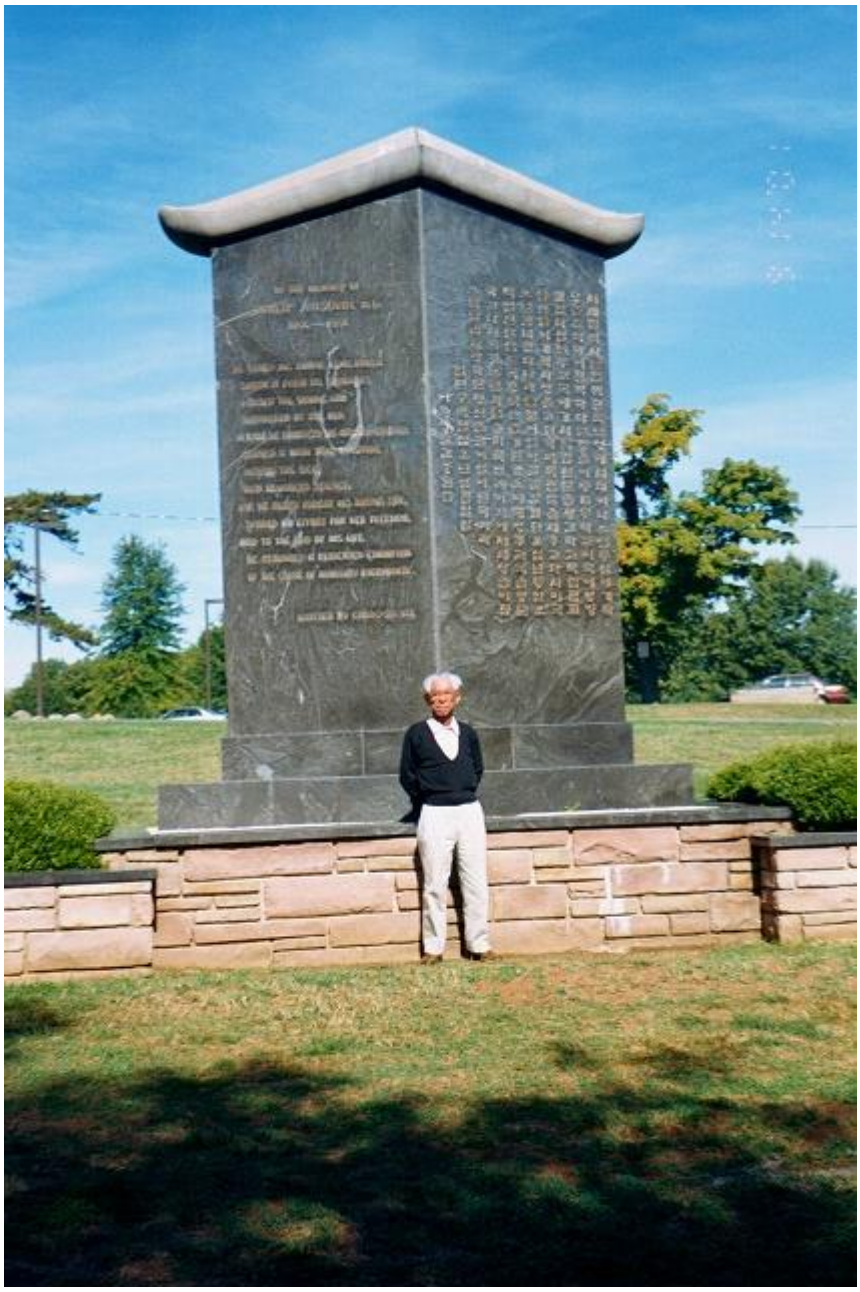


韓国で現在３・１事件とよばれる独立要求運動が起きたとき、それに平行してフィラデルフィアでは徐載弼が先頭にたって、独立議会をこの劇場に召集した。これが韓国議会として最初の集会だった。そして徐載弼が議長だった。

１９１９年４月にここにアメリカ全国から祖国独立を渇望する人々が集まった。そして、議会後、ほぼ１５丁離れた独立公園にある、米国独立宣言書が起草背宣布されたＩｎｄｅｐｅｎｄｅｎｃｅ　Ｈａｌｌに全員示威行進した。デランシイ・プレイスと１７丁目にあるこの劇場は未だに残っている。

ほぼ 80 年後の 1979 年に、ブリンモア大學図書館副長だった僕はこの独立議会の議事録をフィラデルフィアで入手して、その図書館に収めた。その議事録は現存しているはずだ。

そして、1925 年から 1950 年代中期まで徐載弼一家が住んだＭｅｄｉａメーディア郊外のＲｏｓｅｔｒｅｅ公園には徐載弼を称える記念碑が 1970 年代中期に建てられた。下掲写真は東京のしんやが 2001 年に僕をアメリカに訪ねてきてくれた時、撮影したもの。この記念碑建設に尽力されたペンシルヴェニア大學数学教授夫人の林・ヒヒュンさんはブリンモア大學図書館でチャックと僕の同僚だった。



★新潟の襄から：

とむさん

味噌汁が飲めたのは、１５年後ですか！私はお世話になった２週間、毎朝とむさんから味噌汁を作ってもらいました。アメリカで飲む味噌汁は、美味しかったですよ。豆腐もあるんですもんね！鰹だしが有り難かったです。

私達にとって、醤油と味噌は、欠かせない調味料です。醤油にはそれほどこだわりはありませんが、味噌はこだわります。理想は、子どもの頃、親戚の家が作っていた自家製の味噌。我が家でも味噌を作りましたが、自分の家のものではなく、親戚の家の味噌が私の好みでした。子どもの頃のことです。４０年以上も昔ですね。

味噌など数え切れないほどの種類が、金額も様々、山のように店頭に並んでいますが、自分の好みに合うものは一つだけ。身近なスーパーマーケットには置いてないので、母の所に帰った時に手に入れてきます。この前新米を貰いに行った時に、味噌も買ってきました。これでしばらくは安心です。

雨の毎日です。ビックリするくらい気温が下がりました。息子は風邪気味です。私も気をつけます。

★　Ｔｈｏｍａｓから。

味噌がきれてしまいました。近いうちにあのＵｐｐｅｒ　Ｄａｒｂｙ町の韓国系Ｈマート食料品店で日本産ダシイリミソというものを仕入れて来ます。

ただ、糖尿病の僕にとっては、味噌の使用上限一単位が０．３ｇｍです。塩分が多いからね、シカタガナイ。

★★★

Comments

1　■徐載弼

以前ご紹介した、岡本隆司氏の『世界のなかの日清韓関係史』pp.170-1 にも徐載弼の話が出てきます。1895 年末、金弘集政権に招かれて帰国してから『独立新聞』を発行し、独立協会を設立し、96 年に独立門を建設したこと、こうした「独立」運動は、前近代における清朝に対する「属国自主」というスタンスを大きく変化させたこと、金政権は徐らの政府批判に悩まされながらも主張そのものは黙認したこと、こうした動きにおされて高宗がロシア公使館から還御することなどが書かれていました。今回アメリカでの生活ぶりも教えていただき、「朝鮮独立」に献身した徐載弼の、活力の原点を見る思いでした。またいろいろご教示ください。

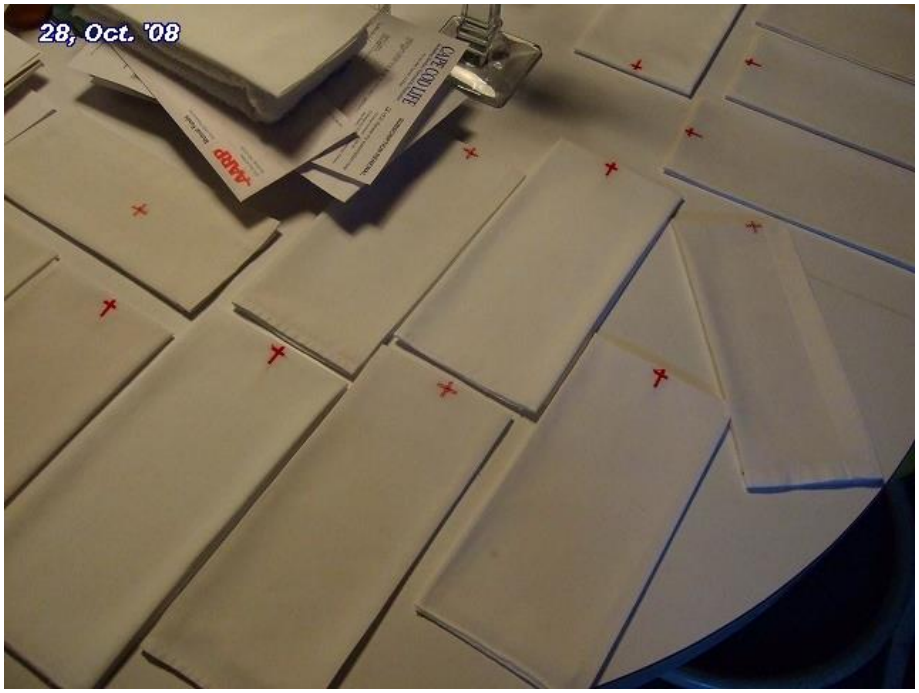
澁谷由里 2008-10-30 15:23:45

風景描写　**深まる東部アメリカの秋。**

October 31, 2008

写真日記。10 月 30 日。

秋が深まりました。僕の家から 8 軒ばかり離れているペンフィールド高速電車駅の周りの林も急速に紅葉しはじめています。この写真は僕の自宅から 7 軒ほど離れたＰｅｎｆｉｅｌｄ急行電車駅から西に向って撮ったもの。この電車線はアメリカでもおそらく最古の高速電車線の一つでしょう。フィラデルフィア地下鉄の 69 番街終点とノーリスタウン駅を連結して、メインライン（鉄道本線）区域を横断しています。



これが、チャックが洗い、乾燥し、糊付してアイロンをかけた聖餐用の聖布。

★★★

Comments

1 ■No Title

おひさしぶりです！

こちらも既に紅葉です！

しかもすごく寒くなってしまって

今朝は摂氏０度になりました。

風邪などひかないよう体に気をつけてくださいね！

papapayapa 2008-10-31 04:14:48

2 ■No Title

ほんとにおひさしぶりです。

元気な模様で、なによりです。

今年はアメリカに燻っています。

欧州に戻りたいけど、何しろこの不景気と弗安でね。

書き込みありがとう。

Ｔｈｏｍａｓ

thomas-penfield 2008-10-31 04:57:33